

平成21年度研修事業の概要 (各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長・教頭等の教職員に対する 学校管理研修

1. 教職員等中央研修

第1回 校長、教頭等研修（非宿泊・大阪）	1
第2回 校長、教頭等研修（非宿泊・東京）	3
第3回 校長、教頭等研修	5
第4回 校長、教頭等研修	7
第5回 校長、教頭等研修	9
第6回 校長、教頭等研修	11
第7回 校長、教頭等研修	13
第1回 中堅教員研修	15
第2回 中堅教員研修	17
第3回 中堅教員研修	19
第4回 中堅教員研修	21
第5回 中堅教員研修	23

2. 事務職員研修

小・中学校	25
高等学校	27

3. 教職員等海外派遣研修

英語教育コース：6ヶ月	29
英語教育コース：2ヶ月	30
国際理解教育コース：3ヶ月	31

② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者を養成するための研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	33
第2回	35
2. 学校評価指導者養成研修	
東部ブロック	37
西部ブロック	39
3. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	41
4. 国語力向上指導者養成研修	
東部ブロック	43
西部ブロック	45
5. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	47
北海道・東北ブロック	49
関東・甲信越ブロック	51
東海・北陸ブロック	53
近畿ブロック	55
中国・四国ブロック	57
九州ブロック	59
6. 環境教育指導者養成研修	
東部ブロック	61
西部ブロック	63
7. 生徒指導指導者養成研修	65
8. 人権教育指導者養成研修	67
9. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	69
西部ブロック	71
10. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
北海道・東北ブロック	73
関東・甲信越ブロック	75
東海・北陸ブロック	77
近畿・四国ブロック	79
中国・九州ブロック	81
11. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	83
12. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	87
日本語指導者用コース	89

13. 子育て支援指導者養成研修	91
14. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	93
中部ブロック	95
西部ブロック	97
15. 健康教育指導者養成研修	
東部ブロック・推進コース	99
東部ブロック・専門コース	101
西部ブロック・推進コース	103
西部ブロック・専門コース	105
16. 学校安全指導者養成研修	107
17. 食育指導者養成研修	
推進コース	109
専門コース	111
18. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校評価と学校運営：A－1団	113
学校評価と学校運営：A－2団	114
学校評価と学校運営：A－3団	115
学校評価と学校運営：A－4団	116
キャリア教育：B－1団	117
キャリア教育：B－2団	118
小学校英語：C－1団	119
小学校英語：C－2団	120
国語力・読解力：D－1団	121
国語力・読解力：D－2団	122
国語力・読解力：D－3団	123
伝統・文化の教育：E－1団	124
伝統・文化の教育：E－2団	125
心身の健康教育：F－1団	126
心身の健康教育：F－2団	127
生徒指導・在り方生き方の指導：G－1団	128
生徒指導・在り方生き方の指導：G－2団	129
学校と地域等との連携：H－1団	130
学校と地域等との連携：H－2団	131
理数系教育：I－1団	132
理数系教育：I－2団	133
理数系教育：I－3団	134
特別支援教育：J－1団	135
特別支援教育：J－2団	136

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業・理科教育教員派遣研修	138
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用に関する講義と実習）	141
農業：A－2（バイオテクノロジーに関する講義と実習）	143
工業：B－1（先端ロボット技術について）	145
工業：B－2（工業における知財教育の在り方）	147
商業：C－1（新商品開発と起業に関する講義と実習）	149
水産：D－1（海洋環境の保全に関する講義と実習）	151
家庭：E－1（食育の推進や食生活の変化に対応した食分野の指導についての講義と実習等）	153
家庭：E－2（子どもの発達、子育て支援及び現代の家族関係などについての講義と実習）	155
看護：F－1（看護師教育の新カリキュラムに対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習）	157
情報：G－1（ネットワークとシステム開発に関する講義と実習）	159
技術：H－1（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して（東部がゆかり））	161
技術：H－2（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して（西部がゆかり））	163
家庭：I－1（学校における食育の推進：技術家庭科における食に関する指導）	165
家庭：I－2（幼児触れ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と演習、実習））	167
3. 産業教育実習助手研修	
農業（農業及び農業教育に関する講義等）	169
工業（工業及び工業教育に関する講義等）	171
水産（水産及び水産教育に関する講義等）	173

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長・教頭等研修		
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受 講 対 象	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 〔幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者〕		
開 催 期 日	平成21年 7月21日 (火)～平成21年 7月24日 (金) 平成21年 7月28日 (火)～平成21年 8月 5日 (水)	13日間	
受 講 人 数	計画人数	50 人	受講者数 86 人 参加率 172.0%
開 催 場 所	新梅田研修センター (大阪府大阪市福島区福島6-22-20)		

※全体計画人数 2,150 人、受講者数 1,593 人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	67	18	0	0	0	1	86
割合 (%)	77.9	20.9	0.0	0.0	0.0	1.2	
	85	98.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい講師の方々の下、とても有意義な研修ができました。 ・有意義な11日間でした。今後とも最新の知識・情報・技術を習得できる研修(講義・演習等)を設けていただきたいと思ひます。 ・異業種の方の講義は大変刺激になりましたので、もう一人くらい増やしていただければ、別の視点で学校を見直すことができるのではないかとと思ひます。 ・学校とはかかわりの少ない一般企業の方や技術者、芸術家、文化芸能関係の方のお話が大変興味深く、有意義であったと思ひます。普段、学校の中だけで自分自身の人間としての枠を広げる意味で、さまざまな方々の「お話」を聞いてみたいと思ひました。 ・全11日のプログラムに多種の研修を取り組んでいただき、ありがとうございました。全て大変参考あるいは有用な研修でした。もっと時間をとってゆっくり説明を聞いたり質問ができたりすれば、さらによかったと思ひます。 ・全体の時間枠とのバランスがあると思ひますが、講義と演習の組み合わせは参加している者にとっても大変有難く感じます。演習が可能な領域については、できるだけ取り入れていただきたいと思ひます。 ・講師の方々から多くの貴重なお話をいただけました。その内容は、今後退職まであまり聞くことのできない内容であったと思ひます。研修プログラムは素晴らしいと思ひます。 ・全体を通して普段聴けない著名な方々のお話を聞けて非常に有意義な3週間でした。いろいろお世話になり、ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化 ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保 ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第1回校長・教頭等研修(第326回)

平成21年 7月21日(火)～平成21年 7月24日(金)
平成21年 7月28日(火)～平成21年 8月 5日(水)

小学校・中学校 副校長・教頭

第1週		7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)	7月25日(土)	7月26日(日)	
9:30～9:45			9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明			
午前1		受付 10:00～11:15 オリエンテーション	9:45～12:15 教育法規Ⅰ	9:45～15:00 教育法規Ⅱ	9:45～12:15 学校評価			
午前2			辻村 哲夫	三ツ角 直正	加治佐哲也			
午後1		12:30～13:00 開講式	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)		13:45～15:15 リーダーとなるために			
午後2		写真撮影 13:45～14:45				杵屋五司郎 日吉 静永		
		教育改革の動向 15:15～16:30			15:15～16:30 学習指導要領			
		15:15～16:30 実践研究						
第2週	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)	8月1日(土)	8月2日(日)	
9:30～9:45		9:30～16:30 学校組織マネジメント	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明			
午前1			9:45～12:15 教育指導上の課題 (学習指導)	9:45～12:15 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:45～16:30 リスクマネジメント			
午前2			工藤 文三	河村茂雄	伊原正俊			
午後1			13:30～16:30 教育指導上の課題 (カリキュラム・マネジメント)	13:30～16:30 実践研究				
午後2			八尾坂修					
第3週	8月3日(月)	8月4日(火)	8月5日(水)					
9:30～9:45	9:30～9:50 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明					
午前1	10:00～11:45	9:45～16:00 学校管理運営演習	9:45～14:45 学校管理運営演習					
午前2	リーダーとなるために 酒巻久							
午後1	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)							
午後2			15:00～16:00 地方教育行政制度					
		16:00～16:30 演習確認	16:15～16:30 閉講式・事務連絡					

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回校長・教頭等研修		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受講対象	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任教長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)		
開催期日	平成21年 8月 4日(火)～平成21年 8月11日(火) 平成21年 8月17日(月)～平成21年 8月21日(金)	13日間	
受講人数	計画人数	100 人	受講者数 88 人 参加率 88.0%
開催場所	フロラシオン青山(東京都港区南青山4-17-58)		

※全体計画人数 2,150 人、受講者数 1,593 人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	78	10	0	0	0	0	88
割合(%)	88.6	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	88	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習により他都県の先生方と種々の情報交換ができて参考になった。 ・これから校長になった時の礎となる素晴らしい研修でした。 ・講義・演習がバランスよく計画されていて、とても充実した研修だった。講義は多岐に渡る分野から計画されているにもかかわらず、学校運営・経営に全て結びつく内容であった。改めてまとめを行いながら、それぞれが結びつきまとまっていくのを感じた。ここで得たものを学校・地域で広めていきたいと思う。 ・毎日素晴らしい講師なので感謝しております。今後も多方面からご指導いただけることが望ましいと思います。 ・今回の研修に参加できたことに、大変満足するとともに感謝しています。研修で学んだことを何とか活かせることが、私の今後の課題です。 ・11日間本当にお世話になりました。腰を落ち着けてじっくり学ぶことができ、学校経営力をつけるためにとても有意義な日々を送ることができました。まとめをしっかりし、自分のものとして身につけたことを校内はもちろん、市内の副校長会、教育課題研修会、生活指導主任会等で還元したいと思った。 ・どの講義も一流の方々なので、話に深みがあり、興味深いものでした。民間企業の方の講義は今後も設けて欲しい内容です。 ・リスクマネジメントの研修は、さらに時間をとってもらい、いろいろな事例を入れて研修したい内容でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化 ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保 ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第2回校長・教頭等研修(第328回)

平成21年 8月 4日(火)～平成21年 8月11日(火)
平成21年 8月17日(月)～平成21年 8月21日(金)

小学校・中学校 副校長・教頭

第1週		8月4日(火)	8月5日(水)	8月6日(木)	8月7日(金)	8月8日(土)	8月9日(日)	
9:30～9:45			9:30～10:30 オリエンテーション	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明			
午前1		受付	10:30～10:45 写真撮影	9:45～15:00 教育法規Ⅱ	9:45～11:45 リーダーとなるために			
午前2		10:00～11:30 オリエンテーション	11:00～12:15 教育法規Ⅰ 菱村幸彦	清水幹裕	杵屋五司郎 日吉 静永			
午後1		13:00～13:30 開講式	13:30～15:00 学校評価			13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)		
午後2		13:40～14:40 教育改革の動向	窪田眞二					
		15:15～16:30 実践研究	15:15～16:30 実践研究	15:15～16:30 実践研究				
第2週	8月10日(月)	8月11日(火)	8月12日(水)	8月13日(木)	8月14日(金)	8月15日(土)	8月16日(日)	
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明						
午前1	9:45～11:45 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:45～16:30 リスクマネジメント						
午前2	横山利弘	石川 慶子						
午後1	13:30～16:30 実践研究							
午後2								
第3週	8月17日(月)	8月18日(火)	8月19日(水)	8月20日(木)	8月21日(金)			
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明			
午前1	9:45～12:15 教育指導上の課題 (学習指導)	9:45～12:15 教育指導上の課題 (カリキュラム・マネジメント)	9:45～16:30 学校組織マネジメント	9:45～16:00 学校管理運営演習	9:45～14:45 学校管理運営演習			
午前2	北俊夫	児島邦宏	柴田励司					
午後1	13:15～15:15 リーダーとなるために	13:30～16:30 実践研究						
午後2	酒巻久					14:45～16:15 地方教育行政制度		
	15:30～16:30 学習指導要領			16:00～16:30 演習確認	16:15～16:30 閉講式・事務連絡			

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回校長・教頭等研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校、中学校の校長・副校長・教頭 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開 催 期 日	平成21年8月28日(金)～平成21年9月11日(金)				15日間			
受 講 人 数	計画人数	210	人	受講者数	145	人	参加率	69.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150人、受講者数 1,593人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がな かった	全く無意義だっ た	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	116	29	0	0	0	0	145
割合 (%)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	145						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習は主体的に参加できるし、身につくのでよい。 ・いろいろなグループでの演習が生まれ、多数の人と交流ができ、有意義だった。 ・中央研修に代わる研修は他にないと思います。あとは本人のやる気次第であります。 ・各分野の代表者あるいは専門的講師陣が揃っていて、研修の密度が高かった。この方向は継続して欲しい。 ・皆さん、超一流の講師ばかりで大変満足しております。中央に来ないと聞けないことがたくさんありました。文部科学省の方々とお話しできたことはとても良かったです。 ・日本の一流企業のトップリーダーの方の話は心に残ります。教育とは違った面の話を伺うことで、逆に教育を客観的に見るができるように思います。 ・弁護士による講義・演習は大変よかった。 ・年度によって講義内容は変わっていくので、現在のように時流を捉えて設定していただければありがたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化 ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保 ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第3回校長・教頭等研修(第329回)

小学校・中学校 校長・副校長・教頭

平成21年8月28日(金)～平成21年9月11日(金)

第1週					8月28日(金)	8月29日(土)	8月30日(日)
8:30～ 9:00							
午前1 9:15～ 10:30					9:45～10:00 受付		
午前2 10:30～ 11:45					10:00～11:45 オリエンテーション		
午後1 13:00～ 14:15					13:00～13:20 開講式		
午後2 14:15～ 15:30					13:30～14:30 教育改革の動向		
午後3 15:45～ 17:00					15:15～17:00 実践研究		
第2週	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)	9月5日(土)	9月6日(日)
8:30～ 9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～ 10:30	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導)	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 三ツ角 直正	9:15～15:30 リスクマネジメント 飯野真幸		
午前2 10:30～ 11:45		清水静海	松田素行				
午後1 13:00～ 14:15	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 樋口 修資	13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術					
午後2 14:15～ 15:30							
午後3 15:45～ 17:00	15:45～17:00 学習指導要領		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第3週	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)		
8:30～ 9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～ 10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～11:45 学校評価	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 北城恪太郎		
午前2 10:30～ 11:45	北神正行	小松郁夫			11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～ 14:15		13:00～17:00 実践研究					
午後2 14:15～ 15:30							
午後3 15:45～ 17:00				15:30～17:00 地方教育行政制度			

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	高等学校の校長・副校長・教頭 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成21年9月24日(木)～平成21年10月8日(木)					15日間		
受講人数	計画人数	220	人	受講者数	152	人	参加率	69.1%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150人、受講者数 1,593人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	130	21	0	0	0	1	152
割合(%)	85.5	13.8	0.0	0.0	0.0	0.7	
	151						
	99.3						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・演習は職務を遂行する上で、大変参考になりました。是非今後も充実した演習の実施を望みます。
- ・講義ばかりでなく、演習が組み込まれることは、受講する側にとっても理解し易かった。また、理論を確認、実践する場としても有効であった。
- ・演習をとり入れた参加型は、より理解が深まるとともに、各府県の実態や多くの先生方の考え方や対応の仕方にも学ぶところが多々ありました。
- ・日々の講義等はとても刺激的な有意義なものばかりでしたが、終了後に講義内容を振り返り、自分のものとする時間がなかなか取れなかったのが残念です。
- ・どれも非常に内容のある講義・演習であり、その場についていくのが精一杯、充分消化する時間がなかった。研修後にしばらく考えたいが、学校に戻ると時間はないと思う。
- ・大変有意義な研修となり、自校等に反映していきたい。
- ・気づきの多い研修となりました。適当な指示があり、次の展開が予想できました。
- ・「スクールコンプライアンス」「リスクマネジメント」「学校組織マネジメント」「教育指導上の課題」の柱で、学校管理者としても重要な講義を拝聴し、感謝しています。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第4回校長・教頭等研修(第330回)

高等学校 校長・副校長・教頭

平成21年9月24日(木)～平成21年10月8日(木)

第1週	平成21年9月24日(木)～平成21年10月8日(木)						
	9月24日(木)	9月25日(金)	9月26日(土)	9月27日(日)	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション			8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)			9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水 幹裕	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 飯野真幸	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 工藤文三
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション						13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 伊勢呂 裕史					
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 教育改革の動向						
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領			15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	
第2週	10月1日(木)	10月2日(金)	10月3日(土)	10月4日(日)	10月5日(月)	10月6日(火)	10月7日(水)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究			8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 リスクマネジメント	9:15～17:00 学校組織マネジメント					
午前2 10:30～11:45	伊原正俊	八尾坂修					
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							
第3週	10月8日(木)						
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究						
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校評価 北神正行						
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 実践研究						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							
		15:30～17:00 地方教育行政制度					

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の校長・副校長・教頭、幼稚園長、指導主事 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成22年1月12日(火)～平成22年1月26日(火)					15日間		
受講人数	計画人数	120	人	受講者数	138	人	参加率	115.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150 人、受講者数 1,593 人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	126	12	0	0	0	0	138
割合(%)	91.3	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	138						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・学ぶ機会、学べる場があり、集中して取り組める幸せを感じました。この研修の場を持ち続け、一人でも多くの人が研修を受け、これからの日本の教育のベースを確かなものにすることが、今後の日本の教育にとっても大切なことだと実感しました。
- ・貴重な、充実した研修ができました。特に地方から来たものにとって、最新の内容の講義・演習、すばらしい施設設備での中央研修でした。継続を祈念します。
- ・管理職研修の内容として、とても充実したものであったと思います。
- ・どれをとっても私には充実した研修でした。研修成果を活かし、活用すべく努力してまいりたいと思います。この研修は「あこがれ」です。
- ・リスクマネジメントや組織マネジメントの研修など、もっと時間をとり、じっくり研修を受けたかったです。
- ・15日間の研修で管理職として必要な力がつくよう、多くの研修を組んでくださりありがとうございました。地方では招聘できないようなすばらしい講師の方の講義を受けることができ学ぶことが多かったです。また、オリエンテーションの説明も共有フォルダに入れていただき助かりました。
- ・演習があると、より主体的に研修に臨むことができ、研修の成果を高めることができる。
- ・演習形式を取り入れることは大変よかったです。やはり講義と演習のバランスが大切かと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第5回校長・教頭等研修(第333回)

小学校・中学校 校長・副校長・教頭、幼稚園長、指導主事

平成22年1月12日(火)～平成22年1月26日(火)

第1週		1月12日(火)	1月13日(水)	1月14日(木)	1月15日(金)	1月16日(土)	1月17日(日)
8:30～9:00			8:30～9:30 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:45～10:00 受付	9:45～11:45 班別協議	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	【幼稚園長のみ】 9:15～15:30 教育指導上の課題 神長 美津子 9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 北 俊夫 13:00～15:30 学校評価 濱田 博文		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	10:45～11:45 実践研究	松崎 勝			
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ				
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	菱村 幸彦				
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	1月18日(月)	1月19日(火)	1月20日(水)	1月21日(木)	1月22日(金)	1月23日(土)	1月24日(日)
8:30～9:00	8:30～8:50 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～11:45 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:00～17:00 リスクマネジメント	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)		9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45	伊原 正俊	清水 井一					
午後1 13:00～14:15		教育指導上の課題 【幼稚園長のみ】 豊田 一秀	13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	17:15～17:45 ネットいじめ		15:30～17:00 地方教育行政制度		
第3週	1月25日(月)	1月26日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究					
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～10:45 リーダーとなるために 竹内 一郎					
午前2 10:30～11:45	浅野 良一	11:00～11:20 閉講式					
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第6回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事、センター指導主事 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成22年1月28日(木)～平成22年2月12日(金)					16日間		
受講人数	計画人数	180	人	受講者数	122	人	参加率	67.8%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150 人、受講者数 1,593 人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	109	13	0	0	0	0	122
割合(%)	89.3	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	122						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ありがとうございました。専門講師のお話はとてもためになりました。研修方法としても、多くのことを学びました。
- ・「特別講義」は見識を広げることができ、大変有意義な時間でした。
- ・特に教育法規の講義演習はとても参考になった。今後活かせると強く感じた。このような機会・場所を与えていただいた多くの関係者の方々に感謝したい。
- ・組織マネジメント・リスクマネジメント研修は、学校のリーダーとして必須事項だと思うので、今後もお願いしたい。学習指導の研修がやや少なめという気がします。
- ・大変有意義な研修となりました。この研修の成果を還元していきたいと考えています。ありがとうございました。
- ・「研修講師となるために」の時間の倍増を希望します。このコマ分だけ教頭と指導主事の複線化も考えられると思います。
- ・演習で自分の考えをまとめ、グループ協議する中で、多角的な見方や考え方に触れることで理解を深めることができた。
- ・演習を取り入れたことにより理解が深まりました。他県の先生とも交流ができ、良かったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第6回校長・教頭等研修(第334回)

小学校・中学校 副校長・教頭、指導主事、センター指導主事

平成22年1月28日(木)～平成22年2月12日(金)

第1週				1月28日(木)	1月29日(金)	1月30日(土)	1月31日(日)
8:30～9:00					8:30～9:30 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付	9:45～10:30 班別協議		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション	10:45～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向	坂田 仰		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究		15:45～17:00 学習指導要領	
第2週	2月1日(月)	2月2日(火)	2月3日(水)	2月4日(木)	2月5日(金)	2月6日(土)	2月7日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 II	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導)	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～15:30 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45	三ツ角 直正	清水 井一	工藤 文三	小島 弘道	飯野 真幸		
午後1 13:00～14:15			13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			15:45～17:00 実践研究		
第3週	2月8日(月)	2月9日(火)	2月10日(水)	2月11日(木)	2月12日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	建国記念の日	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校評価	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		9:15～10:45 リーダーとなるために 木村 政雄		
午前2 10:30～11:45	小松 郁夫				11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 実践研究						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00			15:30～17:00 地方教育行政制度				

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第7回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事、センター指導主事 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成22年2月16日(火)～平成22年3月2日(火)					15日間		
受講人数	計画人数	170	人	受講者数	82	人	参加率	48.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150人、受講者数 1,593人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	77	5	0	0	0	0	82
割合(%)	93.9	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	82						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・講義の内容が大変すばらしく、今後の仕事に参考になるものばかりであった。更に全国の方々と様々な情報交換ができたことは得難い経験であった。
- ・大変満足しています。皆さん超一流の講師の方々で、地方ではこんな密度の濃い研修は受けられないと思います。感謝しています。
- ・一流の講師の先生方、日頃絶対お会いできない文科省の先生方の講義やご指導が受講でき、心から感謝であります。センターのスタッフの方々もとても親切で嬉しく、ありがたかったです。全国から集まることで、ネットワークや各地の教育に関するお話もお伺いでき、貴重な研修となりました。
- ・リスクマネジメントや学校組織マネジメントについて、もっとじっくりお教えいただきたいかったです。
- ・とても工夫された、研修生にとって価値のある研修となっていたと思います。
- ・より多くの現場教職員に研修してもらいたい内容だった。一流の講師陣の話を聞いて大変良かった。
- ・すばらしい講師の方々とお話しした内容で、学びの多い2週間でした。他県の方もじっくり話すことができ、つながりができたこともかけがえのないことでした。2週間お世話になり、ありがとうございました。
- ・講義だけでなく演習を行うことで、いろいろな考え方を共有でき、今後の教育活動に活かしていけると思った。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第7回校長・教頭等研修(第335回)

小学校・中学校 副校長・教頭、指導主事、センター指導主事

平成22年2月16日(火)～平成22年3月2日(火)

第1週		2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)	2月20日(土)	2月21日(日)
8:30～9:00			8:30～9:30 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:45～10:00 受付	9:45～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水 幹裕	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 北 俊夫		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション					
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～15:30 学校評価		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	樋口 修資		八尾坂 修		
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	2月22日(月)	2月23日(火)	2月24日(水)	2月25日(木)	2月26日(金)	2月27日(土)	2月28日(日)
8:30～9:00	8:30～8:50 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～11:45 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:00～17:00 リスクマネジメント	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)		9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45	伊原 正俊	菅野 純					
午後1 13:00～14:15			13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度		
第3週	3月1日(月)	3月2日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究					
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～10:45 リーダーとなるために 柴田 励司					
午前2 10:30～11:45	浅野 良一	11:00～11:20 閉講式					
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修								
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ								
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。								
受講対象	高等学校教諭 (小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者)								
開催期日	平成21年5月7日(木)～平成21年6月2日(火)			27日間					
受講人数	計画人数	220	人	受講者数	154	人	参加率	70.0%	
開催場所	独立行政法人 教員研修センター(茨城県つくば市)								

※全体計画人数 2,150人、受講者数 1,593人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	135	19	0	0	0	0	154
割合(%)	87.7	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	154						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・よく仕組みれていますし、オリエンテーションで強調されていたことはその通りだったので、動きやすかったです。 ・大変有意義な研修でしたが、もっと徹底して演習をやって欲しかったです。それだけ演習から得るものが大きかったです。この研修で知り合った仲間は私にとって一番の財産になりました。 ・選択講義すべてを受講したいと思います。 ・もう少し実践に基づいた現場の実態に則した講義があっても良いと思います。理論と実践の一致こそが今後の大きな課題であるからです。講師の方も現場実態に基づいた、または材料・手法を用いていただきたいと思います。 ・講師の先生によりますが、プレゼンについてはすべて資料としていただけると助かります。進行の早い先生の場合についていけませんでした。 ・最高の研修でした。以前2日でやっていたものを1日で実施された演習もあったと聞きました。演習については様々な分析手法の習得のためにももう少し時間が欲しいと思うところがありました。 ・色々な都合で難しいとは思いますが、もう少し研修期間を伸ばすことができればより充実するのではないかと思います。研修のうちいくつかが時間的に厳しく、もう少し話を聞きたかったなあと感じることがありました。 ・質問がもっとできれば、なお良かったです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価」に関する講義を新設 ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化 ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保 ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修(第324回)

高等学校 教諭

平成21年5月7日(木)～平成21年6月2日(火)

第1週				5月7日(木)	5月8日(金)	5月9日(土)	5月10日(日)		
8:30～9:00					8:30～10:00 オリエンテーション				
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付					
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行				
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I 坂田 仰				
午後2 14:15～15:30			13:30～14:30 教育改革の動向						
午後3 15:45～17:00			15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 演習打合せ					
第2週	5月11日(月)	5月12日(火)	5月13日(水)	5月14日(木)	5月15日(金)	5月16日(土)	5月17日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 II	9:15～11:45 学校評価 窪田真二	9:15～11:45 国際理解教育 佐藤郡衛	9:15～11:45 リスクマネジメント 上地安昭	9:15～17:00 リスクマネジメント				
午前2 10:30～11:45	清水 幹裕				石川慶子				
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 道徳教育 谷田増幸	13:00～15:30 キャリア教育 鹿嶋研之助	13:00～17:00 リスクマネジメント					
午後2 14:15～15:30				石川慶子					
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究						
第3週	5月18日(月)	5月19日(火)	5月20日(水)	5月21日(木)	5月22日(金)	5月23日(土)	5月24日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～15:30 学習指導	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 総合的な学習の時間	9:15～15:30 生徒指導				
午前2 10:30～11:45	安彦忠彦	国立教育政策研究所 総括研究官 二井正浩	情報教育 小泉 カー ボランティア教育 興梠 寛 健康教育 和唐正勝 環境教育 高田 研	角屋重樹	早稲田大学教授 河村茂雄				
午後1 13:00～14:15									
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究				
第4週	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)	5月30日(土)	5月31日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30	学校組織マネジメント 産業能率大 発展1・基礎4	生徒指導 群馬大学特任教授 下田博次 13:00～17:00	学校管理運営演習	学校管理運営演習	学校管理運営演習				
午前2 10:30～11:45									
午後1 13:00～14:15									
午後2 14:15～15:30		研修講師 となるための 知識・技術							
午後3 15:45～17:00					15:30～17:00 地方教育行政制度				
第5週	6月1日(月)	6月2日(火)							
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備							
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 梅野正信	9:15～10:45 リーダーとなるために 北城 悟太郎							
午前2 10:30～11:45	13:00～15:30 特別支援教育 上野一彦	11:00～11:20 閉講式							
午後1 13:00～14:15									
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究								

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の教諭 〔小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕							
開催期日	平成21年7月2日(木)～平成21年7月29日(水)				28日間			
受講人数	計画人数	240	人	受講者数	111	人	参加率	46.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150 人、受講者数 1,593 人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	100	11	0	0	0	0	111
割合 (%)	90.1	9.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	111						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・いろいろ工夫された大変充実した研修でした。もう一度最初から研修を受け直したいくらいです。私自身、今までで一番多くのことを学びました。一生の財産になります。ありがとうございました。
- ・内容はすばらしいが、スケジュールが過密すぎて消化しきれなかった。
- ・講義は、聞きやすい、見やすいのが一番です。演習は、もう少しゆとりのある時間がよいです。でも、とても4週間が短かったです。ありがとうございました。
- ・超一流の講師陣に驚きながらも、とても勉強になりました。大変でしょうけれど、この講師陣はぜひ続けてください。とてもうれしい気分を味わいました。
- ・演習が多くあり、参加型の研修ができ、とても良かったです。頭の中で理解するだけでなく、体験できることでより講義内容が理解できました。
- ・国レベルの教育の最先端の情報を学びながら、自校のことを考える演習とが組み合わせられてよかった。
- ・多くのすばらしい講師の先生方から最先端のお話を伺った講義・仲間と意見を交わしながら、自分なりの考えを深めた演習、全国の先生方の取り組みと現状に触れられた実践報告等、これまでとは異なる視点で「教育」を捉える貴重な機会となった。
- ・毎日一流の講師による講義を聞き、グループで演習しながら実践に向けた準備をすることができた。これ以上ない環境の中で4週間研修することができ、大変充実していた。

III 研修内容・方法の見直し等

- 前年度を踏まえ
- ・「学校評価」に関する講義を新設
 - ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
 - ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加
- 次年度に向けて
- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
 - ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
 - ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修(第325回)

平成21年7月2日(木)～平成21年7月29日(水)

小学校・中学校 教諭

	7月2日(木)	7月3日(金)	7月4日(土)	7月5日(日)
第1週				
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30		9:45～10:00 受付		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田真二	
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I	
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向 15:15～17:00	坂田 仰	
午後3 15:45～17:00		実践研究	15:45～17:00 演習打合せ	
第2週	7月6日(月)	7月7日(火)	7月8日(水)	7月9日(木)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水 幹裕	9:15～11:45 学校評価 天笠茂	9:15～11:45 国際理解教育 多田孝志	9:15～11:45 リスクマネジメント 飯野真幸
午前2 10:30～11:45				9:15～17:00 リスクマネジメント 石川慶子
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 道徳教育 押谷由夫	13:00～15:30 キャリア教育 藤田晃之	13:00～17:00 リスクマネジメント 石川慶子
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	
第3週	7月13日(月)	7月14日(火)	7月15日(水)	7月16日(木)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 蛭田政弘	9:15～15:30 学習指導 清水静海	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 堀田 龍也 ボランティア教育 池田幸也 健康教育 川畑哲朗 環境教育 市川智史	9:15～15:30 総合的な学習の時間 嶋野道弘
午前2 10:30～11:45				9:15～15:30 生徒指導 菅野純
午後1 13:00～14:15				
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領 実践研究
第4週	7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)
8:30～9:00	海の日	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備
午前1 9:15～10:30		9:15～17:00 学校組織マネジメント 産業能率大 発展1・基礎4	9:15～11:45 生徒指導 大河原美以	9:15～11:45 人権教育 有村久春
午前2 10:30～11:45				
午後1 13:00～14:15			13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術	13:00～15:30 特別支援教育 中井滋
午後2 14:15～15:30				15:45～17:00 実践研究
午後3 15:45～17:00				
第5週	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 小杉俊哉	
午前2 10:30～11:45			11:00～11:20 閉講式	
午後1 13:00～14:15				
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 地方教育行政制度		

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の教諭 〔小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕							
開催期日	平成21年7月31日(金)～平成21年8月26日(水)			27日間				
受講人数	計画人数	200	人	受講者数	205	人	参加率	102.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 2,150 人、受講者数 1,593 人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	189	16	0	0	0	0	205
割合(%)	92.2	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	205						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・それぞれの分野の第一線で活躍されておられる方々の講義を受けることができ、何にも替えがたい財産になったと思っています。
- ・課題も多く、土日は見聞を深め、毎日3～4時間睡眠が楽しくもあり厳しくもありました。しかし、本研修に参加して本当によかったと心から思います。
- ・講師の先生方、研修センター職員の皆様、そして全国から来られた先生方にとっても感謝しております。内容の深い、計算された研修にただ感心させられる毎日でした。研修にはとても満足しております。
- ・研修の中に演習を取り入れるという方向性は大変良かった。講義のみだとどうしても受身になってしまうが、演習は主体的に取り組むことができ、成果や課題がより明らかになる。
- ・どれもとても勉強になりました。
- ・講義の際、パワーポイントを使われる先生のスライドを印刷したものが手元にない時、メモに苦労しました。じっくりお話を聞いて理解を深めたかったのですが、内容を伝えなくてはならないので、とにかくメモに終始せざるを得なかったです。
- ・一流の講師から講義や演習を受けるということは、地方にはなかなかできないことなので、年に1回でも日本国内の各地でこうした研修が行えるようになればよいと思いました。
- ・とても有意義であった、ただ、もう少し時間にゆとりがあると、じっくり取り組むことができるのにと感じたこともあった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「学校評価」に関する講義を新設
- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修(第327回)

小学校・中学校 教諭

平成21年7月31日(金)～平成21年8月26日(水)

第1週					7月31日(金)	8月1日(土)	8月2日(日)
午前1 9:15～ 10:30					9:45～10:00 受付		
午前2 10:30～ 11:45					10:00～11:45 オリエンテーション		
午後1 13:00～ 14:15					13:00～13:20 開講式		
午後2 14:15～ 15:30					13:30～14:30 教育改革の動向		
午後3 15:45～ 17:00					15:15～17:00 実践研究		
第2週	8月3日(月)	8月4日(火)	8月5日(水)	8月6日(木)	8月7日(金)	8月8日(土)	8月9日(日)
8:30～ 9:00	8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～ 10:30		9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 国際理解教育	9:15～11:45 リスクマネジメント	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～ 11:45	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田 真二	松崎 勝	佐藤郡衛	上地安昭	石川慶子		
午後1 13:00～ 14:15	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術	13:00～17:00 リスクマネジメント			
午後2 14:15～ 15:30	伊勢呂 裕史			石川慶子			
午後3 15:45～ 17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
第2週	8月10日(月)	8月11日(火)	8月12日(水)	8月13日(木)	8月14日(金)	8月15日(土)	8月16日(日)
8:30～ 9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～ 10:30	9:15～15:30 生徒指導	9:15～11:45 生徒指導	9:15～11:45 学校評価	9:15～15:30 学習指導	9:15～17:00 学校組織マネジメント		
午前2 10:30～ 11:45	菅野純	柳生 和男	小松郁夫	角屋重樹			
午後1 13:00～ 14:15		13:00～15:30 道徳教育	13:00～15:30 キャリア教育				
午後2 14:15～ 15:30		赤堀 博行	三村隆男		産業能率大 発展1・基礎4		
午後3 15:45～ 17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第3週	8月17日(月)	8月18日(火)	8月19日(水)	8月20日(木)	8月21日(金)	8月22日(土)	8月23日(日)
8:30～ 9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～ 10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 総合的な学習の時間	9:15～11:45 人権教育	9:15～17:00 学校管理運営演習		
午前2 10:30～ 11:45	天笠茂	情報教育 小泉 カー ボランティア教育	嶋野道弘	福田弘			
午後1 13:00～ 14:15		長沼 豊 健康教育 野津有司 環境教育 見上一幸		13:00～15:30 特別支援教育			
午後2 14:15～ 15:30				玉井邦夫			
午後3 15:45～ 17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究			
第4週	8月24日(月)	8月25日(火)	8月26日(水)				
8:30～ 9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～ 10:30	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 西田 善夫				
午前2 10:30～ 11:45			11:00～11:20 開講式				
午後1 13:00～ 14:15							
午後2 14:15～ 15:30							
午後3 15:45～ 17:00		15:30～17:00 地方教育行政制度					

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修						
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受講対象	小学校・中学校の教諭 〔小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上か教職経験10年以上の者〕						
開催期日	平成21年10月15日(木)～平成21年11月11日(水)				28日間		
受講人数	計画人数	170	人	受講者数	102	参加率	60.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)						

※全体計画人数 2,150人、受講者数 1,593人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	92	9	0	0	0	1	102
割合(%)	90.2	8.8	0.0	0.0	0.0	1.0	
	101						
	99.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・大変素晴らしい講師の方々による講義・演習、まさにここでないと受けられない内容ばかりで、充実した日々を送ることができました。
- ・その時代、その時の重点課題があると思うので、中央研修においては所属する県などでは十分に受講できない内容や最新の教育に関する講義や演習を行っていただいているので、今後も継続して欲しいです。
- ・これまで一人でやってきた自分に気がつきました。チームで、組織で、管理者の目でやる大切さに初めて気づきました。どの研修も私にとってはかけがえのない財産です。必ず地域で活かしたいと思います。
- ・どの講義・演習も内容があり、この日程で収めるには難しいものですが、今後の自己研修への道しるべになりました。
- ・私にとっては、財産となる研修ばかりでした。本当にありがとうございました。
- ・4週間お世話になりました。1年で最も快適な季節に、自然豊かな筑波の地で研修できたことに感謝しています。講師の先生による研修で頭を鍛え、筑波の自然で心を洗い、仲間との語りいで元気もらった4週間でした。
- ・選択講義の内容はできれば全部聞いてみたいと思いました。
- ・市や県と違い、一流の講師の先生のお話を直接伺えるのは素晴らしいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「学校評価」に関する講義を新設
- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修(第331回)

小学校・中学校 教諭

平成21年10月15日(木)～平成21年11月11日(水)

第1週				10月15日(木)	10月16日(金)	10月17日(土)	10月18日(日)
8:30～9:00					8:30～10:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付			
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮腰英一		
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向	坂田 仰		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究	
第2週	10月19日(月)	10月20日(火)	10月21日(水)	10月22日(木)	10月23日(金)	10月24日(土)	10月25日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 II	9:15～11:45 学校評価 天笠茂	9:15～11:45 道徳教育 藤永芳純	9:15～11:45 リスクマネジメント 飯野眞幸	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45	三ツ角 直正				石川慶子		
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 国際理解教育 森本敏	13:00～15:30 キャリア教育 三川俊樹	13:00～17:00 リスクマネジメント			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	10月26日(月)	10月27日(火)	10月28日(水)	10月29日(木)	10月30日(金)	10月31日(土)	11月1日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 学習指導	9:15～15:30 生徒指導		
午前2 10:30～11:45	八尾坂修	産業能率大	情報教育 小泉 カー	角屋重樹	河村茂雄		
午後1 13:00～14:15			ボランティア教育 長沼豊				
午後2 14:15～15:30			健康教育 野津有司				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究		
午後3 17:00							
第4週	11月2日(月)	11月3日(火)	11月4日(水)	11月5日(木)	11月6日(金)	11月7日(土)	11月8日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	文化の日	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 総合的な学習の時間		9:15～11:45 生徒指導	9:15～11:45 人権教育	9:15～17:00 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45	村川雅弘			石隈利紀	梅野正信		
午後1 13:00～14:15				13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術	13:00～15:30 特別支援教育 花輪敏男		
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:45～17:00 実践研究			
第5週	11月9日(月)	11月10日(火)	11月11日(水)				
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30	学校管理運営演習	学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 大竹美喜				
午前2 10:30～11:45				11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00				15:30～17:00 地方教育行政制度			

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修						
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受講対象	小学校・中学校・高等学校の教務主任 〔小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上か教職経験10年以上の者〕						
開催期日	平成21年11月16日(月)～平成21年12月11日(金)				26日間		
受講人数	計画人数	270	人	受講者数	208	参加率	77.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)						

※全体計画人数 2,150人、受講者数 1,593人、参加率 74.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	202	6	0	0	0	0	208
割合(%)	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	208		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

- ・それぞれの分野での第一人者を講師に迎え、中央研修ならではの研修になりました。
- ・今回この中央研修を受けさせていただき、本当に多くのことを学ばせていただきました。今後も(大きく言えば)日本の教育のためにも絶対必要な研修だと思えます。本当に充実した、素晴らしい4週間でした。
- ・内容も話の進め方も大変参考になる講師の方にたくさん出会って刺激を受けました。4週間、ありがとうございました。
- ・講義一辺倒だと非常に疲れるので、適宜演習がありとても有意義な時間が過ごせました。また、内容によっては班が異なるのも新鮮な感じがしてより広く知り合えた気がします。
- ・選択講義を1つしか選択できないのは残念でした。
- ・講義・演習がバランスよく入っており、有効な研修になっていると思います。
- ・演習を取り入れることで理論が実践化できるので、今後に活かしやすいと思います。
- ・演習を通して多くの参加者と意見交流をすることで深まりができたと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「学校評価」に関する講義を新設
- ・「危機管理」を「リスクマネジメント」とし、これまで以上に日常における危機回避・安全配慮等に関する内容に重点化
- ・「教育法規Ⅱ」に「保護者等からの要望等への対応」に関する内容を追加

次年度に向けて

- ・学校管理運営演習の問題を精選し各設問に対する協議の充実を図り、更に各校が抱える課題についての情報交換ができる時間を確保
- ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもとの信頼関係の構築」の重要性を促す
- ・学校組織マネジメントで選択コースを2つから4つに拡充し、自校における実践につながるよう改訂

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度教職員等中央研修 第5回中堅教員研修(第332回)

小学校・中学校・高等学校 教務主任		平成21年11月16日(月)～平成21年12月11日(金)					
第1週	11月16日(月)	11月17日(火)	11月18日(水)	11月19日(木)	11月20日(金)	11月21日(土)	11月22日(日)
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 キャリア教育	9:15～11:45 国際理解教育		
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田真二	清水 幹裕	藤田晃之	多田孝志		
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～15:30 研修講師 となるための 知識・技術	13:00～15:30 (小・中)道徳教育 柴原弘志 (高)生徒指導 岩永雅也		
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 教育改革の動向	北神 正行					
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究		
第2週	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)	11月28日(土)	11月29日(日)
8:30～9:00	勤労感謝の日	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 総合的な学習の時間 (小・中・高) 吉崎静夫	9:15～11:45 (小・中)生徒指導 下田博次 (高)道徳教育 七條正典	9:15～11:45 リスキマゼント 上地安昭	9:15～17:00 リスキマゼント 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15			13:00～15:30 学校評価 小松郁夫	13:00～17:00 リスキマゼント 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	11月30日(月)	12月1日(火)	12月2日(水)	12月3日(木)	12月4日(金)	12月5日(土)	12月6日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント (小・中学校) 安彦忠彦 (高校) 蛭田政弘	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産業能率大	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 小泉 カー ボランティア教育 興梶寛 健康教育 西岡伸紀 環境教育 阿部 治 教育資源の活用 永山俊介	9:15～15:30 学習指導 (小・中学校) 角屋重樹 (高校) 二井正浩	9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第4週	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 森実	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 小川三夫		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 落合 俊郎						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度			

I 研修概要

研修名	事務職員研修（小・中学校）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識・技能等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受講対象	小学校及び中学校の事務長又はそれに準じる事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上であり、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な役割が期待される者							
開催期日	平成22年2月15日（月）～平成22年2月19日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	180	人	受講者数	169	人	参加率	93.9%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

* 全体計画人数 360 人、 受講者数 323 人、 参加率 89.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	131	33	0	0	5	0	169
割合 (%)	77.5	19.5	0.0	0.0	3.0	0.0	
	164	97.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・5日間という長い研修だと思いましたが、あっという間でした。内容がもりだくさんな印象でしたが、教育改革や財務等の説明はわかりやすく、学校で資料を活用したいと思います。マネジメント研修、演習は初めての研修でしたが、班の方との話し合いなどは、日頃の研修ではなかなかできない体験でした。来年度以降も本研修を継続していただきたいです。
- ・教育関係の第一線で活躍されている方々の講話を多く聞くことができ、大変勉強になり、これからの仕事に役立てていきたいです。また、全国の同じ職の方々意見交換ができた事は大変有意義でした。参加する前までは長い研修だなあと感じていましたが、終わった今は参加できて本当に良かったと思います。
- ・5日間あっという間でした。毎日担当の方には大変お世話になりました。ありがとうございました。またこういう研修に参加させていただいて感謝しています。この研修を地域の方にも伝達し、生かしていければと思います。
- ・私にとってこの研修は大変衝撃的なものでした。事前に想像していた研修内容とは違い、ひとつひとつがとても興味深くわかりやすい説明でした。もしまた、このような研修を受けることのできる機会があれば、もっと研修を受けさせていただきたいです。
- ・受講決定から本日まで、学校運営全般、そして学校事務のあり方について、改めて見つめ直すいい機会となりました。全国の仲間との出会いも大変意義深いものでした。
- ・事務職員は各校で単数配置のためOJTの機会がなく、職能団体の自立研修により相互のスキルアップを行っている。今回のような県教育委員会の推薦により、公的機関で素晴らしい講師の話の聞けることは大変ありがたいことと思っている。自分が今後、職場で目指すべきものが明確に見えたことが何よりの収穫であったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえるとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深められるよう工夫した。
- ・学校教育法施行規則の改正により、小・中学校に事務長を置くことができる規定が設けられたこと、今後の方向性などについても、理解させるようにした。
- ・危機管理の手法等について、班別演習を通して理解を深められるよう工夫した。

次年度に向けて

- ・学校組織マネジメントの演習の進め方について、細やかな指導・助言が行えるよう検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 事務職員研修(小・中学校) 日程表

9:50	10:20	10:50	12:00	13:00	14:00 14:10	15:30	15:45	17:00		
	オリエンテーション	開講式	受付	課題協議1 「教育改革の流れと取組」 文部科学省初等中等教育局 審議官 前川 豊平 目的:教育改革の流れについて理解する	休	課題協議2 「財政制度について」 文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室長 勝山 浩司 目的:財政制度の現状及び課題について理解を深める	休	課題協議3 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 目的:新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について理解する

9:00	11:45	12:45	17:00
受付	課題協議4 「信頼される開かれた学校づくりのために」 国立大学法人千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 目的:学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえるとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	休	講義・演習2 「学校におけるリスクマネジメント」 バーナムコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊 目的:学校における危機管理の手法について理解を深める

9:00	10:50 11:00	12:00	13:00	17:00
受付	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 燕市立燕東小学校 事務主幹 平澤 由美子 事例発表② 足利市立山辺中学校 事務長 岡崎 信二 目的:各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る	休	演習3 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的:教育改革に係る学校運営における学校事務職員の役割について課題をもつ	講義・演習4-① 「学校組織マネジメント」 龍谷大学 教授 小島 弘道 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める

9:00	12:00	13:00	17:00
受付	講義・演習4-② 「学校組織マネジメント」 龍谷大学 教授 小島 弘道 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める	休	演習5 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 吉川 成夫 目的:学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する

9:00	11:20 11:30	12:00	12:15
受付	演習6 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 吉川 成夫 発表 目的:学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割について理解を深める	休	課題協議5 「研修を生かした学校運営の充実を図る方策」 目的:研修内容を整理し、学校運営を支える学校事務職員の役割について理解する

I 研修概要

研 修 名	事務職員研修（高等学校）								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識・技能等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。								
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校事務の改善充実の取組の中核的な役割が期待される者								
開 催 期 日	平成22年1月18日（月）～平成22年1月22日（金）			5日間					
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	154	人	参加率	85.6%	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）								

* 全体計画人数 360 人、 受講者数 323 人、 参加率 89.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	68	85	0	0	1	0	154
割合 (%)	44.2	55.2	0.0	0.0	0.6	0.0	
	153						
	99.4						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今後の財務遂行にあたり、本当に役に立つ内容であったし、改めて自分に不足しているものを考えさせられた5日間でありました。”生徒のため”を念頭に研修内容を生かし仕事に当たりたいと思います。
- ・視点を広げる。あるいは、切り換えるという事では、他県（都）のスタイルを身近に知る事ができたのは、得難い経験だと思います。また、中央の講師の話聞く機会も、多くはありませんから、その知識に触れて、幾ばくかを吸収できたかなと感じています。
- ・各県各校の実態・実情を知ることができた。思いもよらぬ運営方法や課題が多々あり、いろいろと参考にし、即実践できるものもあると感じた。こういう交流ができたことは貴重だった。
- ・講義と演習を組み合わせであり、より効果的に理解できた。「自校の取組」の演習は、即実践力になりそうだ。全体的にみて、大変有意義であった。全国の高校の実態がわかり、多くの課題をかかえながらもがんばっている仲間がいることが明日からの心のささえとなると思う。
- ・特別支援学校のグループ分けが、私の場合7名のうち養護2、聾4、盲1であった。そのため、聾・盲の内容がわからないため話し合いについていけないこともあった。養護だけでグループ分けしてもらえたなら、もっと研修が深まったのではないかなと思う。
- ・初日の文科省講話でもう少し時間をとってもらい、リアルタイムでの教育行政・施策について深くお話を聞けたらと思いました。各講義・演習冒頭にその内容についての説明があり、方向性を示して頂いたのは、わかりやすかったと感じました。5日間フルに研修を受けましたが、吸収しきれていない部分もあるとは思いますが、今後の学校運営の参考し、活用したいと思っています。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえるとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深められるよう工夫した。

次年度に向けて

- ・学校組織マネジメントの演習の進め方について、細やかな指導・助言が行えるよう検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 事務職員研修（高等学校）日程表

1月18日（月）	9:50	10:20	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
		受付	オリエンテーション	課題協議1 「教育改革と財政制度」 文部科学省初等中等教育局 審議官 徳久 治彦 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	休食	課題協議2 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 審議官 徳久 治彦 目的：新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休食	演習1 「各校の取組」 目的：班別演習により、各校の特色ある取組について理解する
1月19日（火）	9:00	11:45	12:45	17:00				
		受付	課題協議3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 国立大学法人千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	休食	講義・演習2 「学校におけるリスクマネジメント」 パーム コンサルティング グループ 代表 伊原 正俊 目的：学校における危機管理の手法について理解を深める			
1月20日（水）	9:00	10:50	11:00	12:00	13:00			17:00
		受付	事例発表 「学校運営の課題と改善策について」 9:50 10:00 事例発表① 千葉県立佐原高等学校 事務主幹 阿玉 新一 事例発表② 東京都立工芸高等学校 経営企画室長 柴谷 嘉彦 事例発表③ 栃木県立聾学校 事務長 大塚 和男 目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務長に期待されていることを確認する	休食	演習3 「学校運営を支える事務長の役割」 目的：学校を運営する上で、事務長に求められている役割について課題をもつ	講義・演習4-① 「学校組織マネジメント」 龍谷大学 教授 小島 弘道 目的：学校組織マネジメントによる学校業務の検討方法について具体的に理解を深める		
1月21日（木）	9:00		12:00	13:00				17:00
		受付	講義・演習4-② 「学校組織マネジメント」 龍谷大学 教授 小島 弘道 目的：学校組織マネジメントによる学校業務の検討方法について具体的に理解を深める	休食	演習5 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 矢戸 和成 目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割を整理する			
1月22日（金）	9:00	11:20	11:30	12:00	12:15			
		受付	演習6 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 矢戸 和成 発表 目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割について理解を深める	休食	課題協議4 「研修を生かした学校運営の充実を図る方策」 目的：研修内容を整理し、学校運営の充実に繋がる方策について理解する	閉講式		

※演習1, 3, 5, 6については原則として以下に分かれて実施
 1. 特色ある学校の運営（普通科）
 2. 特色ある学校の運営（専門学科）
 3. 特色ある学校の運営（総合学科）
 4. 特色ある学校の運営（特別支援学校）

I 研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：6か月）					
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 都道府県・政令指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 					
開催期日	別紙のとおり					
受講人数	計画人数	25 人	受講者数	9 人	参加率	36.0%
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体計画人数 100 人、受講者数 38 人、参加率 38.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	9	0	0	0	0	0	9
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	9	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 語学研修では、昨年度と違い一つのコースを最初から最後まで通して受講することができ大変有意義だった。また、世界各地の学生たちと共に英語を学べたことが本当に貴重な経験となった。 どの講師も大変丁寧に、親身になって指導していただいた。特にアカデミック・ライティングの授業は、大学研修でのプロジェクト作成に大変役立った。 大学研修では、日本の英語教育に精通した講師陣の指導を受けることができた。自分たちで実際に日本の生徒を思い浮かべてのミニ授業やプレゼンテーションなど実践的な活動がとても有意義であった。 マイクロティーチングの実践と振り返り、4技能全てにおいてのプレゼンテーションと振り返り、各講師からのフィードバックなどから、自分の指導の改善点、工夫点を明らかにすることができた。それを踏まえた上で、プロジェクト（帰国後の授業で実践可能なコミュニケーションを主体とする活動と授業案）を作成することができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修先大学の研修プログラムを考慮し、派遣日程を設定した。 英語教育コース（6か月、2か月）及び国際理解教育コース（3か月）の帰国報告会を同時開催し、それぞれの研修成果を共有した。 <p>次年度に向けて (平成21年度をもって廃止)</p>

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（32ページ参照）

I 研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：2か月）							
担当課グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 ・都道府県・政令指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 							
開催期日	別紙のとおり							
受講人数	計画人数	50	人	受講者数	21	人	参加率	42.0%
開催場所	別紙のとおり							

※全体計画人数 100人、受講者数 38人、参加率 38.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	18	3	0	0	0	0	21
割合 (%)	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な視点から英語教授に必要な知識や実践力を養う講義が多く、アイデアも豊富で大変参考となった。生徒の興味関心をひきつけるような工夫、授業構成など、今後授業で実践していきたい。 ・講義、演習、ディスカッションを通じて自らの課題が認識できた。また、その解決に向けた新しい英語指導法を学ぶことができた。 ・講義は常に双方向の講義であり、演習は研修生間でのタスク中心の演習であったため、英語4技能を活用させ積極的に参加することが求められた。そのことが英語力の向上につながった。 ・大変有意義な研修でした。ただ、研修期間中に各研修生の研修課計画や課題にそった個別の指導・助言の時間を確保していただけると、さらに研修を深めることができたのではと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修先大学の研修プログラムを考慮し、派遣日程を設定した。 ・英語教育コース（6か月、2か月）及び国際理解教育コース（3か月）の帰国報告会を同時開催し、それぞれの研修成果を共有した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後研修会を実施し、研修成果を共有する。 ・研修成果について、報告書を作成し広めていくようにする。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（32ページ参照）

I 研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：3か月）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 ・都道府県・政令指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 							
開催期日	別紙のとおり							
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	8	人	参加率	32.0%
開催場所	別紙のとおり							

※全体計画人数 100人、受講者数 38人、参加率 38.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	8	0	0	0	0	0	8
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・参加者ごとに州内の各地区に分かれ、現地学校関係者宅にホームステイ滞在をしながら、その地域の学校で授業を行うことで、教育事情を直接体験し、アメリカの日常生活、文化を肌で体感できた。日本との共通点、相違点、それぞれの国の長所、短所など多面的な角度から考えることができた。 ・考える過程を重視することや実体験の機会を多く持つといった教育を実践しており大変参考になった。 ・多文化国家のアメリカで研修したことで、自分の民族の文化を大切にしながら、他民族の文化を尊重するという国際理解の精神を体験できた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修先大学の研修プログラムを考慮し、派遣日程を設定した。 ・英語教育コース（6か月、2か月）及び国際理解教育コース（3か月）の帰国報告会を同時開催し、それぞれの研修成果を共有した。 <p>次年度に向けて （平成21年度をもって廃止）</p>

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（32ページ参照）

平成21年度 教職員等海外派遣研修

英語教育コース:2か月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
イギリス	バーミンガム大学	9	5/11～5/12 教員研修センター (茨城県つくば市)	7/17～9/14	1/2 GRS東京駅八重洲 ビジネスセンター (東京都中央区)
アメリカ	デンバー大学	12		7/19～9/15	
計		21			

英語教育コース:6か月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
カナダ	オタワ大学	9	4/20～4/21 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/18～12/10	1/22 GRS東京駅八重洲 ビジネスセンター (東京都中央区)
計		9			

国際理解教育コース:3か月

派遣国	派遣州	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
アメリカ	ウィスコンシン州団	8	6/29～6/30 教員研修センター (茨城県つくば市)	9/15～12/11	1/22 GRS東京駅八重洲 ビジネスセンター (東京都中央区)
計		8			

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	<p>学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、業務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。</p> <p>本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事・管理主事等及び教育センターの指導主事・研修主事等で、学校組織マネジメントの普及・充実または学校組織マネジメント研修の企画・実施を担当する者並びにそれに準ずる者 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年9月28日（月）～平21年10月2日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	130	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 220人、受講者数 242人、参加率 110.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	101	23	0	0	6	0	130
割合 (%)	77.7	17.7	0.0	0.0	4.6	0.0	
	124						
	95.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習を通して、マネジメントについていろいろな面からのアプローチの仕方を学ぶことができました。また他県の先生方の言動からも刺激を受けることができました。こういう機会を与えていただき感謝しています。 ・非常に中身の濃い研修でした。毎日納得させられることばかりで、とてもよかったと思います。 ・演習を行うことで、必要性・有効性を実感できました。 ・各講話等のつながりがあり、全体としてまとまった研修となった。 ・知らないことを知る喜びがあり、ありがたかった。 ・全国的な動向や新たな知識・技能が身についた。 ・組織マネジメント活用の意図が明確に整理された。早く自校職員へ伝え、演習したい。 ・特に民間の方の講義が印象に残った。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の自己課題をふまえて、講義、実践発表、演習を通してより実践的な内容を学べるように、研修内容のつながりを重視したカリキュラムとした。 ・学校組織マネジメントをより多面的な視点から実践できるように、「地域のリソースを生かしたマネジメント」「メンタルヘルスマネジメント」の講義・実践発表を位置づけた。 ・「学校コンサルティングの実際(1)～(3)」において、具体的な研修プログラムについて協議し、実践的な研修運営につなげた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの論理的な理解が進んでいること、視点が多様化していることから、次年度は、より多面的かつ実践的なプログラムとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程

平成21年 9月28日(月)～10月2日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
1日目				開講式	講義 学校経営に関わる改革の動向と マネジメント 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織改革と組織経営に学ぶ～ イマージェンス 代表取締役 桑畑 英紀	休憩	オリエンテーション	オリエンテーション	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとつてのマネジメントの課題～ 千葉大学教授 天笠 茂						
2日目	オリエンテーション	演習 学校コンサル ティングの実際 (1) ～課題協議～	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織改革と組織経営に学ぶ～ イマージェンス 代表取締役 桑畑 英紀	休憩	講義 実践発表・協議 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かしたマネジメント ・学校支援地域本部 ・学校運営協議会 (2)業務改善・学校評価によるマネジメント 千葉大学教授 天笠 茂	休憩	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション	講義 オリエンテーション
3日目	オリエンテーション	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(1) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(1) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～
4日目	オリエンテーション	講義・演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	休憩	講義・演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	休憩	講義・演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一
5日目	オリエンテーション	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	休憩	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	休憩	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	<p>学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、業務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。</p> <p>本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事・管理主事等及び教育センターの指導主事・研修主事等で、学校組織マネジメントの普及・充実または学校組織マネジメント研修の企画・実施を担当する者並びにそれに準ずる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年10月19日（月）～平成21年10月23日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	112	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 220人、受講者数 242人、参加率 110.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	100	10	0	0	2	0	112
割合 (%)	89.3	8.9	0.0	0.0	1.8	0.0	
	110						
	98.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 民間等異分野の考え方、全国の力のある先生方、異なる視点からの指摘や考察が有意義であった。 講師の先生が素晴らしい方ばかりで、本当に勉強になった。今後は本研修で学んだ内容の定着、普及に努めたい。 最新の知見・手法を学ぶことができました。研修の進め方についても学びました。 中央でしか聞けない講師の先生や、全国各地から集われた先生方の話をきかせていただき、大変有意義でした。 充実した講師と他県の教育に触れさせていただいたことに、心から感謝いたします。 学校の組織化を推進する上で役立つ内容であった。また、組織マネの手法は、授業づくりにおいても十分活用できるものである。 質の高い研修内容、全国から集まった方々の中で学ぶことを通して、かなり自分自身STEP UPできた。今後も研修を積み重ねていくつもりである。 第一線の講師の方々のご指導を受けられる点は、特に貴重であると思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講者の自己課題をふまえて、講義、実践発表、演習を通してより実践的な内容を学べるように、研修内容のつながりを重視したカリキュラムとした。 学校組織マネジメントをより多面的な視点から実践できるように、「地域のリソースを生かしたマネジメント」「メンタルヘルスマネジメント」の講義・実践発表を位置づけた。 「学校コンサルティングの実際(1)～(3)」において、具体的な研修プログラムについて協議し、実践的な研修運営につなげた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校組織マネジメントの論理的な理解が進んでいること、視点が多様化していることから、次年度は、より多面的かつ実践的なプログラムとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程

平成21年10月19日(月)～10月23日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	11:45	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
1日目	オリエンテーション	演習 学校コンサルティングの実際(1) ～課題協議～	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織改革と組織経営に学ぶ～ CCC株式会社 代表取締役COO 柴田 励司	講義 学校経営に関わる改革の動向と マネジメント 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇	休憩	休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 実践発表・協議 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かしたマネジメント ・学校支援地域本部 和田 聡史 ・学校運営協議会 榎本 智司 (2)業務改善・学校評価によるマネジメント 千葉大学教授 天笠 茂	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	演習 戦略マップ作成に向けて	演習 学校コンサルティングの 実際(2) ～研修プログラムの作成～
2日目	オリエンテーション	演習 学校コンサルティングの実際(1) ～課題協議～	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織改革と組織経営に学ぶ～ CCC株式会社 代表取締役COO 柴田 励司	講義 学校経営に関わる改革の動向と マネジメント 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇	休憩	休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 実践発表・協議 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かしたマネジメント ・学校支援地域本部 和田 聡史 ・学校運営協議会 榎本 智司 (2)業務改善・学校評価によるマネジメント 千葉大学教授 天笠 茂	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	演習 戦略マップ作成に向けて	演習 学校コンサルティングの 実際(2) ～研修プログラムの作成～
3日目	オリエンテーション	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(1) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(2) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法(1) ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	休憩	休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 実践発表・協議 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かしたマネジメント ・学校支援地域本部 和田 聡史 ・学校運営協議会 榎本 智司 (2)業務改善・学校評価によるマネジメント 千葉大学教授 天笠 茂	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	演習 戦略マップ作成に向けて	演習 学校コンサルティングの 実際(2) ～研修プログラムの作成～
4日目	オリエンテーション	講義・演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	休憩	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	休憩	休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 実践発表・協議 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かしたマネジメント ・学校支援地域本部 和田 聡史 ・学校運営協議会 榎本 智司 (2)業務改善・学校評価によるマネジメント 千葉大学教授 天笠 茂	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	演習 戦略マップ作成に向けて	演習 学校コンサルティングの 実際(2) ～研修プログラムの作成～
5日目	オリエンテーション	講義・演習 学校コンサルティングの実際(3) ～効果的な研修プログラムとするために～ 群馬県高崎女子高等学校長 飯野 眞幸	休憩	講義・演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	講義・演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	休憩	休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー 国士館大学 教授 北神 正行	講義 実践発表・協議 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かしたマネジメント ・学校支援地域本部 和田 聡史 ・学校運営協議会 榎本 智司 (2)業務改善・学校評価によるマネジメント 千葉大学教授 天笠 茂	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	演習 戦略マップ作成に向けて	演習 学校コンサルティングの 実際(2) ～研修プログラムの作成～

I 研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修(東部ブロック)							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学校が組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図るため、自己評価、学校関係者評価の在り方等、学校改善につながる学校評価を円滑に推進するために必要な知識及び技能を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成21年10月26日(月)～平成21年10月29日(木)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	100	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※全体計画人数 220人、受講者数 218人、参加率 99.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	73	22	0	0	5	0	100
割合 (%)	73.0	22.0	0.0	0.0	5.0	0.0	
	95	95.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の体系がしっかりと生まれ、課題協議と演習につながりがあり、4日間に学校評価の基礎基本から実践的な手法まで組み込まれ、とても内容の濃い研修でした。 ・演習が多く演習1～5まで指導者としての力をつけるものになっていた。特に事例を具体的な指導助言にまで流れ力をつけさせている。 ・研修のねらいである各地域で行われる学校評価の講習会の講師として充たな知識、技能を習得し、自信を深めることができた。今まで疑問に感じていたこともすっきりと解決することができた。 ・講義、演習によって自分自身や本市の課題が明確になりました。 ・問題協議の内容が充実しており、理解を深めることができた。さらに演習の実施により自分のこととして課題を把握し課題解決に向けての考えを整理することができ、またさまざまな手法を学ぶことができた。 ・集中的に4日間で深く「学校評価」について学べたことで、地域へ帰ってからの指導者としての自信につながり、積極的な推進のための研修であった。もっと学びたかった。 ・第一線で研究されている先生方の講義、各県の事例と持ち寄った演習がバランスよく組み合わせられていて良いと感じた。参考になるところ、得るものが大きかった。 ・各県及び市町村での学校評価の進捗状況を把握することができ、大変有意義な研修会であった。学校評価の意義必要性、手法等大変多くのことを学ばせていただいた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題協議「国際比較による学校評価」のコマを見直し、「学校組織を生かした学校評価の在り方」を設定した。 ・事例発表に、学校と設置者だけでなく、学校関係者評価委員からの発表を加えた。 ・演習1から演習5までの活動内容を明確にするとともに、つながりを持たせた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校組織を生かした学校評価の在り方」と「学校改革に求められるリーダーシップ」の講義内容に重複がないように講師選定を行い依頼する。 ・東部と西部における取組状況の地域差や受講者のニーズに応じたカリキュラム内容の検討 ・本研修内における第三者評価の位置づけ ・演習内容の検討

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 学校評価指導者養成研修（東部ブロック）

日程表

第1日目	10月26日 (月)	10:00 10:30 受付	11:00 11:15 開講式	12:15 13:15 昼休み	13:15 14:45 課題協議2 「学校組織を生かした学校評価の在り方」 国土領大学教授 北神正行	14:45 15:00 休憩	15:00 17:00 演習1 「各地域における学校評価の取組」 ◎目的：各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有する
第2日目	10月27日 (火)	9:00 10:20 課題協議3 「学校改革に求められるリーダーシップ」 岡山大学教授 瀬上克義 ◎目的：学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等について理解を深める	10:35 10:50 休憩	12:30 13:30 昼休み	13:30 14:45 事例発表・協議 「学校評価の実際と学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 福島県教育庁指導主事 小林素宣 福島県立川俣高等学校教頭 高梨哲夫	14:45 15:00 休憩	15:00 17:00 演習2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～現状と課題の明確化～」 ◎目的：事例検討を通して、学校評価の手法に係る現状と課題を明確化する
第3日目	10月28日 (水)	9:00 10:20 演習3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～実効性ある学校評価をめざした学校関係者評価の在り方を学ぶ～」 ＜指導助言者＞ 小学校部会：国立教育政策研究所主任研究官 植田みどり 中学校部会：兵庫教育大学准教授 大野裕己 高等学校部会：玉川大学教授 小松郁夫 ◎目的：学校評価の手法についての知識を得るとともにその生かし方を学ぶ	10:35 10:50 休憩	12:00 13:00 昼休み	13:00 14:45 演習4 「効果的な学校評価を展開するために～自己評価と学校関係者評価の充実に向けた研修プログラムの作成～」 ＜指導助言者＞ 小学校部会：国立教育政策研究所主任研究官 植田みどり 中学校部会：兵庫教育大学准教授 大野裕己 高等学校部会：玉川大学教授 小松郁夫 ◎目的：研修プログラムの作成を通して、効果的な学校評価の手法および展開方法を身につける	14:45 15:00 休憩	15:00 17:00 部会発表・協議
第4日目	10月29日 (木)	9:00 10:20 演習5 「学校評価の充実に向けて～全体発表・協議～」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学准教授 大野裕己 ◎目的：学校評価の充実を図るための方策について理解を深める	10:35 10:50 休憩	12:20 12:35 閉講式	12:35 14:45 課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省 初等中等教育局視学官 宮崎活志 ◎目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	14:45 15:00 休憩	15:00 17:00

I 研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修(西部ブロック)							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学校が組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図るため、自己評価、学校関係者評価の在り方等、学校改善につながる学校評価を円滑に推進するために必要な知識及び技能を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成21年12月1日(火)～平成21年12月4日(金)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	118	人	参加率	※
開 催 場 所	新梅田研修センター(大阪市)							

※全体計画人数 220人、受講者数 218人、参加率 99.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	73	42	0	0	3	0	118
割合 (%)	61.9	35.6	0.0	0.0	2.5	0.0	
	115						
	97.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・手さぐり状態で行っていた自己評価、関係者評価に対して、一步も二歩も前進できる研修内容でした。とくに演習では、自らの今までの実践への振り返りができ、とても充実した4日間でした。 ・学校評価の在り方、実施に向けた工夫、留意点について、講話、先進校の実例、演習を組み合わされた有益な研修だと思えます。 ・講義・実践発表、協議(演習)のバランスも配列も内容もよく、よい研修となった。何よりグループ内での演習に十分時間が割り当てられ、課題解決のための研修プログラム作成は有意義であった。 ・学校評価を円滑に実施し、学校改善に有効に働くためのプログラムが準備されており、今後、地元での研修会の企画・立案を行う上で大いに参考となった。特に各講師陣による講演は、今まで疑問に感じていたことを解決するための大きな手がかりとなった。 ・学校評価の各県や各学校における課題や実情を把握するとともに、改めて意義や目的を理解することができた。評価のための評価ではなく、学校改善のための評価とするために、学校評価のポイントや手法を学ぶことができた研修であった。 ・先進校の実践を発表形式とグループ協議形式の演習があったことにより、自校の課題がとても具体的になった。また、講演の講師の先生の内容が明解で、認識を深めることに大いに役だった。 ・講義の内容が評価のみではなく、評価と関連した教育論であったり、組織論だったり、とてもわかりやすく充実していた。また、前半の内容が後半のワークショップ・KJ法等に生かされた研修だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題協議「国際比較による学校評価」のコマを見直し、「学校組織を生かした学校評価の在り方」を設定した。 ・事例発表に、学校と設置者だけでなく、学校関係者評価委員からの発表を加えた。 ・演習1から演習5までの活動内容を明確にするとともに、つながりを持たせた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校組織を生かした学校評価の在り方」と「学校改革に求められるリーダーシップ」の講義内容に重複がないように講師選定を行い依頼する。 ・東部と西部における取組状況の地域差や受講者のニーズに応じたカリキュラム内容の検討 ・本研修内における第三者評価の位置づけ ・演習内容の検討

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 学校評価指導者養成研修（西部ブロック）
日程表

第1日目	12月1日 (火)	10:00 10:30 受付	11:00 開講式	11:15 課題協議1 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎浩志	12:15 休み	13:15 課題協議2 「学校組織を生かした学校評価の在り方」 筑波大学教授 浜田博文	14:45 15:00 休憩	15:00 演習1 「各地域における学校評価の取組」 ◎目的：各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有する	17:00
第2日目	12月2日 (水)	9:00 10:20 課題協議3 「学校改革に求められるリーダーシップ」 岡山大学教授 淵上克義 ◎目的：学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等について理解を深める	10:35 休憩	12:30 事例発表・協議 「学校評価の実際と学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 静岡市教育委員会 中田雅之 静岡市立城山中学校 高橋照枝 静岡市立城山中学校 石野弘康 ◎目的：先行事例の取組を知ることにより、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等について理解を深める	13:30 休み	14:45 15:00 休憩	15:00 演習2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～現状と課題の明確化～」 ◎目的：事例検討を通して、学校評価の手法に係る現状と課題を明確化する	17:00	
第3日目	12月3日 (木)	9:00 演習3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～実効性ある学校評価をめざした学校関係者評価の在り方を学ぶ～」 ＜指導助言者＞ 小学校部会：国立教育政策研究所主任研究官 植田みどり 中学校部会：玉川大学教授 小松郁夫 高等学校部会：山梨大学教授 日永龍彦 ◎目的：学校評価の手法についての知識を得るとともにその生かし方を学ぶ	12:00 休み	13:00 演習4 「効果的な学校評価を展開するために～自己評価と学校関係者評価の充実に向けた研修プログラムの作成～」 ＜指導助言者＞ 小学校部会：国立教育政策研究所主任研究官 植田みどり 中学校部会：玉川大学教授 小松郁夫 高等学校部会：山梨大学教授 日永龍彦 ◎目的：研修プログラムの作成を通して、効果的な学校評価の手法および展開方法を身につける	17:00				
第4日目	12月4日 (金)	9:00 演習5 「学校評価の充実に向けて～全体発表・協議～」 ＜指導助言者＞ 山梨大学教授 日永龍彦 ◎目的：学校評価の充実を図るための方策について理解を深める	11:10 休憩	12:20 課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省 初等中等教育局視学官 日置光久 ◎目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	12:35 閉講式	17:00			

I 研修概要

研修名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研修目的	<p>学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。</p> <p>このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修及び「総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」の講師等としての活動を行う予定である者 					
開催期日	平成22年1月25日（月）～平成22年1月29日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	160人	受講者数	171人	参加率	106.9%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	158	12	0	0	0	1	171
割合 (%)	92.4	7.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
	170	99.4					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・5日間でカリマネの概要を知り、実践につながる手法を知ることができてよかった。PDCAサイクルをいかに有効に活用していくことが大切なのかということがわかった。 ・これからの学校教育活動を見直す手法として、本研修で学んだことは大きかった。特にWS型研修の各種類知り、また体験できたことは今後に生かせると思います。同県・全国の先生方との情報交換も有意義でした。 ・今後、委員会、現場でぜひ実践してみたいと自分が思えた研修だったのでよかった。講義も短く感じられ、新しい視点でのお話だった。また研修した内容をパワーポイントで資料として持ち帰れるので、すぐに実践に移せると感じた。 ・日を追う毎に研修の意義について、自分なりに理解することができ、5日間があつという間でした。計画が綿密で、内容の濃い講話をしていただいた事、班のメンバーに恵まれ、改めて教師の仕事に意欲とやる気のでる研修でした。 ・5日間集中して研修に取り組めたことはとてもよかったです。講師も各分野の著名な方で、講義・演習とも大変理解しやすかったです。また、通常の都や市内の研修と異なり、全国の方々と情報交換もでき、今後のネットワークも広がりました。ありがとうございました。 ・教科を横断するキャリア教育、道徳、総合、そして言語活動の充実などは学校の中ではどうしても推進していかないことが多い。今回カリキュラムマネジメントをテーマに沿って考えることで、授業改善が行われ、生徒・教師・学校がかかわることがよく理解できた。学校に戻ったら使えることやできることからやってみようという気持ちになれた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容を精選し、活動内容を日にちを分けて分散した。 ・事例発表・協議の際のワークシートを見直し、協議時の作業が取り組みやすいようにした。 ・講義・演習2における各部会講師の講義を30分ずつ全体で聴講できるようにした。 ・演習3-1の作業に取り組みやすいよう、前日に担当講師から進め方等について説明を行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの点検・評価の講義の充実を図るため、講義で扱う内容及び講師の選定について検討する。 ・講義・演習2のまとめ方の工夫。 ・演習3-1の作業時間が短いという意見が多いので内容の精選、およびPC環境の検討。 ・演習3-2において講師に講評をお願いする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程表

第1日目	9:45 10:15 10:45	11:45 12:45	14:15 14:25	15:55 16:05	17:00
1月25日 (月)	開講式 受付	課題協議1 「新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント」 文部科学省初等中等教育局初学官 日置光久 ◎目的：新学習指導要領に位置づけられているカリキュラム・マネジメントについて理解する	課題協議2 「カリキュラム・マネジメントの基本とその役割」 筑波大学教授 田中統治 ◎目的：カリキュラム・マネジメントとは何か、学校運営における役割について理解する	休憩 課題協議3 「カリキュラム評価と改善」 千葉大学教授 天笠 茂 ◎目的：カリキュラム評価と改善方法について知識・理解を得る	休憩 演習1 「各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組」 ◎目的：各地域の取組を知るとともに、課題を共有する
第2日目	9:00	10:20 10:30	12:00 13:00	15:20 15:30	17:00
1月26日 (火)	課題協議4 「学校におけるカリキュラム・マネジメントの展開」 中村学園大学講師 田村知子 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを展開するために効果的な校内体制や研修などの方策について知識・理解を得る	事例発表・協議 「学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題」 (言語活動)上越市立国府小学校教頭 宮野正則 (道徳教育)尾道市立久保中学校教諭 猪又千恵子 (総合的な学習の時間)上越市立大手町小学校 主幹教諭 古川昭生 (キャリア教育)静岡県立斐山高等学校教諭 野田 晃 小林祥子 ◎目的：先行事例を通して、学校の特色を生かしたカリキュラムの編成とその適正なマネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、課題をもつ	休憩 課題協議5 「カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の手法」 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘	休憩 ◎目的：教職員のカリキュラム・マネジメントマイナートを高めるための手法について知識・理解を得る	
第3日目	9:00	12:00 13:00	17:00		
1月27日 (水)	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメントの実際」 ＜全体での指導助言者＞ 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘 中村学園大学講師 田村知子 ◎目的：カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討を通して必要な視点学ぶ ①言語活動部会 ②道徳教育部会 ③総合的な学習の時間部会 ④キャリア教育部会	休憩 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを推進するために一研修成果の活用に向けた資料作成一	班別演習 富山哲也 瀬藤嘉則 田村 晃 藤田晃之	全体発表 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを推進するために一研修成果の活用に向けた資料作成一	全体会(まとめ)
第4日目	9:00	12:00 13:00	17:00		
1月28日 (木)	演習3-1 「カリキュラム・マネジメントを推進するために」 班別演習 奈良教育大学准教授 赤沢早人 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを推進するために本研修成果の効果的な活用方法を学ぶ	休憩			
第5日目	9:00	10:30 10:45	12:00 12:15		
1月29日 (金)	演習3-2 「カリキュラム・マネジメントを推進するために」-全体発表・協議- 大阪教育大学長 長尾彰夫 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める	課題協議6 「研修講師となるために」 大阪教育大学長 長尾彰夫 ◎目的：カリキュラム・マネジメントに関する研修講師となるための課題整理する	閉講式		

I 研修概要

研修名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂を踏まえて、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、各都道府県等における研修の講師や各学校への指導・助言を行う指導者を育成する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年8月26日（水）～平成21年8月28日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	111	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 220 人、受講者数 218 人、参加率 99.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	91	19	0	0	1	0	111
割合 (%)	82.0	17.1	0.0	0.0	0.9	0.0	
	110						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

- 各教科等をつらぬいて言語活動を充実させていく視点や、授業の具体について示していただき、理解が深まった。研修内容について、自分で整理し、今後担当する研修講座の中で、活用していきたい。
- 今まであいまいだったことや疑問点の多くを明らかにしたり、理解を深めることができた。演習等において作成した指導案を具体的な充実策として地域学校に還元していきたい。
- コース別演習では言語活動の授業への取り入れ方について、模擬授業を通して実際の授業を想定することができ、有意義な演習であった。
- 新学習指導要領に書かれた内容についての理解を深めることができ、殊に「言語活動」に関する認識を新たにできた事が大変有意義だった。また、他地域の先生方と交流し、色々な情報を交流し合えた事も良かった。
- 全体カリキュラム、各教科（国語以外）への参加者を増やすことが重要と感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- 初日の冒頭に研修のねらい等を話すコマを入れる。
- 最終日の演習の発表を模擬授業形式にすることにより、現場に戻ってからの実践にすぐ移せるようにする。
- 海外派遣報告については、他国での状況だけではなく、日本でどのように活用するかという視点も入れて講義を行ってもらう

次年度に向けて

- 事例発表の内容を協議する時間をとる。
- 演習の発表をポスターセッション形式にして、様々な班の発表を聞くことができきできるようにする。
- 「研修講師となるために」の時間を十分にとる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（東部ブロック）

1日 8月26日 (水)	9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00	<p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p> <p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p>	<p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p> <p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p>
<p>8月26日 (水)</p> <p>国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（東部ブロック）</p>	<p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p> <p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p>	<p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p> <p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p>	<p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p> <p>9:30 10:00 10:30 11:10 11:20 12:25 13:25 14:45 15:00 17:00</p>

2日 8月27日 (木)	9:00 9:30 9:40	<p>9:00 9:30 9:40</p> <p>9:00 9:30 9:40</p>	<p>9:00 9:30 9:40</p> <p>9:00 9:30 9:40</p>
<p>8月27日 (木)</p> <p>国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（東部ブロック）</p>	<p>9:00 9:30 9:40</p> <p>9:00 9:30 9:40</p>	<p>9:00 9:30 9:40</p> <p>9:00 9:30 9:40</p>	<p>9:00 9:30 9:40</p> <p>9:00 9:30 9:40</p>

3日 8月28日 (金)	9:00 12:45 13:00	<p>9:00 12:45 13:00</p> <p>9:00 12:45 13:00</p>	<p>9:00 12:45 13:00</p> <p>9:00 12:45 13:00</p>
<p>8月28日 (金)</p> <p>国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（東部ブロック）</p>	<p>9:00 12:45 13:00</p> <p>9:00 12:45 13:00</p>	<p>9:00 12:45 13:00</p> <p>9:00 12:45 13:00</p>	<p>9:00 12:45 13:00</p> <p>9:00 12:45 13:00</p>

I 研修概要

研修名	国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂を踏まえて、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、各都道府県等における研修の講師や各学校への指導・助言を行う指導者を育成する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年8月5日（水）～平成21年8月7日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	107	人	参加率	※
開催場所	九州大学医学部（福岡県福岡市）							

※ 全体計画人数 220 人、受講者数 218 人、参加率 99.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	77	28	1	0	0	1	107
割合 (%)	72.0	26.2	0.9	0.0	0.0	0.9	
	105	98.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 非常に価値ある3日間でした。調査官の先生方や全国の先生方との出会いの中で多くを学びました。全国レベルの研修会でしか得られない多くの貴重な学びがありました。このような研修に参加できたことに心から感謝しております。今後この研修会で得た学びを地元へ広げ教育活動の活性化に徹力ながら尽くしていきたいと思えます。 単元、1時間の中で意識して指導していくことの大切さ、また具体的な方策について研修を深めることができ大変勉強になりました。 現場では、授業改善に熱心に取り組んでいるが、そのよりどころとなる指導要領ができるまでの経緯（答申、学校教育法、教育基本法）を理解したうえで、のぞまないとはいけないと思った。講義・演習などで学んだことを、帰って整理したい。学んだ事が自分の言葉で表現できるようにしていきたい。 「言語活動の充実」という言葉はよく知っているつもりだったが、本研修を通して、よりよく具体的に理解することができた。研修内容も、講義での理論に加え、参加型の研修もあり、主体的に学ぶ事ができた。講師から学んだのは当然、参加者（他府県の）からも多くの事を学ぶことができたのでよかった。 何のための「言語活動の充実」なのか、この3日間の研修を通してよく理解することができました。管内の学校への指導や今後の施策の参考になると思います。ただ、全体的に短期間にカリキュラムを盛り込みすぎている感もあります。 成果物について、もっと議論していくことが大切と思う。理解と深める上で。そのため、形態についても工夫が必要と思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 初日の冒頭に研修のねらい等を話すコマを入れる。 最終日の演習の発表を模擬授業形式にすることにより、現場に戻ってからの実践にすぐ移せるようにする。 海外派遣報告については、他国での状況だけではなく、日本でどのように活用するかという視点も入れて講義を行ってもらう <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例発表の内容を協議する時間をとる。 演習の発表をポスターセッション形式にして、様々な班の発表を聞くことができるようにする。 「研修講師となるために」の時間を十分に取る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（西部ブロック）

1 8月5日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:10	11:20	12:25	13:25	14:45	15:00	17:00
	受付	開講式	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 田中孝一	国語力向上指導者養成研修 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 -1 諸外国における取組 (11:20-12:25) 国立大学法人熊本大学 准教授 渡邊あや -2 国内における取組 (事例発表) (13:25-14:45) ・事例発表 15分×3校、準備5分 ①香川県 三豊市立吉津小学校 ②広島県 江田島市立三高中学校 ③京都府 京都市立堀川高等学校 ・質疑応答 20分 ・講評(ポイント整理) 10分 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当)	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩	研究協議 「各教科等における言語活動の充実について」 ①小学校分科会 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治 ②中学校分科会 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 富山哲也 ③高等学校分科会 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 西辻正副	
2 8月6日 (木)	9:30	9:40	9:00	9:30	9:40	12:45	13:00	17:00		
	移動	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治
3 8月7日 (金)	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	12:45	13:00	17:00		
	全体会議	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治	国語力向上指導者養成研修 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局課長 佐藤 直樹(担当) 水戸部修治

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年6月8日（月）～平成21年6月12日（金）					5日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	232	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、受講者数 985 人、参加率 111.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	187	43	0	0	2	0	232
割合 (%)	80.6	18.5	0.0	0.0	0.9	0.0	
	230						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・すばらしい講師陣に加え、プログラムもとてもよかった。心に残りまた、指導助言等の方向性が明確になった。有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・高等学校においては新しい学習指導要領に位置づけられた道徳教育の目指すべき視点を整理することができました。また学校における全体計画の作成にあたっていろいろと協議することで、自分なりに方向性を見出した気がします。ご指導ありがとうございました。
- ・全国の代表の方々が集った研修だけあって、講師、内容とも大変素晴らしく質的に優れていた。また参加者の意識も高く、演習の中身も有意義であった。各県、自治体の情報、状況また成果と課題も共有できたことも私にとって、また本県にとっても大きな宝になったと考えている。
- ・課題協議が大変勉強になりました。またグループでの演習も参考となる取組が多くあり、よかったです。研修の内容と同時に今回“一緒に学んだ仲間”としてつながりが持ったことも何よりの成果と考えます。
- ・道徳教育の充実を目指し、日々努めてきたが、その実りは東京都という狭いエリアの中でのものだったと改めて知らされた。日本全国には多様な課題が山積されていることが、実感でき今後さらに研鑽を積んでいこうという意欲をもつことができた。講師の先生方またこの研修会を企画運営して下さった皆様に感謝申し上げます。
- ・異業種の内容を知ることが、大変有意義でした。高校での全体計画が活用されるように努力したい。研修環境もすばらしく学んだ内容を伝達して行きたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすい項目を設けた。
- ・事例発表には小学校の取組・中学校の取組・集団活動を生かした取組の3種とし、調査官の先生方より発表の視点等について解説および質疑応答を行うようにした。
- ・高等学校部会において、新学習指導要領の先行実施に伴い、全体計画作成の手がかりとなる資料を持参してもらい、付箋紙・模造紙等を利用したワークショップを設定した。

次年度に向けて

- ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。
- ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。
- ・模擬授業の発表について、時間設定、発表時の視点等について再検討する。
- ・課題協議4「若者の感性」に替わるコマの設定を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修） 日程表

第1日目	10:00	10:30	11:50	12:50	14:40	15:00	17:00
6月8日 (月)	10:00	10:30	11:50	12:50	14:40	15:00	17:00
	開講式	受付	行政説明 文部科学省 初等中等教育局 視学官 吉川成夫	オリエンテーション	道徳教育指導者養成研修 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	道徳教育の重要性 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	道徳教育の重要性 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸
				休息	休息	休息	
第2日目	9:00	10:45	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00
6月9日 (火)	9:00	10:45	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00
	道徳教育推進教師を中心とした協働活動と計画づくり（体験活動「心のノート」の作りかた）	道徳教育の具体的な展開 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 東京学芸大学教授 永田繁雄	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸
				休息	休息	休息	
第3日目	9:00	10:45	12:00	13:00	16:15	16:30	17:00
6月10日 (水)	9:00	10:45	12:00	13:00	16:15	16:30	17:00
	道徳教育推進教師を中心とした協働活動と計画づくり（体験活動「心のノート」の作りかた）	道徳教育の具体的な展開 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 東京学芸大学教授 永田繁雄	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸
				休息	休息	休息	
第4日目	9:00	10:45	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
6月11日 (木)	9:00	10:45	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
	道徳教育推進教師を中心とした協働活動と計画づくり（体験活動「心のノート」の作りかた）	道徳教育の具体的な展開 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 東京学芸大学教授 永田繁雄	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸
				休息	休息	休息	
第5日目	9:00	10:10	10:20	12:00	12:20	12:50	17:00
6月12日 (金)	9:00	10:10	10:20	12:00	12:20	12:50	17:00
	道徳教育推進教師を中心とした協働活動と計画づくり（体験活動「心のノート」の作りかた）	道徳教育の具体的な展開 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 東京学芸大学教授 永田繁雄	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸	事例協議 「道徳教育の重要性」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 谷田増幸
				休息	休息	休息	

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）北海道・東北ブロック							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年8月3日（月）～平成21年8月5日（水）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	118	人	参加率	※
開催場所	コラッセふくしま（福島県福島市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 985 人、 参加率 111.9%
 ※道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、 受講者数 753 人、 参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	93	25	0	0	0	0	118
割合 (%)	78.8	21.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	118	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・道徳教育については、推進教師の位置づけや各教科、領域等の関連を図った全体計画・年間指導計画の見直しなど、多くの学校が戸惑いをもっていることから、今回の研修を通して、新学習指導要領が目指しているものについて理解を深めたり、道徳の時間の具体的な実践事例を知ることができたりするなど、今後の指導助言に向け、大変有意義な内容でした。ありがとうございました。
- ・今後、学校でどのように取り組んでいくことで道徳教育を推進させていけばよいのか、学ぶ機会となりました。現状からどう取り組んでいくことが充実につながっていくのか、疑問に思っている先生方も地域には多いと思いますので、少しでもヒントになる内容を伝えていきたいと考えています。大変勉強になりました。
- ・あつという間の3日間であった。研修のすべてを消化してはいないものの、貴重な財産として持ち帰り、ひも解いて学び直し、かみ砕いてしっかりと消化したいなと感じています。そして、今回学び得たことを少しずつ自校の道徳教育に生かすよう、具体的な行動として還元していきたいと思えます。また、自校のみならず、機会があれば、分りやすく語れるよう効果的なまとめをしておきたいと考えます。
- ・事前提出資料を作成することにより、演習で話し合いたい内容を整理することができ、時間の余裕が持てたと思えました。改めて道徳教育の重要性を実感しました。課題協議は短い時間であるにもかかわらず、内容がこく分り易いと思えました。また、新学習指導要領や解説の再なる読み込みの必要性を感じました。
- ・高校ではこれからという部分も多いが、参考になる点が多かった。特に演習は有意義だったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすい項目を設けた。
- ・小中部会において、中央研修の報告を事例発表・協議に変更し、開催県より発表者を1名推薦してもらった。
- ・小中部会において、演習2と3のそれぞれに発表・協議の時間を設けた。
- ・高等学校部会において新学習指導要領を踏まえ、全体計画の作成を念頭においた演習内容とした。

次年度に向けて

- ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。
- ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（北海道・東北ブロック）
基本日程表

第1日目

8月3日 (月)	9:15	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
	受付	開講式	「新学習指導要領が目指す道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	昼休み	「心を育てる道徳教育の具体的展開」 国立大学法人大阪教育大学 教授 藤永 芳純 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	休憩	演習1 「道徳教育の問題点・課題—発達の段階に応じた指導内容の重点化—」 【指導助言者】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

8月4日 (火)	9:00	10:10	10:20	12:15	13:15	14:00	14:10	16:15	17:00
	小・中学校部会	事例発表・協言 「道徳教育推進のための協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 【事例発表者】 小学校：福島市立福島第三小学校教諭 佐藤 倫子 中学校：釧路市立山花中学校教諭 岩間 康浩 【指導助言者】 小学校A：天栄村立大里小学校教頭 橋本 一弥 小学校B：相双教育事務所指導主事 渡邊 義人 中学校A：田村市立移中学校長 宗像 静夫 中学校B：いわき市立永井中学校長 石井 潤	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」	昼休み	演習2 発表・協言	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」とその評価	休憩	発表・協言	
高等学校部会	協言1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 国立大学法人鳴戸教育大学 教授 兼松 儀郎	事例発表・協言 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 愛媛県立小田高等学校 教諭 小田原 寛	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言者】 【助言者】 国立大学法人鳴戸教育大学教授 兼松 儀郎 愛媛県立小田高等学校教諭 小田原 寛	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 国立大学法人鳴戸教育大学教授 兼松 儀郎 愛媛県立小田高等学校教諭 小田原 寛	発表・協言 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」				

第3日目

8月5日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30			
	道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	演習3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる	閉講式					

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）関東・甲信越ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年 8月17日（月）～平成21年 8月19日（水）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	159	人	参加率	※
開 催 場 所	新潟県自治会館（新潟県新潟市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 985 人、 参加率 111.9%
 ※道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、 受講者数 753 人、 参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	119	38	0	0	2	0	159
割合 (%)	74.8	23.9	0.0	0.0	1.3	0.0	
	157						
	98.7						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い内容を研修することができ、道徳教育への意欲付けを図ることができた。講義だけでなく、演習を通して情報交換することができた。各地域や学校の特色ある教育活動の展開を知ることができた。3日間大変お世話になりました。 ・どの講座も新鮮な発見が多くありました。道徳に対する意識が大きく変わり、今後の道徳に対する意欲が高まりました。 ・新学習指導要領に伴った多くの変更点について、改めて整理できました。また各県の様子や取り組みを知ることができ、非常に参考になりました。今後、学校へ持ち帰り、実態に合わせて広めていきたいと考えています。 ・新学習指導要領における道徳教育の重要性について、認識を深めることができました。大変貴重な研修会となりました。「校長のリーダーシップのもとに」「校長が方針を示し」ということが度々出てきましたが、今回の研修は管理職も全てが受講できればよいと感じました。学んだことを、地域・学校に広げていきたいと思っています。 ・新学習指導要領や道徳の概要、演習①②③、実践事例と多岐にわたった研修内容があり、よかった。自校に戻り、自身の実践、自校の体制実践へとさっそく実施したいと考えている。本研修の機会を設けていただいたことに感謝いたします。 ・道徳教育に今後ますます力を入れて取り組まなければならないことがよくわかりました。道徳推進教師の役割や、全校で体制をつくる必要性も参考になりました。各県・各学校での実践例なども状況が様々で、興味深く演習等に参加できました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすいよう項目を設けた。 ・小中部会において、中央研修の報告を事例発表・協議に変更し、開催県より発表者を1名推薦してもらった。 ・小中部会において、演習2と3のそれぞれに発表・協議の時間を設けた。 ・高等学校部会において新学習指導要領を踏まえ、全体計画の作成を念頭においた演習内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。 ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）
日程表

第1日目		9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00		
8月17日 (月)	受付	開講式	「新学習指導要領が目指す道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	昼休み	「結果是る協義2」 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	「演習1」 「道徳教育の問題点・課題一発達の段階に応じた指導内容の重点化」 ◎目的：発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ			
第2日目		9:00	10:10	10:20	12:15	13:15	14:00	14:10	16:15	17:00
8月18日 (火)	小・中学校 校部会	事例発表・協義 「活力ある道徳教育の実践と課題」 新潟県胎内市立大長小学校 河内 靖雄 山梨県北杜市立明野中学校 清水 増美 ◎目的：道徳教育推進のための協力体制と改訂の趣旨を踏まえた計画の作成および、「道徳の時間」の指導の充実に向けた創意工夫ある指導方法について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 指導助言者：三条市立飯田小学校校長 井上 光廣 長岡市立与板中学校教頭 若林 靖人	昼休み	演習2 発表・協義	休憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発発と活用を含めて）」とその評価」	休憩	発表・協義	
第3日目		9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:45	16:00	17:00	
8月19日 (水)	高等学校 校部会	協義1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 宮城教育大学 准教授 藤藤 嘉則 (以降終日 指導助言) ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、高等学校における道徳教育とは何かを理解するとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	事例発表・協義 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 青森県立岩木高等学校 教諭 横山 将顯 (以降終日 指導助言)	昼休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	休憩	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」		
8月19日 (水)	結果是る協義3 「新学習指導要領によるこれらの道徳教育」 昭和女子大学教授 押谷 由夫 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	結果是る協義4 「研修講師となるために」 東京学芸大学教授 永田 繁雄 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	12:15	12:30					

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）東海・北陸ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年8月19日（水）～平成21年8月21日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	132	人	参加率	※
開 催 場 所	福井県国際交流会館（福井県福井市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 985 人、 参加率 111.9%
 ※道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、 受講者数 753 人、 参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	86	43	2	0	1	0	132
割合 (%)	65.2	32.6	1.5	0.0	0.8	0.0	
	129						
	97.7						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・本研修に関連した課題を事前に作成し、自己研修を経て参加したことにより、今日的課題である道徳教育推進のポイントがより明確となりました。また、文科省からの的を得た説明は、雲海の先々までも見通すがごとく何冊も書物に目を通すまでもなく、新指導要領改訂の主旨やそのポイントを押さえることができました。さらにいただいた多くの資料は即現場で使え生きるものだったので、とてもありがたかったです。 ・何のために道徳教育に力を入れなければならないかという原点を見つめ直すことができた3日間でした。全国のすばらしい道徳教育の実践を見せていただき、そこに少しでも近づけるよう日々の実践に取り組んでいきたいと思いました。 ・高等学校の道徳教育について、国の立場、現場の立場から聞くことができ、たいへん参考になった。ただ、高等学校に特化した内容の研修の時間の割合をもっと多くしてもよいと思う。 ・ひとつひとつの研修の内容が濃く、全て大変勉強になった。いただいた資料は3日間では目を通せるものではなく、これからの自己研修に大いに役立つものと思う。2日目のグループ討議では、道徳教育に対する悩みを共有でき、また先進的な取り組みを紹介してもらい、最も充実した時間となった。休み時間も議論や情報交換が続き、時間を延長した研修となった。この教師集団の熱い思いが生徒を動かすのだと感じた。推進教師としての自覚をもち、今だからこそ必要で重要な道徳教育について、さらに理解を深めながら、他へ少しでも発信していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすいよう項目を設けた。 ・小中部会において、中央研修の報告を事例発表・協議に変更し、開催県より発表者を1名推薦してもらった。 ・小中部会において、演習2と3のそれぞれに発表・協議の時間を設けた。 ・高等学校部会において新学習指導要領を踏まえ、全体計画の作成を念頭においた演習内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。 ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（東海・北陸ブロック）

日程表

第1日目

8月19日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
	受付	結果発表協義1 「新学習指導要領が目指す道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解を深める	昼 休 み	結果発表協義2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休 憩	演習1 「道徳教育の問題点・課題一発達の段階に応じた指導内容の重点化一」 ◎目的：発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

8月20日 (木)	9:00	10:10	10:20	12:15	13:15	14:00	14:10	16:15	17:00
	事例発表・協義 「活力ある道徳教育の実践と課題」 富山県氷見市立朝日丘小学校 教諭 坂田 和彦 福井市立光陽中学校 教諭 村野 泉 ◎目的：道徳教育推進のための協力体制と改訂の趣旨を踏まえた計画の作成および、「道徳の時間」の指導の充実に向けた創意工夫ある指導方法について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 小浜市立加斗小学校 教頭 野村 芳弘 福井市東藤島小学校 教頭 嶋田 直美 若狭町立野木小学校 教頭 岩崎 好信 南越地方教育委員会連絡協議会 指導主事 齋藤 為之	昼 休 み	演習2 発表・協義	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」とその評価」 小浜市立加斗小学校 教頭 野村 芳弘 福井市東藤島小学校 教頭 嶋田 直美 若狭町立野木小学校 教頭 岩崎 好信 南越地方教育委員会連絡協議会 指導主事 齋藤 為之	休 憩	発表・協義	発表・協義	
高等学校 部会	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:45	16:00	17:00	
	協義1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、高等学校における道徳教育とは何かを理解するとともに、高等学校における道徳教育の充実に向けた創意工夫ある指導方法について知識・方法を得る	事例発表・協義 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 山梨県立韮崎工業高等学校 教諭 菊島 圭一	昼 休 み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 (指導助言者)くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 (助言者) 山梨県立韮崎工業高等学校 教諭 菊島 圭一	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休 憩	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」		

第3日目

8月21日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	
	結果発表協義3 「豊かな心を育てる道徳教育の展開」 兵庫教育大学 特任教授 小寺 正一 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	結果発表協義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる	閉 講 式			

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）近畿ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年8月19日（水）～平成21年8月21日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	110	人	参加率	※
開 催 場 所	ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター（滋賀県大津市）							

*道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880人、受講者数 985人、参加率 111.9%
 ※道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660人、受講者数 753人、参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	70	39	0	0	1	0	110
割合 (%)	63.6	35.5	0.0	0.0	0.9	0.0	
	109						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・この1学期間、子どもたちが「自分のクラスが好き」「学校が好き」と思えるような指導をするためには何をすべきか、何ができるか、と悩んできました。この研修で学ぶところがたくさんあり、実践にいかしていきたいです。 ・グループに先進的な取り組み（指定を受け）をされている方がおられた。少人数なので質問しやすく、納得のいくまで教えていただくことができよかったです。全体→小グループ→全体→小グループということで学んだことを、どんどん3日間で深めていけてよかったです。 ・今まで、自分自身の道徳教育に対する理解・認識をあらためるうえで、非常に意識ある研修だった。実践を持ち寄っての研修はとてもよかったです。 ・講義では、優れた実践例を紹介していただき、2日目の演習でも互いの実践例を出し合うこともでき、とても参考になった。校内での推進体制をつくっていくという側面と、年間35時間の授業をつくっていくという側面の2つをバランスよく学ぶことができた。また、道徳教育を推進していく上で、「教師としての誇り」を思い起こさせていただけた。 ・高等学校における道徳についての認識がうすく、教育的資源も少ないため、今回の研修により今後の施策を考えていく上で、大変参考になった。今後も高校部会において、多くの参加者(多くの高校や府県)で協議ができればと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすい項目を設けた。 ・小中部会において、中央研修の報告を事例発表・協議に変更し、開催県より発表者を1名推薦してもらった。 ・小中部会において、演習2と3のそれぞれに発表・協議の時間を設けた。 ・高等学校部会において新学習指導要領を踏まえ、全体計画の作成を念頭においた演習内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。 ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（近畿ブロック）
 日程表

第1日目

8月19日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
	受付	開講式 「新学習指導要領が目指す道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼休み	演習1 「子どもたちの心に響く道徳教育の展開」 香川大学 教授 七條 正典	演習2 「道徳教育全般について理解を深める」 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解を深める	演習3 「道徳教育の問題点・課題一発達の段階に応じた指導内容の重点化」 【指導助言】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	演習1 「道徳教育の問題点・課題一発達の段階に応じた指導内容の重点化」 【指導助言】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行

第2日目

8月20日 (木)	9:00	10:10	10:20	12:15	13:15	14:00	14:10	16:15	17:00
	小・中学校 部会	事例発表・協義 ◎目的：道徳教育推進のための協義体制と改訂の趣旨を踏まえ、道徳教育の推進について知識・方法を深める	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協義体制と計画づくり（体験活動、『心のノット』の生かし方も含めて）」 ※小学校A・B部会 中学校A・B部会 【指導助言】 [小学校A部会] 愛荘町立秦荘東小学校 教頭 岸邊 秀子 [小学校B部会] 滋賀県教育委員会事務局学校教育課 指導主事 村田 耕一 [中学校A部会] 米原市立河南中学校 教諭 一ノ宮賢了 [中学校B部会] 滋賀県教育委員会事務局学校教育課 指導主事 鎔廣 修	昼休み	演習2 発表・協義	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発発と活用を含めて）とその評価」 ※小学校A・B部会 中学校A・B部会	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発発と活用を含めて）とその評価」	発表・協義	発表・協義
高等 学校 部会	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	15:45	16:00	17:00	
	高等 学校 部会	協義1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 上越教育大学 教授 林 泰成	事例発表・協義 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 福岡県立ありあり新世高等学校 教諭 田口 博信	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言】上越教育大学 教授 林 泰成	演習2 「学校の間接活動として在り方生き方に関する教育の展開」 【助言】福岡県立ありあり新世高等学校 教諭 田口 博信	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究」 上越教育大学 教授 林 泰成	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究」	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」

第3日目

8月21日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
	高等 学校 部会	演習3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋	事例発表・協義 「道徳教育の意義や役割について理解する」	演習4 「道徳教育の意義や役割について理解する」	閉講式

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）中国・四国ブロック							
担当課グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年10月28日（水）～平成21年10月30日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	121	人	参加率	※
開催場所	高知会館（高知県高知市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 985 人、 参加率 111.9%
 ※道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、 受講者数 753 人、 参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	76	45	0	0	0	0	121
割合 (%)	62.8	37.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	121						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の重要性を心の底から感じる研修でした。他県の実践も数多く知ることができ、帰校後の報告を含めて、広く本研修内容を広めていきたいと考えます。素晴らしい講師の先生方に貴重なご講話をいただいたこと、深く感謝しております。 ・課題協議と演習をバランスよく組み合わせられた研修内容だったので、三日間ではあったが参加者として研修に集中できる内容であった。 ・講義内容も、とてもわかりやすく、多忙な毎日の中いろいろな資料を読んだり、解説書を読み返すだけでは、十分理解できなかったことが3日間でストンと落ちたようにわかりました。これを生かし、研究実践していきたいと思えます。 ・道徳教育の重要性を改めて実感する貴重な研修でした。ありがとうございました。普段お聴きすることのできない先生方の講演が聴けたことは大変うれしいことです。 ・大変充実した3日間でした。課題協議は、どれもすべてすばらしかったです。 ・演習において、先進校の取り組みをお聞きし、現在校の実践にとり入れるべき点が多々あり、有意義であった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすいよう項目を設けた。 ・小中部会において、中央研修の報告を事例発表・協議に変更し、開催県より発表者を1名推薦してもらった。 ・小中部会において、演習2と3のそれぞれに発表・協議の時間を設けた。 ・高等学校部会において新学習指導要領を踏まえ、全体計画の作成を念頭においた演習内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。 ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（中国・四国ブロック）
日程表

第1日目

10月28日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
	受付	開講式 「新学習指導要領が目指す道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼休み	成果発表協義1 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 関西学院大学 教授 横山 利弘	休憩	演習1 「道徳教育の問題点・課題一発達の段階に応じた指導内容の重点化一」	
		◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める		◎目的：道徳教育全般について理解を深める		◎目的：発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

10月29日 (木)	9:00	10:10	10:20	12:15	13:15	14:00	14:10	16:15	17:00
	事例発表・協義 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノット』の生かし方も含めて）」 ※小学校A・B部会 中学校A・B部会 【指導助言】 三原市立楠目小学校 教諭 今久保 美佐 園川 康俊 三原市立第二中学校 教諭 國川 康俊 ◎目的：道徳教育推進のための協力体制と改訂の趣旨を踏まえた計画の作成および、「道徳の時間」の指導の充実に向けた創意工夫ある指導方法について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノット』の生かし方も含めて）」 ※小学校A・B部会 中学校A・B部会 【指導助言】 高知県教育委員会東部教育事務所 指導主事 藤村 真理 [小B部会] 高知県教育委員会中部教育事務所 指導主事 熊岡 彰 [中A部会] 黒潮町立入野小学校 [中A部会] 黒潮町立入野小学校 教諭 徳弘 茂生 [中B部会] 高知県教育委員会西部教育事務所 指導主事 清水 幸賢 ◎目的：道徳教育推進のための協力体制と改訂の趣旨を踏まえた計画の作成および、「道徳の時間」の指導の充実に向けた創意工夫ある指導方法について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る	昼休み	演習2 発表・協義	休憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発発と活用を含めて）」とその評価」	休憩	発表・協義	
	事例発表・協義 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 神奈川県立菅高等学校 教頭 簀田 大	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言】くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 【助言】神奈川県立菅高等学校 教頭 簀田 大		演習2 発表・協義	休憩	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 秋山 博正	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 秋山 博正	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	

第3日目

10月30日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
	成果発表協義3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	成果発表協義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）九州ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年10月28日（水）～平成21年10月30日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	113	人	参加率	※
開 催 場 所	ホテルウェルビューかごしま（鹿児島県鹿児島市）							

*道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 985 人、 参加率 111.9%
 ※道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、 受講者数 753 人、 参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	84	28	0	0	1	0	113
割合 (%)	74.3	24.8	0.0	0.0	0.9	0.0	
	112	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の方の講話が大変分かりやすく、よく理解できました。また実践事例発表の内容も分かりやすく、興味深い内容で勉強になりました。演習では他校、他県の方の多様な取り組みや考え方、指導方法等も知ることができ、自分自身の知識を豊かにすることができたと思います。 ・演習の時間が多く、班内のみなさんの様々な意見が聞け、たいへん参考になりました。また、初日の調査官の方のお話はたいへん心にしました。 ・各演習ではグループ6人で活発な意見交換ができ、これからの道徳教育の実践に向けて大変参考になった。 ・協議・演習ともにバランスよく実施されていて勉強になりました。他の先生方の道徳教育への取り組みを演習では聞けて、参考になり現場で実践していきたいと思いました。 ・道徳教育を推進していくために必要な学校長、道徳教育推進教師を中心とした組織づくり、学習指導要領、具体的な実践につながる全体計画、年間指導計画の作成、授業づくりなど、自分の実践につながる内容、学校での推進につながる内容等、多くの学びがあり、大変良かった。 ・中学校での道徳の活動について、中学校の先生と話、演習をする場もほしかったです。協議の中だけでも小・中学校での取組(心のノートなど)が分かったので、今後の全体計画等の作成に活かしていきたいです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定を分かりやすく焦点化を図り、演習1の課題には記載しやすいよう項目を設けた。 ・小中部会において、中央研修の報告を事例発表・協議に変更し、開催県より発表者を1名推薦してもらった。 ・小中部会において、演習2と3のそれぞれに発表・協議の時間を設けた。 ・高等学校部会において新学習指導要領を踏まえ、全体計画の作成を念頭においた演習内容とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を設ける。 ・演習においては、小中合同と高校部会だけでなく、他の部会構成を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（九州ブロック）
日程表

第1日目

10月28日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
	受付	開講式 「新学習指導要領が目指す道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸	休み	結果発表協議1 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋	休憩	演習1 「道徳教育の問題点・課題一発達の段階に応じた指導内容の重点化一」	
		◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解を深める		◎目的：特別活動を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎目的：発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

10月29日 (木)	9:00	10:10	10:20	12:15	13:15	14:00	14:10	16:15	17:00
小・中学校 教員部会	事例発表・協議 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 ※小学校 A・B 部会 中学校 A・B 部会 【指導助言】 霧島市メディアセンター指導主事 濱崎 忠雄 長島町教育委員会 学校教育課長 木場 宣行 ◎目的：道徳教育推進のための協力体制と改訂の趣旨を踏まえた計画の作成および、「道徳の時間」の指導の充実に向けた創意工夫ある指導方法について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力体制と計画づくり（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 ※小学校 A・B 部会 中学校 A・B 部会 【指導助言】 霧島市メディアセンター指導主事 濱崎 忠雄 長島町教育委員会 学校教育課長 木場 宣行 ◎目的：道徳教育推進のための協力体制と改訂の趣旨を踏まえた計画の作成および、「道徳の時間」の指導の充実に向けた創意工夫ある指導方法について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る	休み	演習2 発表・協議	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発発と活用を含めて）」とその評価」	休憩	発表・協議		
高等学校 教員部会	協議1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 広島県教育委員会 指導主事 播磨 寛宗 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、高等学校における道徳教育とは何かを理解するとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 秋田県立雄勝高等学校 教諭 柴田 洋幸	休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言】広島県教育委員会 指導主事 播磨 寛宗 【助言】秋田県立雄勝高等学校 教諭 柴田 洋幸	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」		

第3日目

10月30日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30		
	福岡教育大学 教授 堺 正之 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	結果発表協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」	結果発表協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式			

I 研修概要

研 修 名	環境教育指導者養成研修（東部ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	「国連持続可能な開発のための教育の10年」及び学習指導要領の改訂を踏まえた環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、本研修内容を踏まえての各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 		
開 催 期 日	平成21年10月20日（火）～平成21年10月23日（金）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 67 人 参加率 ※
開 催 場 所	国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家（新潟県妙高市）		

※全体計画人数 110人、 受講者数 113人、 参加率 102.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	45	21	0	0	1	0	67
割合 (%)	67.2	31.3	0.0	0.0	1.5	0.0	
	66						
	98.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の第一線で活躍している講師の先生方の講義や演習、大変勉強になりました。妙高の素晴らしい自然環境の中での研修大変有意義でした。 ・環境教育は自分のまわりのことすべてに関わることなので、幅広い視野と度量をもつべきという点は勉強になった。この研修期間では学べないものがたくさんあるとも思った。 ・4日間、大変充実していました。ありがとうございました。指導者としての認識をもち、内に外に少しずつ広めていきます。 ・環境教育についての基本となる法令、考え方、ESDについてなどを学習するとともにたくさんの地域での事例を知ることができました。 ・多方面の第一線で活躍されている講師の方々なので、様々な視点で環境教育をとらえることができた。 ・環境教育の第一線で活躍している講師の先生方の講義や演習、大変勉強になりました。 ・妙高の素晴らしい自然環境の中での研修大変有意義でした。 ・理科の先生方が多いように感じましたが教科にとらわれずもっと他教科への呼びかけ参加できるようにお願いします。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの時間を増加して3日目の1日を使い、教員出身の指導主事とNPO関係者の2人1組で講師を行うことにより、すぐに実践に活かせる演習とした。 ・受講生への事前課題として、学習指導要領の指導事項を踏まえた指導計画の作成を課しており、4日目の「全体研究協議・演習」において環境に関する指導上の位置付けや工夫において理解を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生が学習指導要領の指導事項を踏まえた指導の展開・実践を深めるための研究協議・演習の時間を増加し、より理解を深める。 ・環境教育を通じた社会貢献、地域貢献に関する講義を設定する。 ・事前課題で作成する指導計画の教科は、「社会・理科・総合的な学習の時間」とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 環境教育指導者養成研修基本日程（東部ブロック）

◎印は講義等の目的

第1日目

10月20日 (火)	12:30 13:00 13:45	15:15 15:30	17:00
	受付	オリエンテーション	事例発表 ・小学校 宮城県気仙沼市立唐桑小学校 教諭 小野 晃 ・中学校 宮城県気仙沼市立面瀬中学校 教諭 熊谷 岳哉 ・高等学校 宮城県気仙沼高等学校 教諭 木村 直敬
	講式	全体協議1 「これからの環境教育の展開方策及び研修の進め方について」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 村山 哲哉	休憩

第2日目

10月21日 (水)	8:30	10:00 10:15	11:45	13:00	17:00
	全体協議2 「持続可能な社会を目指した環境教育」 東京都大学環境情報学部 講師 佐藤 正久	全体協議3 「ESDIにおける環境教育」 ESD-J 理事・政策PTリーダー 池田 満之	昼食	フィールドワーク 「自然を活用した環境教育の展開方策」 ・「源流探検」 国立妙高青少年自然の家 職員 担当 ・「妙高火山」 国立妙高青少年交流の家 職員 担当 ・「ブナ林探検隊」 妙高市教育委員会 教育長 濁川 明男	
		休憩	休憩		

第3日目

10月22日 (木)	8:30	12:00	13:00	17:00
	講義・演習 「環境教育の指導の充実～ワークショップを通じた実践のポイント～」 ・小学校分科会 熊谷市教育委員会学校教育課 ・中学校分科会 国立教育政策研究所 ・高等学校分科会 中央大学附属高等学校	屋食・休憩	夕食・休憩	
		指導主事 秋元 敏行 NPO法人くすの木自然館 専務理事 浜本 奈鼓	総括研究官 五島 政一 NPO法人当別エコロジカルコミュニティー 代表理事 山本 幹彦	教諭 岡崎 弘幸 NPO法人里山倶楽部 副代表 新田 章伸

第4日目

10月23日 (金)	8:30	11:00 11:15	11:45 12:00
	全体研究協議・演習 「環境教育推進のための指導の展開～実践に向けて～」 ・小学校分科会 熊谷市教育委員会学校教育課 ・中学校分科会 NPO法人当別エコロジカルコミュニティー 高等学校分科会 中央大学附属高等学校	全体研究協議 休憩 ・移動 文部科学省 教科調査官 村山 哲哉	閉講式
		指導主事 秋元 敏行 熊谷市教育委員会学校教育課 代表理事 山本 幹彦	教諭 岡崎 弘幸

I 研修概要

研修名	環境教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	「国連持続可能な開発のための教育の10年」及び学習指導要領の改訂を踏まえた環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、本研修内容を踏まえての各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年9月29日（火）～平成21年10月2日（金）			4日間				
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	46	人	参加率	※
開催場所	国立青少年教育振興機構 国立阿蘇青少年交流の家（熊本県阿蘇市）							

※ 全体計画人数 110人、 受講者数 113人、 参加率 102.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	34	8	0	0	4	0	46
割合 (%)	73.9	17.4	0.0	0.0	8.7	0.0	
	42	91.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 情熱あふれる講師の先生方の講義を受けることができ、これまでの自分の取り組みの甘さに気付いたり、今後の活動へのヒントを与えていただいたりと、とても有意義な4日間でした。 環境教育についての新たな知見を得たり、実践的な内容も多く、勤務地へ帰りしっかりと広めていきたいと思った。 全国各地の先進的事例が聞けて、とても参考になった。 自分の指導計画に工夫改善のヒントが得られてとてもよかった。 講師の方や集まった教師の方々など、ネットワークを広げることができた。 環境教育は予想どおり喫緊の課題であることを改めて思い知らされた。 自分自身のこれまでの環境教育の考え方が、とても狭いものだったということに気づかされました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップの時間を増加して3日目の1日を使い、教員出身の指導主事とNPO関係者の2人1組で講師を行うことにより、すぐに実践に活かせる演習とした。 受講生への事前課題として、学習指導要領の指導事項を踏まえた指導計画の作成を課しており、4日目の「全体研究協議・演習」において環境に関する指導上の位置付けや工夫において理解を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講生が学習指導要領の指導事項を踏まえた指導の展開・実践を深めるための研究協議・演習の時間を増加し、より理解を深める。 環境教育を通じた社会貢献、地域貢献に関する講義を設定する。 事前課題で作成する指導計画の教科は、「社会・理科・総合的な学習の時間」とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 環境教育指導者養成研修基本日程（西部ブロック）

◎印は講義等の目的

第1日目

9月29日 (火)	12:30 13:00 13:45	15:15 15:30	17:00
	受付	オリエンテーション	全体協議1 「これからの環境教育の展開方策及び研修の進め方について」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久
	15:30	17:00	
	事例発表 ・小学校 大阪府能勢町立田尻小学校 首席 辻 新造 ・中学校 奈良県十津川村立上野地中学校 教諭 玉置 久稔 ・高等学校 大阪府立八尾高等学校 教頭 勝山 正樹	休憩	

第2日目

9月30日 (水)	8:30	10:00 10:15	11:45	13:00	17:00
	全体協議2 「持続可能な社会を目指した環境教育」 東京都市大学環境情報学部 講師 佐藤 正久	全体協議3 「ESDIにおける環境教育」 ESD-J 理事・政策PTリーダー 池田 満之	昼食	フィールドワーク 「自然を活用した環境教育の展開方策」 ・「阿蘇火山コース」 財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団 館長 池辺 伸一郎 ・「草原探検コース」 NPO法人九州バイオマスフォーラム 事務局長 中坊 真 ・「水探検コース」 国立阿蘇青少年交流の家 研修指導員 藤井 徳行	

第3日目

10月1日 (木)	8:30	12:00	13:00	17:00
	講義・演習 「環境教育の指導の充実～ワークショップを通じた実践のポイント～」 ・小学校分科会 横浜市教育センター授業改善支援課 指導主事 尾上 伸一 NPO法人くすの木自然館 専務理事 浜本 奈鼓 ・中学校分科会 国立教育政策研究所 総括研究官 五島 政一 NPO法人当別エコロジカルコミュニティー 代表理事 山本 幹彦 ・高等学校分科会 中央大学附属高等学校 教諭 岡崎 弘幸 NPO法人里山倶楽部 副代表 新田 章伸	屋食・休憩		

第4日目

10月2日 (金)	8:30	11:00 11:15	11:45 12:00
	全体研究協議・演習 「環境教育推進のための指導の展開～実践に向けて～」 ・小学校分科会 横浜市教育センター授業改善支援課 指導主事 尾上 伸一 ・中学校分科会 国立教育政策研究所 総括研究官 五島 政一 ・高等学校分科会 中央大学附属高等学校 教諭 岡崎 弘幸	全体研究協議 休憩 ・移動 文部科学省 視学官 日置 光久	閉講式

I 研修概要

研修名	生徒指導指導者養成研修					
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研修目的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国のかつ緊急に対応が必要ないじめ・不登校等の問題行動や、児童虐待等の生徒指導上の今日的諸課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講生により行われることを目的とする。					
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導又は教育相談を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開催期日	平成21年6月15日(月)～平21年6月30日(火)	16日間				
受講人数	計画人数	110人	受講者数	119人	参加率	108.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	101	15	0	0	3	0	119
割合(%)	84.9	12.6	0.0	0.0	2.5	0.0	
	116						
	97.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つの講義はとても充実しており、指導主事1年目の自分としては現場の目線だけでなく、広く現在の教育課題や最新の知識や技術の一端に触れることができ、今後やっていかなければいけない課題が見えた気がする。 ・丁寧なオリエンテーション・共有フォルダ・パソコン等の情報機器の活用など、個人で研修を進めていく上でも素晴らしいバックアップがあった。オリエンテーション等での説明のしかたが丁寧で、受講生への気遣いが感じられた。 ・研修センターだからこそ呼べる講師、これが魅力的です。ありがとうございました。 ・グループ演習・協議もあり、自主的な研修もできた。また、選択制の講義があり、ニーズに応じていただき、本当に有意義でした。 ・16日間の有意義で、そして多くの仲間を作れた研修、本当にありがとうございました。エネルギー・知識・そして心の仲間とともに、また明日から子どもたちに向かいます。 ・はじめは「2週間は長いなあ」と感じていましたが、内容はとても濃く、大変勉強になりました。これを持ち帰り、多くの学校へ環流したいと思います。仲間との出会いも良かったです。大きなネットワークができました。 ・今回の研修では、第一線で活躍されている先生方の講義や演習、日本全国各地の先生方と交流の機会を得ることができました。研修の内容をしっかりと受け止め、今後の活動に活かしていきたいと思います。貴重な講義演習をいただいた講師の方々、研修を支えていただいた教員研修センターの先生方に感謝申し上げます。 ・事例研究に教授も入っていただき、理論と実践がマッチしてよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16日間の研修を通して、受講生に考えさせるテーマを設定し、十分に協議を重ね、発表を行い、成果を各地域にもち帰って生かすプログラムを編成した。 ・法的なおさえが不十分であるという反省をもとに、生徒指導と法に関する講義を充実させた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の喫緊課題にテーマを絞り込んで、実践的な協議を行えるようプログラムを工夫する。 ・生徒指導提要在が文部科学省から示される予定であるため、その講義をプログラムに新たに組み入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

< 日程と講座内容 >

期	日	曜	8:30	9:30	9:45	12:15	13:30	16:15	17:00
1	6月15日	月	受付 (9:30~9:50)	開講式 (10:00~10:30) 教員研修センター・文部科学省	生徒指導上の諸問題への対応 (10:45~12:15) 文部科学省	特別講演(13:30~15:00) 環太平洋大学 学監 山口良治	オリエンテーション① (15:15~16:15)	班別協議 (打ち合わせ①) (16:30~17:00)	
2	6月16日	火	オリエンテーション②	生徒指導の在り方 昭和学院短期大学教授 松田素行		生徒指導の在り方 指導助言 昭和学院短期大学教授 松田素行		班別協議 (打ち合わせ②) (16:30~17:00)	
3	6月17日	水	グループ別協議 (事例協議①)	生徒指導事例研究(1) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学非常勤講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇		生徒指導事例研究(2) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学非常勤講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇			
4	6月18日	木	グループ別協議 (事例協議②)	生徒指導事例研究(3) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学非常勤講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇		生徒指導事例研究(4) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学非常勤講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇			
5	6月19日	金	グループ別協議 (事例協議③)	望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄		望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄		グループ別協議 (事例協議④)	
6	6月20日	土							
7	6月21日	日							
8	6月22日	月	オリエンテーション③	生徒指導と法規 弁護士 清水幹裕		生徒指導と法規 弁護士 清水幹裕		班別協議 (事例協議⑤)	
9	6月23日	火	合同別協議 (課題討議①)	生徒指導と危機管理 群馬県立高崎女子高等学校長 飯野眞幸		生徒指導と危機管理 群馬県立高崎女子高等学校長 飯野眞幸		合同別協議 (課題討議②)	
10	6月24日	水	合同別協議 (課題討議③)	児童生徒の心とその課題への対応 文教大学教授 柳生和男		児童生徒の心とその課題への対応 文教大学教授 柳生和男		合同別協議 (課題討議④)	
11	6月25日	木	合同別協議 (課題討議⑤)	選択	性・薬物に関わる非行への対応 京都大学大学院准教授 木原雅子 児童虐待の理解と対応 宮城教育大学教授 関口博久	小・中 いじめ問題の理解と対応 ~感情の育ちの視点から~ 東京学芸大学教授 大河原美以 中・高 いじめ問題の理解と対応 広島大学教授 栗原慎二	班別協議 (共有協議①)		
12	6月26日	金	合同別協議 (課題討議⑥)	小・中 不登校の理解と対応 開善塾教育相談研究所長 金澤純三 中・高 不登校の理解と対応 早稲田大学教授 菅野 純	情報モラルの理解と対応 群馬大学特任教授 NPO青少年メディア研究協会理事長 下田博次		班別協議 (共有協議②)		
13	6月27日	土							
14	6月28日	日							
15	6月29日	月	オリエンテーション④	課題に対する研修成果の発表 指導助言 昭和学院短期大学教授 松田素行		指導講評・総括講義 昭和学院短期大学教授 松田素行		班別協議 (振り返り)	
16	6月30日	火	班別協議・オリエンテーション⑤	特別講演 鶴工房 代表 小川三夫	閉講式 (11:30~11:50)				

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ								
研 修 目 的	本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。								
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者 〔幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校(園)長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者(人権教育の指導的立場を担う者)〕								
開 催 期 日	平成21年10月14日(水)～平成21年10月16日(金)			3日間					
受 講 人 数	計画人数	110	人	受講者数	139	人	参加率	126.4%	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)								

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	112	26	0	0	0	1	139
割合 (%)	80.6	18.7	0.0	0.0	0.0	0.7	
	138						
	99.3						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他県(全国規模で)の様々な取り組み、視点の違いなど、大変勉強になった。資料でなく、実際の交流を通じて多くの刺激を受けた。 ・学校現場で日々生徒を指導する立場として、人権教育が知的理解のレベルであり、人権教育が十分に身に付いていない。また教職員の人権教育の理念の認識が不十分さを指導され、その責任を痛感した。今後解決に向けて実践をしていきたい。 ・日常接することの少ない他校種の先生方と交流できたことはたいへん有意義であった。 ・2泊3日の日程ではどうしても知りたいことすべてについて研修することは難しかった。大変すばらしい研修内容だったが、もう1日程度、理論や先進校の事例も学習したいと思った。 ・講義と演習がバランスよく位置付けられており、自己課題の解決につながる研修となった。各県の考え方や取組について資料を通して学び合えた点もよかった。グループで成果物を作成することは時間的な問題もありたいへんだったが、研修者相互のつながりを深めることにもつながった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例協議と演習の繋がりについて見直した。 ・演習の進め方について、研修ノートの記載内容を見直し、目的や到達点等をより明確にした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に関する国内外の新たな動きをどのように反映させるのかを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度人権教育指導者養成研修 日程表

日時：平成21年10月14日(水)～平成21年10月16日(金)
会場：独立行政法人 教員研修センター

第1日目	9:20	9:50	10:40	12:20	13:20	17:00
10月14日 (水)	9:20	9:50	10:40	12:20	13:20	17:00
	受付	開講式	課題協議1 「国内外の動きと学校における人権教育～「人権教育のための世界計画」～」 聖徳大学児童学部教授 福田 弘	昼休み	課題協議2 「人権教育推進上の課題と改善策等について～「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)」を踏まえて～」 上越教育大学学校教育学部教授 梅野 正信 東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事 神山 直子 (事例発表) 福岡県田川市教育委員会学校教育課長 中野 直毅 大阪府東大阪市立意岐部中学校教諭 竹中 重雄 長野県立東御清翔高等学校教頭 矢島 富士雄	
			◎目的：国際的な視点からも普遍的な人権教育が学校教育において必要であることを理解する		◎目的：人権教育における先進校の取組を知るとともに、各地域の取組を共有することで、課題を明確化する。	
第2日目	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30	17:00
10月15日 (木)	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30	17:00
	演習の進め方：演習1・2 「学校における人権教育の改善・充実について～「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)」を踏まえて～」					
			(課題)	[昼休み]	[休憩] グループ発表・協議	
			A 効果的な研修プログラムや啓発資料等について B 学校としての組織的な取組 (例：年間指導計画、校内体制、校内研修、評価等) と関係機関等との連携について C 人権尊重の理念の理解と体得を旨とした指導内容・方法の工夫について (例：授業案、指導計画等) D 人権尊重の精神に立つ学級経営と生徒指導について (例：実践プログラム、指導計画等)			
			◎目的：各テーマにおける現状と課題について協議を深めることにより、人権教育を推進するための資料(研修成果を活かすための資料)を作成し、改善・充実等に関する知識・方法を修得する。			
	【指導助言者】 A：大阪府東大阪市立枚岡東小学校長 神野 ちどり B：上越教育大学学校教育学部教授 梅野 正信 C：東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事 神山 直子 D：東京芸芸大学教育学部准教授 林 尚示					
第3日目	9:00	11:00	11:15	12:15	12:30	
10月16日 (金)	9:00	11:00	11:15	12:15	12:30	
	演習3 「学校における人権教育の改善・充実について～全体発表・協議・まとめ～」 ◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果を活かし方について理解を深める 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎 活志 上越教育大学学校教育学部教授 梅野 正信 東京芸芸大学教育学部准教授 林 尚示					
		休憩	課題協議3 「研修講師となるための～」 ◎目的：人権教育についての理解を深め、本研修の成果をまとめる 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎 活志	閉講式		

I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、キャリア教育の推進のための具体的な手立てについて、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭 及び教諭であって、各地域においてキャリア教育の指導者や研修講師としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年6月1日（月）～平成21年6月5日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	112	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 220人、 受講者数 219人、 参加率 99.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	89	23	0	0	0	0	112
割合 (%)	79.5	20.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	112	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関わる意義、背景等の理論や演習等で理解を深められただけでなく、他県の先生方との貴重な情報交換の場となった。 キャリア教育を推進する担当者としては、一年に一度程度はキャリア教育の進め方を再確認したり、最新情報をキャッチする機会があればいいなあと感じております。私にとっては今回の研修内容が今後の業務（講座の担当、指針・手引き・リーフレットの作成等）に活かすことができると思われるので、大変有意義な研修であった。 1週間学校を離れることに不安を感じながら参加させてもらったが、大変充実した1週間であり、非常に多くのことを勉強させていただいた。今後、学校に戻りこの成果を伝えていきたい。 理論から実践まで体系だっけとじっくりと研修する機会がなかったので、大変有意義でよい機会をあたえていただいたと感じている。グループワーク等で他校種の実状を知ったり、よいアイデアを教えていただいたりして、それも大変参考になった。 課題協議、演習ごとに班を編成してあったので、課題に取り組みやすく、かつ、いろいろな地域の先生方と交流することができました。 研修は有意義だったが、県でのキャリア教育についての認識が、地域、保護者、学校ともに不足しており、ギャップを感じた。 研究協議のそれぞれに質疑応答の時間があればよかったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修初日に行う演習は学校種ごとの班分けで行うこととし、受講者個々の課題を整理するとともに、2日目以降の研修内容にスムーズに移行できるよう配慮した。 キャリア教育のプログラム開発の演習について、プログラムの内容を深めることができるよう、学校の設定など当センターで準備するなどの工夫を行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義を受けた後にその内容を深めることができるよう、コマの配置を工夫する。 事例発表の内容を班別協議と結びつけるようにする。 発達段階に応じたキャリア教育の在り方に重点を置いた講義を設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 キャリア教育指導者養成研修〔東部ブロック〕

日程表

6月1日 (月)	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	17:00
	開講式	受付	成果協義1 「キャリア教育の現状と課題」 文部科学省生涯学習推進課 藤田晃之 ◎目的：キャリア教育が求められている背景とその重要性、実践上での課題などを確認することを通して、本研修の意義について理解する	休み	演習1 「各学校段階におけるキャリア教育の推進とその改善方策」 (小学校部会) 岡山県立野田高等学校教諭 谷内口まゆみ (中学校部会) 前橋市立野田高等学校教諭 青木徹 (高等学校部会) 茨城県立羽津高等学校教諭 池田英乗 ◎目的：各学校段階におけるキャリア教育の先進事例から、学校全体で取組を進めるために必要な事例について整理し理解する	休憩

6月2日 (火)	9:00	10:30	10:50	12:20	13:30	17:00
	成果協義2 「キャリア教育の全体計画と評価」 文部科学省生涯学習推進課 藤田晃之 ◎目的：学校でキャリア教育を進めるために必要な計画作りや体制の構築と評価の在り方について理解する	休憩	成果協義3 「地域社会と学校の連携のために」 赤松印敬新代表 赤塚正和 ◎目的：地域や企業と学校の連携に当たり、様々な協力の在り方について理解を深める	休み	演習2 「コミュニケーションスキルの向上」 立教大学特任教授 渡辺三枝子 東京立山高等学校訓育長 大池公紀 前橋学院中学校高等学校教諭(仮) 橋本幸晴 東京都立つばと総合高等学校校務(仮) 本城慎二 ◎目的：話す、聞く、観るの3つの立場におけるコミュニケーションスキルを学ぶことを通して、教員のコミュニケーション能力の重要性について理解を深める	休憩

6月3日 (水)	9:00	11:45	12:45	14:15	14:30	17:00
	演習3 「キャリア・カウンセリングの基礎」 立教大学特任教授 渡辺三枝子 東京立山高等学校訓育長 大池公紀 前橋学院中学校高等学校教諭(仮) 橋本幸晴 東京都立つばと総合高等学校校務(仮) 本城慎二 ◎目的：キャリア・カウンセリングの代表的なケースについて協議する演習を通して、キャリア・カウンセリングの基礎、留意点について理解を深める	休み	成果協義4 「各学校段階を通じた系統的なキャリア教育の在り方について」 (事例発表) 千葉大学教諭 鹿嶋研之助 (事例発表) 茨城県教育委員会生涯学習課 川上一 (事例発表) 仙台市教育委員会生涯学習課 長田徹 ◎目的：小・中・高が連携・協力し、系統的なキャリア教育を推進するための具体的な方策について知識を得る	休憩	演習4 「各学校段階を通じたキャリア教育の推進と連携の方策について」 千葉大学教諭 鹿嶋研之助 茨城県教育委員会生涯学習課 川上一 仙台市教育委員会生涯学習課 長田徹 ◎目的：小・中・高が連携・協力し、系統的なキャリア教育を推進するための具体的な方策について理解する	

6月4日 (木)	9:00	9:50	12:00	13:00	17:00
	成果協義5 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ふじの野市教育委員会生涯学習課 堀川博基 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを行うことを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な手立てを理解する	演習5 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ふじの野市教育委員会生涯学習課 堀川博基	休み	部会発表	休憩

6月5日 (金)	9:00	10:00	10:15	12:00	13:00	15:00	15:15
	演習6 「キャリア教育を展開するための」 独立行政法人教員研修センター生涯学習課 渡辺信治 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するための計画作りを行い、活用成果の活用内容・方法について課題をもつ	休憩	演習7 「キャリア教育の展開のためのプログラムの作成」 茨城県立立川高等学校教諭 塚田薫 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用するための計画作りを行い、活用成果の活用内容・方法について課題を深める	休み	研究協義 「研修講師となるために」 文部科学省生涯学習推進課 藤田晃之 立教大学特任教授 渡辺三枝子 茨城県立立川高等学校教諭 塚田薫 独立行政法人教員研修センター生涯学習課 渡辺信治 ◎目的：キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるため、課題を整理する	閉講式	

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、キャリア教育の推進のための具体的な手立てについて、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭 及び教諭であって、各地域においてキャリア教育の指導者や研修講師としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年6月22日（月）～平成21年6月26日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	107	人	参加率	※
開 催 場 所	エル・おおさか（大阪府大阪市）							

※ 全体計画人数 220人、 受講者数 219人、 参加率 99.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	77	24	0	0	5	1	107
割合 (%)	72.0	22.4	0.0	0.0	4.7	0.9	
	101						
	94.4						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・5日間内容が濃い研修であった。多くのことを勉強させていただきありがとうございました。今回、小・中・高すべての校種がいっしょに研修する機会には有意義であった。
- ・キャリア教育プログラムの改善に役立つ資料を多数提供していただいた。又、キャリア教育の目的、目標、視点を自分なりに明確にすることができた。
- ・協議や演習をとり入れられているのがとてもよかったです。グループ討議も他校のいろいろな取組を聞くことができとても勉強になりました。
- ・この研修での大きな成果は、自校の持つ課題を冷静に見つめることができたこと、そして他の先生方の知恵を借り、対策を練ることができたと思う。又、チームとして対応し、自分一人では持ち抱えず、全体で動いていきたいと思う。そのため自校に帰ってから、まず自分の中の整理を行い、又他の先生への共通理解を進めていきたい。自分の中で具体的な行動が積み重なってきているのが感じられる有意義な研修であった。
- ・今回、小・中・高すべての校種がいっしょに研修する機会には有意義であった。
- ・すばらしい先生方の講義を受けることができ、感謝しています。基本的なことをしっかり教えてくださったことが、勤務校等で研修会を担当する際、もっとも役に立つと思います。演習の講師の先生や事例発表の先生方からも学ぶことが多かったです。勤務校で研修を行う時や、各種大会で発表を行う時の参考となりました。
- ・自治体として、全職員の意識改革を図る取組を計画し、組織作りを進める必要は強く感じました。又、管理職参加の研修も必要であると思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修初日に行う演習は学校種ごとの班分けで行うこととし、受講者個々の課題を整理するとともに、2日目以降の研修内容にスムーズに移行できるよう配慮した。
- ・キャリア教育のプログラム開発の演習について、プログラムの内容を深めることができるよう、学校の設定など当センターで準備するなどの工夫を行った。

次年度に向けて

- ・講義を受けた後にその内容を深めることができるよう、コマの配置を工夫する。
- ・事例発表の内容を班別協議と結びつけるようにする。
- ・発達段階に応じたキャリア教育の在り方に重点を置いた講義を設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 キャリア教育指導者養成研修〔西部ブロック〕

日程表

6月22日 (月)	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	17:00
	受付	開講式 「キャリア教育の現状と課題」 文部科学省生涯学習推進課 藤田晃之 ◎目的：キャリア教育が求められている背景とその重要性、実践上での課題などを確認することを通して、本研修の意義について理解する	昼休み	演習1 「各学校段階におけるキャリア教育の推進とその改善方策」 (小学校部会) 岡山県立宇野市立宇野小学校 谷内口まゆみ (事例発表) 広島県立原市立西城小学校 渡邊清文 (中学校部会) 広島県立宇野市立宇野小学校 青木徹 (事例発表) 福岡県立藤井高等学校 阿部龍彦 (高等学校部会) 大分県立津久野高等学校 小池博男 (事例発表) 高知県立高知高等学校 正木章彦 阿野田由紀	休題	
6月23日 (火)	9:00	10:30	10:50	12:20	13:30	17:00
	演習2 「キャリア教育の全体計画と評価」 駒大教授 川崎友嗣 ◎目的：学校でキャリア教育を進めるために必要な計画作りや体制の構築と評価の在り方について理解する	休題	演習3 「地域社会と学校の連携のために」 大塚精工会議所人材開発部人材育成担当課長 廣田雅美 ◎目的：地域や企業と学校の連携に当たり、様々な協力の在り方について理解を深める	昼休み	演習4 「各学校段階を通じたキャリア教育の推進と連携の方策について」 上越大学教授 白木みどり 東京総合大学高等学芸部部長 大池公紀 駒澤大学中学校教育課長 橋本幸晴 東京総合立正総合高等学校校務主任 本城眞二	
6月24日 (水)	9:00	11:45	12:45	14:15	14:30	17:00
	演習3 「キャリア・カウンセリングの基礎」 立教大学教授 渡辺三枝子 東京総合立正総合学芸部部長 大池公紀 駒澤大学中学校教育課長 橋本幸晴 東京総合立正総合高等学校校務主任 本城眞二 ◎目的：キャリア・カウンセリングの代表的なケースについて協議する演習を通して、キャリア・カウンセリングの基礎・留意点について理解を深める	昼休み	演習4 「各学校段階を通じた系統的なキャリア教育の在り方について」 上越大学教授 白木みどり 東京総合立正総合学芸部部長 大池公紀 駒澤大学中学校教育課長 橋本幸晴 東京総合立正総合高等学校校務主任 本城眞二 ◎目的：小・中・高が連携・協力し、系統的なキャリア教育を推進するための具体的な方策について知識を得る	休題	演習5 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ふじみ野市教育委員会指導主事 堀川博基 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを行うことと通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な手立てを理解する	
6月25日 (木)	9:50	12:00	13:00	13:00	15:00	17:00
	演習5 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ふじみ野市教育委員会指導主事 堀川博基 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを行うことと通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な手立てを理解する	昼休み	演習6 「キャリア教育を展開する」 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 渡邊信治 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用内容・方法について課題をもつ	演習7 「キャリア教育の展開のためのプログラムの作成」 京都市教育委員会首席指導主事 初田幸隆 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用のための計画作りを行い、活用方策について理解を深める	研究会 「研修講師となるために」 文部科学省生涯学習推進課 藤田晃之 関西大学教員 川崎友嗣 京都市教育委員会首席指導主事 初田幸隆 ◎目的：キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるため、課題を整理する	全体発表・講評 藤田晃之 堀川博基 渡邊信治 相木 勝 坂本豊樹
6月26日 (金)	9:00	10:00	10:15	12:00	13:00	15:00 15:15
	演習6 「キャリア教育を展開する」 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 渡邊信治 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用内容・方法について課題をもつ	休題	演習7 「キャリア教育の展開のためのプログラムの作成」 京都市教育委員会首席指導主事 初田幸隆 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用のための計画作りを行い、活用方策について理解を深める	昼休み	研究会 「研修講師となるために」 文部科学省生涯学習推進課 藤田晃之 関西大学教員 川崎友嗣 京都市教育委員会首席指導主事 初田幸隆 ◎目的：キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるため、課題を整理する	閉講式

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成21年10月14日（水）～平成21年10月16日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	66	人	参加率	※
開催場所	青森グランドホテル（青森県青森市）							

※ 全体計画人数 220人、 受講者数 449人、 参加率 204.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	61	4	0	0	0	1	66
割合 (%)	92.4	6.1	0.0	0.0	0.0	1.5	
	65						
	98.5						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修内容全体につながりが見られ、体系的に理解することができた。
- ・研修講座の構想のポイント、説明の要点、演習の進め方等の内容がもっとあればと思った。
- ・3日間の日程とは思えないほど、充実した内容で大切なことが凝縮された研修だった。これも講師の先生方が学校、行政の現場との豊富ななかかわりの中からニーズを十分に理解し、的を得た内容を工夫してくださったおかげと感謝している。どの場面においても学んだことをどんな場面でもどのように生かすのか、何から始められるのかなどを具体的に考え、今後に向けた段階的な見通しをもつことができた。
- ・これまで自分が理解し、小学校の先生方へお願いしてきたことが、概ね間違っていなかったことを確認し、さらに理解を深めることができた。今回の研修をまとめ、市の小学校の先生方に伝えていきたい。
- ・この研修によってどこに目をつけて授業を見ればよいか、改善するにはどのような点を工夫すればよいか、たくさんヒントをもらった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・受講者の協議時間を確保した。
- ・事例発表において、具体的に理解できるようDVDを用いて発表を行った
- ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とした。
- ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とした。

次年度に向けて

- ・受講者のニーズに合わせて、演習等を選択制にする。
- ・じっくりと演習に取り組めるよう、各コマの時間配分を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）

日程表

第1日目	10:00	10:30	11:00	12:30	13:45	15:30	15:45	17:00
10月14日 (水)	開講式	授付	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：小学校外国語活動の全体像(外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等)について理解する。	昼休み	班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治 ◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。	休憩	課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 ◎目的：外国語活動を推進する上での様々な課題に対しての具体的な解決方法を理解する。	17:00

第2日目	9:00	9:10	10:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
10月15日 (木)	課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」 北海道教育大学 萬谷隆一 ◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。	休憩	研修教材DVDの活用について 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	昼休み	演習1 「外国語活動の授業実践1」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 兼重 昇 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 梅本 龍多 A L T Kelly Rose ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	休憩	演習2 「外国語活動の授業実践2」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 兼重 昇 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 梅本 龍多 A L T Kelly Rose ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	休憩	演習3 「外国語活動の授業実践3」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 兼重 昇 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 梅本 龍多 A L T Kelly Rose ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	17:00	

第3日目	9:00	9:10	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:50
10月16日 (金)	事例協議 「先進校における授業実践」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 (事例発表) 菅 正隆 茨波町立赤石小学校	課題協議2 「具体的な授業実践1」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	課題協議1 「具体的な授業実践2」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	班別演習3 「具体的な授業実践3」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	休憩	班別演習2 「具体的な授業実践1」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	班別演習1 「具体的な授業実践2」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	班別演習3 「具体的な授業実践3」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 北海道教育大学大学院学校教育学研究所教授 兼重 昇 独立行政法人教育研究センター主任 渡邊信治	閉講式
連絡事項	◎目的：先進校の授業を知り、自校の取組に生かす。	◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。	◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る	◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る		◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る	◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る	◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る	◎目的：研修講師となるための知見を深める。	

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成21年10月28日（水）～平成21年10月30日（金）			3日間				
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	109	人	参加率	※
開催場所	プラザ菜の花（千葉県千葉市）							

※ 全体計画人数 220人、 受講者数 449人、 参加率 204.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	88	18	0	0	3	0	109
割合 (%)	80.7	16.5	0.0	0.0	2.8	0.0	
	106						
	97.2						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今、現場で先生方等が悩んでいることが共有でき、またすぐ明日からやってみようと思わせる講義・演習ばかりだった。
- ・とても充実した3日間で、いろいろな先生と情報交換ができて大変よかった。このネットワークを今後も大切にしていきたい。
- ・外国語活動の進むべき方向性などがはっきりしてきているからかもしれないが、昨年度までの5日間から3日間になり、研修内容がスッキリしたと思う。しかし3日間の中では急ぎ足となってしまう内容もあり、いろいろなことを得て帰ろうと考えている方には、少しもの足りなさのあると思う。
- ・理論的な所から実践まで、様々な指導をいただき、とても勉強になった。
- ・他県の実状や学校現場の悩みについても理解を深めることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・受講者の協議時間を確保した。
- ・事例発表において、具体的に理解できるようDVDを用いて発表を行った。
- ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とした。
- ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とした。

次年度に向けて

- ・受講者のニーズに合わせ、演習等を選択制にする。
- ・じっくりと演習に取り組めるよう、各コマの時間配分を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）

日程表

第1日目	10:00	10:30	11:00	12:30	13:45	15:30	15:45	17:00
10月28日 (水)	10:00	10:30	11:00	12:30	13:45	15:30	15:45	17:00
	開講式	授付	課題協議1	昼休み	班別演習1	休憩	課題協議2	
			「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：小学校外国語活動の全体像(外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等)について理解する。		「外国語活動を推進する上での課題」 独立行政法人教員研修センター主任 渡邊信治 ◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。		「外国語活動を円滑に進めるために」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 ◎目的：外国語活動を推進する上での様々な課題に対しての具体的な解決方法を理解する。	

第2日目	9:00	9:10	10:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
10月29日 (木)	9:00	9:10	10:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
	課題協議3	休憩	演習1	昼休み	演習2	休憩	演習3	休憩			
	「コミュニケーション活動の在り方」 筑波大学 卯城祐司 ◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。		「外国語活動の授業実践1」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。		「外国語活動の授業実践2」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。		「外国語活動の授業実践3」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。				

第3日目	9:00	9:10	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:50	
10月30日 (金)	9:00	9:10	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:50	
	事例協議	班別演習2	昼休み	班別演習3	休憩						
	「先進校における授業実践」 大阪府女子大学教授 菅 正隆 (事例発表) 下妻市立総上小学校 ◎目的：先進校の授業を知り、自校の取組に生かす。	「具体的な授業実践1」 大阪府女子大学教授 菅 正隆 専門教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 關西大学高槻新キャンパス国際理解委員会主任教諭 梅本 龍多		「具体的な授業実践2」 大阪府女子大学教授 菅 正隆 専門教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 關西大学高槻新キャンパス国際理解委員会主任教諭 梅本 龍多					意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 大阪府女子大学教授 菅 正隆 専門教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 關西大学高槻新キャンパス国際理解委員会主任教諭 梅本 龍多 ◎目的：研修講師となるための知見を深める。	閉講式	

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海・北陸ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開 催 期 日	平成21年10月5日（月）～平成21年10月7日（水）			3日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	76	人	参加率	※
開 催 場 所	ホテルセンチュリー静岡（静岡県静岡市）							

※ 全体計画人数 220人、 受講者数 449人、 参加率 204.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	66	10	0	0	0	0	76
割合 (%)	86.8	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	76	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文科省調査官の講義を直接受けられたこと、その他にも第一線で携わっておられる先生方のお話をワークショップを交えて伺ったことが大変貴重であり、大いに役立った。 ・各学校、地域に指導する立場だが今まではっきり話せなかったことがあったが、今回少しすっきりしたのでよかった。 ・外国語活動の趣旨、指導の方向性、他の教員へのアプローチする視点など分かりやすく研修することができた。 ・理論から始まり課題の交流～実践へと3日間の流れがとても良く自然に理解を深めることができた。 ・日々の英語活動実践上の悩みを共有し、解決への示唆をいただくことができ、また現在進めている英語活動の方向が間違っていないと確認でき、もっともつとがんばらねばならないという気持ちになった。 ・今までは自分が学ぶという立場であったが、今後は指導するという観点で研修をうけ、見るポイントがはっきりしてきた。研修全体が指導の方向性やねらいが明確であり、受講者がどんなことに気をつけてみていけばいいかが一貫してわかりやすかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の協議時間を確保した。 ・事例発表において、具体的に理解できるようDVDを用いて発表を行った ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とした。 ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせ、演習等を選択制にする。 ・じっくりと演習に取り組めるよう、各コマの時間配分を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海・北陸ブロック）

日 程 表

第1日目	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:15	15:30	17:00
10月5日 (月)	開講式	授付	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省教育課程課調査官 直山 木綿子	昼休み	班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」 独立行政法人国際研修センター主任 渡邊信治	休憩	課題協議2 「コミュニケーション活動の在り方」 静岡大学 白畑知彦	
			◎目的：小学校外国語活動の全体像(外国語活動が求められた背景、意義、地域)について理解する。		◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を深りながら課題を整理する。		◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。	

第2日目	9:00	9:10	10:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
10月6日 (火)	課題協議3 「外国語活動を円滑に進めるために」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子	休憩	研修教材DVDの活用について 独立行政法人国際研修センター主任 渡邊信治	昼休み	演習1 「外国語活動の授業実践1」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子 兼重 昇 加藤 君江 聖母学院小学校副講師 Matthew Hirakawa	演習2 「外国語活動の授業実践2」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子 兼重 昇 加藤 君江 聖母学院小学校副講師 Matthew Hirakawa	演習3 「外国語活動の授業実践3」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子 兼重 昇 加藤 君江 聖母学院小学校副講師 Matthew Hirakawa	休憩			
	◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対しての具体的な解決方法を理解する。				◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、TTの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、TTの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、TTの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。				

第3日目	9:00	9:10	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:50
10月7日 (水)	事例協議 「先進校における授業実践」 大塚雄志子大学教授 菅 正隆 (事例発表) 鈴鹿市立神戸小学校	班別演習2 「具体的な授業実践1」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子 兼重 昇 加藤 君江	班別演習3 「具体的な授業実践2」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子 兼重 昇 加藤 君江	昼休み	意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子 兼重 昇 加藤 君江 聖母学院小学校副講師 Matthew Hirakawa	休憩			閉講式	
	◎目的：先進校の授業を知り、自校の取組に生かす。		◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。		◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る。				◎目的：研修講師となるための知見を深める。	

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（近畿・四国ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成21年11月18日（水）～平成21年11月20日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	96	人	参加率	※
開催場所	ホテル北野プラザ六甲荘（兵庫県神戸市）							

※ 全体計画人数 220人、 受講者数 449人、 参加率 204.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

（人、％）

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	79	12	0	0	1	4	96
割合 (%)	82.3	12.5	0.0	0.0	1.0	4.2	
	91	94.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・3日間の研修を通して、ねらいや授業を視るポイント、具体的な活動例などを学ばせていただき、少し自信をもって指導にあたることができそうである。 ・外国語活動に対して今まで疑問に思っていたことやあいまいに認識していた部分が解消され、3日間大変有意義であった。 ・全ての研修が具体的な実践に基いたものであったので、学校現場への指導等に対するの根拠をもつことができた。また、研修の企画・立案に際して、小学校外国語活動の趣旨を正しく踏まえて実施できると思う。 ・今回、いろいろな先生方と交流でき、本当に良かった。今回できたネットワークを活用しながら、情報交換をしていきたい。 ・現在の最新の話から教材の活用まで、多岐に渡って知見を得ることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の協議時間を確保した。 ・事例発表において、具体的に理解できるようDVDを用いて発表を行った ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とした。 ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせ、演習等を選択制にする。 ・じっくりと演習に取り組めるよう、各コマの時間配分を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（近畿・四国ブロック）

日 程 表

第1日目	10:00	10:30	11:00	12:30	13:45	15:30	15:45	17:00
11月18日 (水)	受付	開講式	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省国際教育センター 直山 木綿子	昼休み	班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」 独立行政法人教育研究センター 菅 渡邊 信治	休憩	課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」 文部科学省国際教育センター 直山 木綿子	
			◎目的：小学校外国語活動の全体像（外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活等）について理解する。		◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。		◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対しての具体的な解決方法を理解する。	

第2日目	9:00	9:10	10:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
11月19日 (木)	課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」 兵庫教育大学 吉田達弘	休憩	研修教材DVDの活用について 独立行政法人教育研究センター 菅 渡邊 信治	昼休み	演習1 「外国語活動の授業実践1」 専門教育大学院学校教育学専攻 兼重 昇 関西大学高槻キャンパス言語学専攻 兼重 昇 京都市立本郷第二小学校 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa	演習2 「外国語活動の授業実践2」 専門教育大学院学校教育学専攻 兼重 昇 関西大学高槻キャンパス言語学専攻 兼重 昇 京都市立本郷第二小学校 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa	演習3 「外国語活動の授業実践3」 専門教育大学院学校教育学専攻 兼重 昇 関西大学高槻キャンパス言語学専攻 兼重 昇 京都市立本郷第二小学校 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa	休憩			
	◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。				◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャット等の指導、TTの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャット等の指導、TTの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャット等の指導、TTの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。				

第3日目	9:00	9:10	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:50
11月20日 (金)	事例協議 「先進校における授業実践」 大阪府立女子大学 菅 正隆 (事例発表) 京都市立岩倉南小学校	班別演習2 「具体的な授業実践1」 大阪府立女子大学 菅 正隆 専門教育大学院学校教育学専攻 兼重 昇 関西大学高槻キャンパス言語学専攻 兼重 昇	班別演習3 「具体的な授業実践2」 大阪府立女子大学 菅 正隆 専門教育大学院学校教育学専攻 兼重 昇 関西大学高槻キャンパス言語学専攻 兼重 昇	休憩	意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」 大阪府立女子大学 菅 正隆 専門教育大学院学校教育学専攻 兼重 昇 関西大学高槻キャンパス言語学専攻 兼重 昇	閉講式				
	◎目的：先進校の授業を知り、自校の取組に生かす。	◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。	◎目的：優れた実践事例を知ること、自分の実践を振り返る。		◎目的：優れた実践事例を知ること、自分の実践を振り返る。		◎目的：研修講師となるための知見を深める。			

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（中国・九州ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成21年11月4日（水）～平成21年11月6日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	102	人	参加率	※
開催場所	ホテルグランデはがくれ（佐賀県佐賀市）							

※ 全体計画人数 220人、 受講者数 449人、 参加率 204.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	84	17	0	0	1	0	102
割合 (%)	82.4	16.7	0.0	0.0	1.0	0.0	
	101						
	99.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における英語活動の考え方や具体的な指導方法にいたるまで、系統的に学ぶことができ、とても参考になった。 ・3日間とも内容の濃いものであったので、徐々に地元の実態と照らし合わせながら、解釈、還元していきたい。 ・他県の方々との交流でつながりもでき、今後につなげることができた。 ・外国語活動についての理論的なものの講義から実践的な演習まで、幅広い研修を受けることができたことが有意義だった。 ・受講者どうしの情報交換や討議の時間がもう少しあればと感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の協議時間を確保した。 ・事例発表において、具体的に理解できるようDVDを用いて発表を行った。 ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とした。 ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせ、演習等を選択制にする。 ・じっくりと演習に取り組めるよう、各コマの時間配分を見直す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（中国・九州ブロック）

日程表

第1日目	10:00	10:30	11:00	12:30	13:45	15:30	15:45	17:00			
11月4日 (水)	開講式	授付	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：小学校外国語活動の全体像(外国語活動が求められた背景、意義、地域において理解する。	昼休み	班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」 独立行政法人教員研修センター主任 渡邊信治 ◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。	休憩	課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 ◎目的：外国語活動を推進する上での様々な課題に對しての具体的な解決方法を理解する。				
第2日目	9:00	9:10	10:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:15	15:30	15:45	17:00
11月5日 (木)	連絡事項	鹿児島純心女子大学 影浦 攻 ◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。	休憩	研修教材DVDの活用について 独立行政法人教員研修センター主任 渡邊信治	昼休み	演習1 「外国語活動の授業実践1」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 兼重 龍多 梅本 龍多 A L T Ian Cheung ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	演習2 「外国語活動の授業実践2」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 兼重 龍多 梅本 龍多 A L T Ian Cheung ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。	休憩	演習3 「外国語活動の授業実践3」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 兼重 昇 兼重 龍多 梅本 龍多 A L T Ian Cheung ◎電子黒板等を利用した『英語ノート』の活用や歌・チャント等の指導、T Tの指導とクラスルームイングリッシュ、年間活動計画や指導案作成について役立つ知識・方法を得る。		
第3日目	9:00	9:10	10:30	10:45	12:30	13:30	14:30	14:40	15:30	15:50	
11月6日 (金)	事例協議 「先進校における授業実践」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 (事例発表) 諫早市立伊木カ小学校	「先進校における授業実践1」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 福岡教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 関西大学高崎新キャンパス国際理解推進委員会主任教諭 梅本 龍多	「具体的な授業実践2」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 福岡教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 関西大学高崎新キャンパス国際理解推進委員会主任教諭 梅本 龍多	昼休み	班別演習3 「具体的な授業実践2」 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 福岡教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 関西大学高崎新キャンパス国際理解推進委員会主任教諭 梅本 龍多	休憩	意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 大阪樟女子大学教授 菅 正隆 福岡教育大学大学院学校教育学専攻教授 兼重 昇 関西大学高崎新キャンパス国際理解推進委員会主任教諭 梅本 龍多	閉講式			
	連絡事項	◎目的：先進校の授業を知り、自校の取組にかかす。	◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。	◎目的：優れた実践事例を知ること、自分の実践を振り返る	◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る						

I 研修概要

研 修 名	平成21年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手(ALT)に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムに招致した外国語指導助手(ALT)						
開 催 期 日	(4月期) 平成21年4月9日(木)				1日間		
	(A日程) 平成21年7月27日(月)～平成21年7月28日(火)				2日間		
	(B日程) 平成21年8月3日(月)～平成21年8月4日(火)				2日間		
	(第2次) 平成21年8月20日(木)				1日間		
受 講 人 数	計 画 人 数	4月期	1,500人	受 講 者 数	9人	参 加 率	—
		A日程			800人		—
		B日程			604人		—
		第2次			30人		—
		計			1,500人		計
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町(東京都千代田区) A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル(東京都新宿区)						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	148	261	60	9	1	964	1443
割合(%)	10.3	18.1	4.2	0.6	0.1	66.8	
	409	28.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 日本の教育制度について、詳しく学べた。 プレゼンテーションでは、学校の写真を紹介していたのがよかった。 日本に初めて来たが、文化や法律についても知ることができた。 ティームティーチングの手法や、教材の使い方について、アイデアを与えてくれた。 2日間でいろいろ詰め込みすぎなプログラムだと感じた。もっとゆとりがあればよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> パネルプレゼンテーションを見直し、講義の内容の充実を図った。 文部科学省と連携をとりながら、講師の選定にあたった。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月期に英語圏ALTのための分科会を設定する。 講師同士(教諭と現職ALT)の事前の打合せを行う時間を確保するため、早い時期に講師の選定を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)
文部科学省分科会に係る日程表

平成21年4月9日(木)

会場:ホテルルポール麹町

時間	開 会
12:50-13:20	【行政説明】 「日本の学校教育の特色と外国語教育の現状」 講師：文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室 室長補佐 伊藤 文昭 「外国語指導助手の役割とチーム・ティーチングの基本的な考え方」 講師：文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室 室長補佐 伊藤 文昭 ※必要に応じ、潮田講師(中国語)及び黒澤講師(韓国語)による逐次通訳
(13:20-13:30)	休 憩
13:30-15:20	【講 義】 <中国語> 日本における中国語教育の現状 神奈川県立横浜国際高等学校 潮田康之 <韓国語> 日本における韓国語教育の現状 関東国際高等学校 黒澤真爾 【指導助言等】 <中国語> 先輩ALTからの体験談・指導助言 大阪府立柴島高等学校 ALT 豊 旭 <韓国語> 先輩ALTからの体験談・指導助言 大阪府立阪南高等学校 ALT 金 玫弟 ※必要に応じ、潮田講師及び黒澤講師も指導助言等を行う。
(15:20-15:30)	休 憩
15:30-16:10	国別ミーティング
16:10-16:15	連絡事項
16:20-17:00	取りまとめ団体別ミーティング

平成21年度来日直後オリエンテーション 日程

A日程	B日程	時間	内容
7/27(月)	8/3(月)	9:00 - 10:00	県別ミーティング
		10:00 - 11:00	開会式・JETプログラムに関する重要事項の説明
		11:00 - 12:00	講演
		12:00 - 13:15	昼食
		ALT	
		13:15 - 13:45	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 平木 裕
		13:45 - 14:45	プレゼンテーション 愛知県立千種高等学校 教諭 城山 良子 文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室 室長補佐 伊藤 文昭 文部科学省初等中等教育局国際教育課 ALTアドバイザー Shannon Quinn
		15:00 - 15:45 16:00 - 16:45	文部科学省分科会(小学校訪問) 京都市立朱雀第二小学校 教諭 中村 理恵 京都市教育委員会学校指導課 PA Matthew Hirakawa
		17:00 - 17:45	CLAIR分科会 AJET分科会
		12:00 - 13:15 15:15 - 18:00	AJETインフォメーションフェア
18:30 - 20:00	夕食会		
7/28(火)	8/4(火)	ALT	
		09:00 - 10:30	パネルディスカッション
		10:45 - 11:35	文部科学省 分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画 浜松市立入野中学校 教諭 中林 清美 浜松市立入野中学校 ALT Stephanie Terranova 北九州市立中原中学校 教諭 古賀 志保 北九州市教育委員会 ALT Scot Martin 仙台市立仙台清陵中等教育学校 教諭 糸谷 俊哉(A日程のみ) 仙台市立仙台清陵中等教育学校 ALT David Van Ommen(A日程のみ) 出雲市立第一中学校 教諭 小川 竜也(B日程のみ) 松江市教育委員会 ALT Angelo Senatore(B日程のみ) 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海道旭川北高等学校 ALT Peter Goosselink 大分県立大分雄城台高等学校 教諭 麻生 朋成(A日程のみ) 大分県立大分雄城台高等学校 ALT Hunter Deeley(A日程のみ) 山梨県立白根高等学校 教諭 奥水 以久子(B日程のみ) 山梨県立白根高等学校 ALT Priscilla Asche(B日程のみ) 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会学校指導課 PA Matthew Hirakawa
		11:35 - 12:50	昼食
		12:50 - 13:40	文部科学省 分科会 ○教材の創造的な使い方と言語活動の計画 浜松市立入野中学校 教諭 中林 清美 浜松市立入野中学校 ALT Stephanie Terranova 北九州市立中原中学校 教諭 古賀 志保 北九州市教育委員会 ALT Scot Martin 仙台市立仙台清陵中等教育学校 教諭 糸谷 俊哉(A日程のみ) 仙台市立仙台清陵中等教育学校 ALT David Van Ommen(A日程のみ) 出雲市立第一中学校 教諭 小川 竜也(B日程のみ) 松江市教育委員会 ALT Angelo Senatore(B日程のみ) 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海道旭川北高等学校 ALT Peter Goosselink 大分県立大分雄城台高等学校 教諭 麻生 朋成(A日程のみ) 大分県立大分雄城台高等学校 ALT Hunter Deeley(A日程のみ) 山梨県立白根高等学校 教諭 奥水 以久子(B日程のみ) 山梨県立白根高等学校 ALT Priscilla Asche(B日程のみ) 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会学校指導課 PA Matthew Hirakawa
		13:55 - 14:45	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		15:00 - 15:50	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		16:05 - 16:55	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		17:45 - 20:00	取団への出発準備(荷物の詰め替え、発送等)
		夜	大使館歓迎イベント
7/29(水)	8/5(水)	各取団による	取りまとめ団体へ出発

平成21年度来日直後オリエンテーション 第2次日程

	時間	内容
8 / 2 0 (木)	10:00 - 10:15	開会式
	10:20 - 10:50	CLAIR 情報提供
	10:50 - 11:00	AJET紹介
	11:00 - 12:30	全体会
	12:30 - 13:30	昼 食
	ALT 南館4階「錦」	
	13:30 - 13:35	文部科学省 挨拶 文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室 室長補佐 伊藤 文昭
	13:35 - 14:15	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 平木 裕
	14:15 - 14:25	休憩
	14:25 - 15:15	文部科学省 分科会 ○ティームティーチングと効果的な授業計画 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海道旭川北高等学校 ALT Peter Goosselink
	15:15 - 15:25	休憩
	15:25 - 16:15	文部科学省 分科会 ○教材の創造的な使い方と言語活動の計画 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海道旭川北高等学校 ALT Peter Goosselink
	16:30 - 17:00	都道府県別ミーティング 南館4階「錦」
18:30 - 20:00	JETプログラム夕食会 南館4階「扇」	

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】							
担当課係	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入体制の整備、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ② 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者。							
開催期日	平成21年7月27日(月)～平成21年7月28日(火)				2日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	53	人	参加率	※
開催場所	日本青年館(東京都新宿区)							

※ 全体計画人数 110人、 受講者数 159人、 参加率 144.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	36	17	0	0	0	0	53
割合(%)	67.9	32.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	53		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 班別協議が具体的な様子を聞くことができ、参考になった。課題協議はそれはそれでよかったが、できるだけ班別協議の時間を多くするとよいと思う。
- ・ 行政、学校、地域の役割(できること、行うべきこと)が理解でき、施策事業に反映したいと思います。
- ・ 現在の課題やその解決など具体的にわかりやすかった。事例や具体的な指導法など、管理者としてもありがたかった。
- ・ JSLだけでなく、人権、国際理解、わかりやすい授業(指導力向上)、地域、校内の体制づくり、ホームページのリソース情報など、すべてが参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・ 前年度よりも広い会場を確保し、より多くの受講者が参加できるようにした。
- ・ 2日目を日本語指導者用コースと管理者用コースに分け、管理者の立場に沿った内容の演習、講義を充実させた。
- ・ 演習の後にまとめの講義を入れ、より理解が深まるようにした。
- ・ 講師の事前打合せを行い、研修の目的を明確にした。班のグルーピングも講師に助言してもらいながら組んだ。

次年度に向けて

- ・ 講師同士の事前打合せは必ず行うようにする。
- ・ 1日目を管理者の立場に沿った内容にする。
- ・ 講義の重複がないようにする。
- ・ 管理者でも日本語指導の経験が少ない者が多いことから、授業実践のコマを入れるなどより現場の実態を理解できるようにする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目	9:30	10:00	10:50	12:00	13:10	14:40	14:55	17:00
7月27日 (月)		受 付	開 講 式	両コース共通 課題協議1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 国立大学法人東京学芸大学 教授 吉谷 武志	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒の言語・文化的背景と日本語教育」 早稲田大学 教授 池上 摩希子	休 憩	両コース共通 課題協議3 「外国人児童生徒への日本語指導の方法」 波多野ファミリスクール 理事・主管 大蔵 守久
				◎目的：外国人児童生徒教育における受入れ体制についての課題や児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：文化的背景が異なることで生ずる教育上の課題や発達途程にある子どもたちにとって「日本語を学習する」ことが持つ意味を考える。		◎目的：外国人児童生徒への日本語指導の実際とその工夫について大まかな理解をする。

第2日目	9:00	9:10	10:50	11:05	12:10	13:20	15:20	15:35	16:35	16:50		
7月28日 (火)	管理者用コース 事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取組み～教育・支援体制における連携と協働～」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 兵庫県教育委員会人権教育課 主任指導主事 伊井 直明 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一	休 憩	別演習1 「外国人児童生徒等受入体制1」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 兵庫県教育委員会人権教育課 主任指導主事 伊井 直明 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一	昼 食	別演習2 「外国人児童生徒等受入体制2」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 兵庫県教育委員会人権教育課 主任指導主事 伊井 直明 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一	休 憩	別演習3 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美	閉 講 式				
	◎目的：外国人児童生徒の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：管理者として外国人児童生徒を受け入れる際の留意点等について学ぶ。					
	日本語指導者両コース共通10:40	10:55	別演習4 「情報交換による課題の整理～日本語指導の取り組みについて～」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐紀子	休 憩	別演習4 「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎	別演習5 「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	15:20	15:35	事例協議 「日本語指導の実践事例」 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐紀子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝	16:45	17:00	自主教材展示・情報交換
	◎目的：個々の情報を共有し、日本語指導の課題について整理する。		◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の授業の効果的なありかたについて知識を得る。					

第3日目	9:00	9:10	10:40	10:55	12:00	13:10	17:00
7月29日 (水)	日本語初期指導コース 課題協議7 「日本語初期指導の留意点」 東京女子大学 教授 石井 恵理子	休 憩	別演習2 「日本語初期指導の実践1」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝 港区立筭小学校 教諭 花島 健司	昼 食	別演習3 「日本語初期指導の実践2」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝 港区立筭小学校 教諭 花島 健司	休 憩	別演習3 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 (国語小) 豊島区立池袋小学校 教諭 高橋 理恵 (国語小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語中) 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 (算数) 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 赤羽 寿夫 (理科) 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 (社会)
	◎目的：来日直後の児童生徒に日本語指導を行う際に、工夫するべき点等、より実践的な手法について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。
	別演習2 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 (国語小) 豊島区立池袋小学校 教諭 高橋 理恵 (国語小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語中) 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 (算数) 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 赤羽 寿夫 (理科) 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 (社会)						
	◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。						

第4日目	9:00	9:15	12:30	13:40	14:40	15:00
7月30日 (木)	日本語指導者両コース共通 別演習4 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 ポスターセッション 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝 港区立筭小学校 教諭 花島 健司 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 豊島区立池袋小学校 教諭 高橋 理恵 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 赤羽 寿夫 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子	休 憩	別演習5 「研修を生かした日本語指導の充実を図る方策」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子	閉 講 式		
	◎目的：別演習での成果を発表し合うことで、初期指導の授業およびJSLカリキュラムに則った授業についての理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。			

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入体制の整備、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者。							
開 催 期 日	平成21年7月27日(月)～平成21年7月30日(木)				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	106	人	参加率	※
開 催 場 所	日本青年館(東京都新宿区)							

※全体計画人数 110人、 受講者数 159人、 参加率 144.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	74	28	1	0	3	0	106
割合(%)	69.8	26.4	0.9	0.0	2.8	0.0	
	102						
	96.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラムが考え尽くされている。これ以上の組み方はないと思う。 ・講師がすごい。質・量ともにぜいたくである。 ・ポスターセッションでいろいろな授業の流れができていたことはすばらしいと思った。 ・内容が盛り沢山。重なる点があったので、もう少し精選できなかったか。 ・高校における初期指導ももっとクローズアップして欲しいです。(特に「進級」という問題があると、とても厳しい状況になり得るので) ・班ごとのワークショップやポスターセッションは大変参考になった。特に全体にすべてを公開するので、小学校や他教科の手法を知ることができてよかった。個人的には、中学校英語があるとよいと思った。(JSLカリキュラムは中学英語もあるから)

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度よりも広い会場を確保し、より多くの受講者が参加できるようにした。 ・講師同士の事前打合せを行った。 ・受講者同士が持ち合った教材を展示し、休憩時間でも閲覧できるようにした。 ・班分けを講師に相談し、話し合いが深まるよう工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定をより明確にする。 ・講義の重複がないようにする。 ・講師同士の事前打合せを必ず行う。 ・講師の選定を早めて講師の質を落とさないようにする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目	9:30	10:00	10:50	12:00	13:10	14:40	14:55	17:00
7月27日 (月)		受 付	開 講 式	両コース共通 課題協議1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 国立大学法人東京学芸大学 教授 吉谷 武志	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒の言語・文化的背景と日本語教育」 早稲田大学 教授 池上 摩希子	休 憩	両コース共通 課題協議3 「外国人児童生徒への日本語指導の方法」 波多野ファミリスクール 理事・主管 大蔵 守久
				◎目的：外国人児童生徒教育における受入れ体制についての課題や児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：文化的背景が異なることで生ずる教育上の課題や発達途中にある子どもたちにとって「日本語を学習する」ことが持つ意味を考える。		◎目的：外国人児童生徒への日本語指導の実際とその工夫について大まかな理解をする。

第2日目	9:00	9:10	10:50	11:05	12:10	13:20	15:20	15:35	16:35	16:50		
7月28日 (火)	管理者用コース 事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取組み～教育・支援体制における連携と協働～」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 兵庫県教育委員会人権教育課 主任指導主事 伊井 直明 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一	休 憩	班別演習1 「外国人児童生徒等受入体制1」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 兵庫県教育委員会人権教育課 主任指導主事 伊井 直明 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一	昼 食	班別演習2 「外国人児童生徒等受入体制2」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 兵庫県教育委員会人権教育課 主任指導主事 伊井 直明 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一	休 憩	課題協議6 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 国立大学法人大阪教育大学 准教授 臼井 智美	閉 講 式				
	◎目的：外国人児童生徒の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：管理者として外国人児童生徒を受け入れる際の留意点等について学ぶ。					
	日本語指導者両コース共通10:40	10:55	班別演習1 「情報交換による課題の整理～日本語指導の取り組みについて～」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐紀子	休 憩	班別演習4 「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎	日本語指導者両コース共通 課題協議5 「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	15:20	15:35	事例協議 「日本語指導の実践事例」 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐紀子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝	16:45	17:00	自主 教材 展 示 ・ 情 報 交 換
	◎目的：個々の情報を共有し、日本語指導の課題について整理する。		◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の授業の効果的なありかたについて知識を得る。					

第3日目	9:00	9:10	10:40	10:55	12:00	13:10	17:00
7月29日 (水)	日本語初期指導コース 課題協議7 「日本語初期指導の留意点」 東京女子大学 教授 石井 恵理子	休 憩	班別演習2 「日本語初期指導の実践1」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝 港区立筭小学校 教諭 花島 健司	昼 食	班別演習3 「日本語初期指導の実践2」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝 港区立筭小学校 教諭 花島 健司	休 憩	班別演習3 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 (国語小) 豊島区立池袋小学校 教諭 高橋 理恵 (国語小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語中) 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 (算数) 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 赤羽 寿夫 (理科) 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 (社会)
	◎目的：来日直後の児童生徒に日本語指導を行う際に、工夫するべき点等、より実践的な手法について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。
	日本語指導者両コース共通 班別演習2 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 (国語小) 豊島区立池袋小学校 教諭 高橋 理恵 (国語小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語中) 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 (算数) 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 赤羽 寿夫 (理科) 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 (社会)						
	◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。						

第4日目	9:00	9:15	12:30	13:40	14:40	15:00
7月30日 (木)	日本語指導者両コース共通 班別演習4 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 ポスターセッション 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 野口 恵美子 関東国際高等学校 講師 菅原 雅枝 港区立筭小学校 教諭 花島 健司 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 豊島区立池袋小学校 教諭 高橋 理恵 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭 赤羽 寿夫 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子	休 憩	課題協議8 「研修を生かした日本語指導の充実を図る方策」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子	閉 講 式		
	◎目的：班別演習での成果を発表し合うことで、初期指導の授業およびJSLカリキュラムに則った授業についての理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。			

I 研修概要

研 修 名	子育て支援指導者養成研修								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ								
研 修 目 的	認定こども園、幼稚園等において子育て支援を推進するため、子育て支援の実施方法、子育て相談に関する手法等について必要な知識を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の企画・立案や各園への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 地方公共団体において認定こども園等の指導・助言を行う者。 認定こども園、幼稚園、保育所の教職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 								
開 催 期 日	平成21年7月29日（水）～平成21年7月31日（金）			3日間					
受 講 人 数	計画人数	60	人	受講者数	57	人	参加率	95.0%	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター								

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	40	14	1	0	2	0	57
割合 (%)	70.2	24.6	1.8	0.0	3.5	0.0	
	54						
	94.7						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> どの内容も中味が濃く深く、学びの多い研修だった。 子育て支援指導者養成研修にふさわしい、レベルの高い、実践的な内容で大変有意義であった。 すばらしい環境の中で学びました。研修内容、方法共に参考にさせていただき、これから現場で活用したいと思いました。満足の三日間でした。 自分の実践していることを整理し、子育て支援についてより高い所から展望することができた。 いろいろな講師の方から、立場の違うところでのお話を伺い、とても勉強になりました。また、それぞれの地域の情報が知ることができたことも収穫でした。そして最後の演習では、問題の課題の整理からプレゼンの仕方まで経験できました。 幼稚園職員側に厚生労働省や社会福祉の情報が入りやすく、勉強する機会がなかったので大変よかったです。 最初はまわりの方との距離間が大きく、班活動でもやりにくい面がありましたが、共に生活する中で親しくなれ、色々な情報を聞くことができました。園にもどり、社会状況と子育て支援に対する気持ちの持ち方、方法を伝えていきたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講者が参加しやすいよう、研修内容の重点化を図り、研修期間を3日間とした。 研修期間中、子育て支援に関連するNPO情報などのパンフレットを展示し、受講者に情報提供を行った。 研修のねらいや全体構造をオリエンテーションをはじめ、それぞれの演習の際にも示し、メタ的な観点をもって研修に臨めるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3日間に短縮したことにより、内容が盛りだくさんになっているので内容の精選および講義と演習の流れを再考する。 受講者の資質向上を図るため、班別協議のためのシートづくりや、課題に対する研修プログラムを計画するなど、よりイメージを膨らませ、課題意識を持たせるような事前課題を検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 子育て支援指導者養成研修 日程表

◎印は講義等の目的

		9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	15:10	15:20	17:00
7月29日(水)	受付	開講式	オリエンテーション	課題協議1 「幼児教育を取り巻く状況と子育て支援の展開」 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官 山下 文一 ◎認定こども園とは何か、全国的な子育て支援の視点から子育て支援の現状について理解する。	昼食	講義・演習1 「子育て支援事業の内容と展開方法」 講義 事例発表 大阪市立大学 教授 山縣 文治 学校法人渡辺学園 社会福祉法人「光と風のむら」ゆうゆうのもり幼稚園 園長 渡辺 英則 協議とまとめ	休憩	班別協議 「子育て支援に関する取組状況」 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官 山下 文一 ◎各地域における子育て支援の取組について情報を得る。	
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)									

		9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	17:00
7月30日(木)	受付	講義・演習2 「民間から学ぶ子育て支援」 株式会社日本総合研究所 主任研究員 池本 美香 ◎民間で行われている子育て支援の事例から視野を広める。	休憩	講義・演習3 「子どもの発達と子育て相談」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 ◎子どもの発達を踏まえた子育て支援の在り方について理解を深める。	昼食	講義・演習4 「子育て相談とその手法」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 (指導助言者) 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所 青木 聡子 東京学芸大学大学院教育学研究所 本蔵 達矢 ◎子育て支援事業における相談事業の重要性を認識し、相談による支援の在り方について学ぶ。	
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)							

		9:00	12:00	13:00	14:30
7月31日(金)	受付	講義・演習5 「研修を生かした子育て支援の充実を図る方策」 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官 山下 文一 ◎認定こども園(幼稚園)を中心とした子育て支援の推進の在り方について協議する。	昼食	課題協議2 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官 山下 文一 ◎子育て支援に関する研修講師となるための課題を整理する。	閉講式
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)					

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年5月26日（火）～平成21年5月29日（金）			4日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	295	人	参加率	※
開 催 場 所	青森県民福祉プラザ（青森県青森市）ほか							

※ 全体計画人数 830 人、 受講者数 880 人、 参加率 106.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	209	49	0	0	8	29	295
割合 (%)	70.8	16.6	0.0	0.0	2.7	9.8	
	258						
	87.5						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・たくさんのアイデアをいただきました。地域や学校の実態により、すべてを生かすことはできないかもしれませんが、これからの実践を通して自分自身の授業力を高め、課題である子どもたちの体力向上を常に意識した取り組みを考えていきたいと思えます。
- ・今まで自分で行ってきた授業を見直す良い機会になった。体力を高める運動や運動意欲を高めることなど、大変勉強になった。研修で学んだことをしっかり伝達したい。
- ・運動の意欲を高めるための指導について、しっかりと学習指導要領の内容を確認しながら、いろいろな視点から考えることができました。
- ・今回の研修の目的は「子どもの体力～必要な知識や技術の習得を図る」ことであったが、どちらかという技術の習得の方に力点がおかれた研修会であった。知識の方がもう少し必要だと感じた。
- ・様々な運動例を紹介していただき、非常に参考になった。また、他県の先生方との交流や情報交換は貴重な機会となり、これからの職務を遂行していくうえでの財産となった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、受講者間において、特徴的な取り組み事例の共通理解を図り、年間指導計画等への活用を検討できるよう工夫する。

次年度に向けて

- ・特に女子児童生徒等運動を苦手とする児童生徒への指導の工夫を検討
- ・子どもたちへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて、運動意欲の向上が図られるよう更に研修内容を検討する。
- ・引き続き、競技力向上の実技研修と勘違いしている受講者がいるので、事前に研修目的の周知を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 子どもの体力向上指導者養成研修日程（東部ブロック）

		12:00 12:30 12:50 13:00		14:00		17:00	
5月26日	受付	開講式		全体会		部会別演習	
		休憩		「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官		研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・体力向上に向けた学校の教育活動全体での取組みや家庭や地域社会との連携の工夫 ・体力の向上を目指した指導計画の作成	

		12:00		13:00		14:30		17:00	
5月27日	部会別演習	部会別演習		食・憩		部会別演習			
		「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)	屋・休 食・憩		「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

		12:00		13:00		14:30		17:00	
5月28日	部会別演習	部会別演習		食・憩		部会別演習			
		「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)	屋・休 食・憩		「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

		12:00		13:00		15:00	
5月29日	部会別演習	部会別演習		食・憩		部会別演習	
		「研修講師となるために①」 (演習・協議)	「研修講師となるために②」 (演習・協議)	屋・休 食・憩		「研修講師となるために③」 (演習・協議)	
						閉講式	

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（中部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年5月19日（火）～平成21年5月22日（金）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	313	人	参加率	※
開 催 場 所	長野市若里市民文化ホール（長野県長野市）ほか							

※全体計画人数 830人、受講者数 880人、参加率 106.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数 (人)	239	41	0	0	3	30	313			
割合 (%)	76.4	13.1	0.0	0.0	1.0	9.6				
	280									
	89.5									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他種目の専門性に触れることで“できないことができる喜び”を体感でき、教育者として非常に幅が広がったと思う。また多くの指導者の方々の意見等聞きながら、考え方や視野についても深く広くなった気がします。今後の活動の中でいかに還元できるか考え、研修会の意義をより深いものにしてゆきたい。 ・本やインターネット等の情報だけでは指導法はある程度分かるが、運動理論は実技を交えながら学ぶ方がより分かりやすい。だから講師の指導講話はととてもよかったです。11年次をむかえて経験だけで指導していた面も多々あり、今後は教えていただいたことを元に、児童の指導を行いたい。 ・非常に細かい部分の配慮や準備がしっかりしていて、充実した研修を送ることができました。特に知らない練習方法やポイントを教えていただき、また今後に生かしていきたいと思えます。 ・単に動きを覚えるだけでなく、その動きの目的や効果、評価について考えながら演習させていただいたのは、大変勉強になりました。指導者として講習を行う際の観点も明確にもつことができました。 ・理論（考え方）から入り、その理論にもとづいた実技内容でとてもすっきりした内容であった。「考え方」を伝える、というねらいにそった、地元での伝達講習にしていきたい。 ・評価についての講義が非常に有意義だった。自分の実践を振り返ると甘いところだらけで、今回受講することで今後の指導に活かせるように感じた。また、様々な運動例はもちろん、その運動は何を目標としているのか明確にする必要があるように感じた。今回学んだことを本県に返って伝達し、子どもの「生涯にわたって運動をする」という意識を高めていきたいと考えている。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、受講者間において、特徴的な取り組み事例の共通理解を図り、年間指導計画等への活用を検討できるよう工夫する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に女子児童生徒等運動を苦手とする児童生徒への指導の工夫を検討 ・子どもたちへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて、運動意欲の向上が図られるよう更に研修内容を検討する。 ・引き続き、競技力向上の実技研修と勘違いしている受講者がいるので、事前に研修目的の周知を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 子どもの体力向上指導者養成研修日程（中部ブロック）

	12:00	12:30	12:50	13:00	14:00	17:00
5月19日	受付	開講式	休憩	全体会	部会別演習	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・体力向上に向けた学校の教育活動全体での取組みや家庭や地域社会との連携の工夫 ・体力の向上を目指した指導計画の作成
				「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官		

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月20日	部会別演習	部会別演習	屋休・食憩	部会別演習	部会別演習	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)
				「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月21日	部会別演習	部会別演習	屋休・食憩	部会別演習	部会別演習	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)
				「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)	

	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00
5月22日	部会別演習	部会別演習	屋休・食憩	部会別演習	閉講式
				「研修講師となるために①」 (演習・協議)	「研修講師となるために③」 (演習・協議)

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年5月12日（火）～平成21年5月15日（金）			4日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	272	人	参加率	※
開 催 場 所	長崎市民会館（長崎県長崎市）ほか							

※全体計画人数 830人、受講者数 880人、参加率 106.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	206	40	1	0	1	24	272
割合(%)	75.7	14.7	0.4	0.0	0.4	8.8	
	246						
	90.4						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・班ごとに活動する場面が多く、他の先生方の色々なアイデアを出し合いながら、運動を考えることができた。また、指導の仕方、発表の仕方に関しても大変参考になった。
- ・今回研修に参加させていただき、新学習指導要領の内容がとてよくわかりました。指導養成研修には初めて参加させていただきましたが、専門性の高い先生に教えていただいたことで、指導の悩みが解決しました。本当に爽りある、素晴らしい研修でした。
- ・文献や雑誌等で、新学習指導要領の改訂のポイント等、頭の中で分かってはいたが、それが整理、充実された感がある。また、「分かる」→「できる」（伝達できる、実践できる）よう、努めたい。
- ・学級ですぐ実践できる講習内容が多く、教師としての引き出しが増えました。「やってみせて」「言い聞かせて」「やらせて」「褒める」全ての教科に共通する大切な事を学びました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、受講者間において、特徴的な取り組み事例の共通理解を図り、年間指導計画等への活用を検討できるよう工夫する。

次年度に向けて

- ・特に女子児童生徒等運動を苦手とする児童生徒への指導の工夫を検討
- ・子どもたちへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて、運動意欲の向上が図られるよう更に研修内容を検討する。
- ・引き続き、競技力向上の実技研修と勘違いしている受講者がいるので、事前に研修目的の周知を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 子どもの体力向上指導者養成研修日程（西部ブロック）

	12:00	12:30	12:50	13:00	14:00	17:00
	受付		開講式		全体会	部会別演習
5月12日				休憩	「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・体力向上に向けた学校の教育活動全体での取組みや家庭や地域社会との連携の工夫 ・体力の向上を目指した指導計画の作成

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	部会別演習		屋休・食憩		部会別演習	
5月13日	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)			「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	部会別演習		屋休・食憩		部会別演習	
5月14日	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)			「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)

	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00
	部会別演習		屋休・食憩		部会別演習
5月15日	「研修講師となるために①」 (演習・協議)	「研修講師となるために②」 (演習・協議)			「研修講師となるために③」 (演習・協議)
					閉講式

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年12月14日（月）～平成21年12月16日（水）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	89	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 330人、受講者数 321人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった		無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義						
人数(人)	60	24	1	1	3	0	89	
割合(%)	67.4	27.0	1.1	1.1	3.4	0.0		
	84	94.4						

2. 研修内容に関する主な意見

- この研修に参加する前は、不安ばかりでしたが、各講義や演習を受ける中で今まで何げなくあたり前にやってきた様々な活動の根拠になることを改めて学び、自身の大きな自信につながったと感じています。この研修会の目的である、地域の指導者となりうるよう今後、現場に戻って職場はもとより、各地区の研修会での伝達や研修会等の企画運営に参画していきたいと考えています。
- 今回は、「新型インフルエンザの対応」を第1日目の午前中に計画していただき、タイムリーで分かりやすく現場に戻って活用できることから、有意義でありました。又保健学習についての分科会でしたが、講師の先生方から大変きめ細かい指導をいただき修得したことを今後活用できると実感することができました。さらにグループの構成も配慮されており、良かったと思います。
- 講義によって得られた知識部分が、演習によって体験的に得られたものによってより強化され、大変刺激の多い意識の変容を促される研修でした。ありがとうございました。
- 専門分野の第一人者の先生方のお話を、感染症、保健安全、メンタルヘルスといった様々な分野で更に他職種の方々の考えや意見をおうかがいすることができ、本当に自分自身の大きな学びとなりました。
- 専門分野の第一人者の先生方のお話を、感染症、保健安全、メンタルヘルスといった様々な分野で更に他職種の方々の考えや意見をおうかがいすることができ、本当に自分自身の大きな学びとなりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- 引き続き、各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。
- 学校現場等の喫緊の課題である「新型インフルエンザ」に対応する講義・演習を設ける。
- 地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。

次年度に向けて

- 新型インフルエンザ対応の演習、児童虐待の講義を全受講者に対して行うことを検討する。
- 引き続き、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:20 10:30	12:00	13:00	13:40 13:50	17:00
12月14日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	<p>講義・演習1</p> <p>学校における新型インフルエンザへの対応</p> <p>国立感染症研究所 感染症情報センター センター長 岡部 信彦</p> <p>オリエンテーション</p>	昼食・休憩	<p>選択講義</p> <p>①「健康教育の現状と今後の保健学習の在り方」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>②「学校保健安全法の概要と求められている教職員の役割」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：新型インフルエンザの流行に備えた危機管理の在り方を学び、理解を深める。</p>	休 息	<p>講義・演習2-1</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>京都大学大学院 教授 十一 元三</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>

第2日目		9:00	12:00	13:00	17:00
12月15日 〔火〕	両コース共通	<p>講義・演習2-2</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>文教大学 教授 柳生 和男</p> <p>◎目的：学校におけるカウンセリングの活用法を学ぶ。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習2-3</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>奥出雲町立三沢小学校 教頭 荊尾 玲子 高知県心の教育センター 子どもサポート担当チーフ 中野 靖子 鳥取県教育委員会 指導主事 西尾 美日川 崎市立生田小学校 教頭 矢野 君江</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>	

第3日目		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
12月16日 〔水〕	両コース共通	<p>発表：事例研究</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>【小学校】 東京大学 特任准教授 金生 由紀子 【中学校】 千葉大学 教授 塩田 瑞美 【高校】 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤</p> <p>◎目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習3</p> <p>研修講師となるために 〔推進コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	推進閉講式	<p>講義・演習3</p> <p>学校・家庭・地域社会との連携の在り方</p> <p>【①児童虐待への対応】</p> <p>横浜市中央児童相談所 担当部長 金井 剛</p> <p>【②学校保健委員会の実際】</p> <p>高崎市教育委員会 指導主事 霜田 敦子</p> <p>◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。</p>

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
12月17日 〔木〕	専門コース	<p>講義・演習4-1</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習4-2</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>	
		◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。			

第5日目		9:00	12:00	13:00	15:00
12月18日 〔金〕	専門コース	<p>講義・演習5</p> <p>学校における感染症対策の在り方</p> <p>国立大学法人東京大学医科学研究所 附属病院アレルギー免疫科 助教 大沼 圭</p> <p>◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習6</p> <p>研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	専門閉講式

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：専門コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年12月14日（月）～平成21年12月18日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	98	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 330人、受講者数 321人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	80	15	0	0	1	2	98
割合(%)	81.6	15.3	0.0	0.0	1.0	2.0	
	95	96.9					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義はすべてすばらしかったです。大変勉強になりました。指導案作成のグループ内の演習からはあまり得るものがありませんでした。とても楽しみにしていただけに残念でした。しかし、講師の先生や他のグループの発表からは大変勉強させていただきました。講師の先生方の熱意を感じ意欲がわいてきました。心より感謝いたします。 ・大変有意義な講義演習内容の研修を受けさせていただき、本当に勉強になりました。ありがとうございました。メンタルヘルス受講させていただきましたが、その他の講義について、本題に入る直前で講義終了・・・という感もあり、非常に残念な研修でもありました。1つ1つ演習を広く浅く・・・ではなく狭く深く進めていただけたとよかったです。でも、どれも、大変勉強になりました。 ・今後現場の実態に合わせての保健活動をするための基本的な学習が出来たので生かすように努力したいと思います。5日間のプログラムはすばらしかったです。 ・パワーポイントのデータをいただけたらよいと思います。白黒の資料なので、グラフの部分などよく見えず後で活用できないのが残念です。 ・研修後も地元に戻って講義の振り返りができる体制まで整えてくださり本当にありがとうございます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。 ・学校現場等の喫緊の課題である「新型インフルエンザ」に対応する講義・演習を設ける。 ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザ対応の演習、児童虐待の講義を全受講者に対して行うことを検討する。 ・引き続き、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:20 10:30	12:00	13:00	13:40 13:50	17:00
12月14日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	<p>講義・演習1</p> <p>学校における新型インフルエンザへの対応</p> <p>国立感染症研究所 感染症情報センター センター長 岡部 信彦</p> <p>オリエンテーション</p>	昼食・休憩	<p>選択講義</p> <p>①「健康教育の現状と今後の保健学習の在り方」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>②「学校保健安全法の概要と求められている教職員の役割」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：新型インフルエンザの流行に備えた危機管理の在り方を学び、理解を深める。</p>	休 息	<p>講義・演習2-1</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>京都大学大学院 教授 十一 元三</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>

第2日目		9:00	12:00	13:00	17:00
12月15日 〔火〕	両コース共通	受付	<p>講義・演習2-2</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>文教大学 教授 柳生 和男</p> <p>◎目的：学校におけるカウンセリングの活用法を学ぶ。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習2-3</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>奥出雲町立三沢小学校 教頭 荊尾 玲子 高知県心の教育センター 子どもサポート担当チーフ 中野 靖子 鳥取県教育委員会 指導主事 西尾 美日 川崎市立生田小学校 教頭 矢野 君江</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>

第3日目		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
12月16日 〔水〕	両コース共通	受付	<p>発表：事例研究</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道教育庁 主査 森 浩之</p> <p>【感染症】 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫</p> <p>◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>【小学校】 東京大学 特任准教授 金生 由紀子 【中学校】 千葉大学 教授 塩田 瑞美 【高校】 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤</p> <p>◎目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習3</p> <p>研修講師となるために 〔推進コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	推進閉講式
			<p>発表</p> <p>◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博</p> <p>◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>【小学校】 東京大学 特任准教授 金生 由紀子 【中学校】 千葉大学 教授 塩田 瑞美 【高校】 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤</p> <p>◎目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。</p>		<p>講義・演習3</p> <p>学校・家庭・地域社会との連携の在り方</p> <p>【①児童虐待への対応】</p> <p>横浜市中央児童相談所 担当部長 金井 剛</p> <p>【②学校保健委員会の実際】</p> <p>高崎市教育委員会 指導主事 霜田 敦子</p> <p>◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。</p>	

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
12月17日 〔木〕	専門コース	受付	<p>講義・演習4-1</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習4-2</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>
			◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。		◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。

第5日目		9:00	12:00	13:00	15:00	
12月18日 〔金〕	専門コース	受付	<p>講義・演習5</p> <p>学校における感染症対策の在り方</p> <p>国立大学法人東京大学医科学研究所 附属病院アレルギー免疫科 助教 大沼 圭</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習6</p> <p>研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p>	専門閉講式
			◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成21年11月16日（月）～平成21年11月18日（水）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	73	人	参加率	※
開催場所	アクロス福岡（福岡県福岡市）							

※全体計画人数 330人、受講者数 321人、参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	40	26	0	0	7	0	73
割合(%)	54.8	35.6	0.0	0.0	9.6	0.0	
	66	90.4					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修内容は大変有意義だったが、自分のものとして整理、吸収することがなかなかできていない気がする。指導者という点では自信は全くないが、まずは自校職員へ、それから自主的な研修会等で伝えていきたいと思っている。
- ・すばらしい講師の先生方のもと、多くの先生方とのディスカッションの機会もあり、とても内容の濃い研修でした。研修環境もとてもよかったです。
- ・新型インフルエンザへの危機管理について、日々情勢が変わっているので、もう少し現時点での状況をふまえた対応のあり方についての指導がほしかった。
- ・演習も理論も大変ためになった。特に演習は実践しやすいものとして良かった。私は教諭であるが、養護教諭の先生方とも交流でき、思いや考え方を知ることができたので、とても良かった。
- ・演習におけるGWでの、ものづくりより議論の過程が自分の考えを深めるために有意義だった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き、各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。
- ・学校現場等の喫緊の課題である「新型インフルエンザ」に対応する講義・演習を設ける。
- ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。

次年度に向けて

- ・新型インフルエンザ対応の演習、児童虐待の講義を全受講者に対して行うことを検討する。
- ・引き続き、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:20 10:30	12:00	13:00	13:40 13:50	17:00	
11月16日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	<p>講義・演習1</p> <p>学校における新型コロナウイルスへの対応</p> <p>国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官 松井 珠乃</p> <p>オリエンテーション</p> <p>◎目的：新型コロナウイルスの流行に備えた危機管理の在り方を学び、理解を深める。</p>	昼食・休憩	<p>選択講義</p> <p>①「健康教育の現状と今後の保健学習の在り方」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>②「学校保健安全法の概要と求められている教職員の役割」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深める。</p>	休 息	<p>講義・演習2-1</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>京都大学大学院 教授 十一 元三</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>	

第2日目		9:00	12:00	13:00	17:00	
11月17日 〔火〕	両コース共通	受付	<p>講義・演習2-2</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>滋賀県教育委員会学校教育課 スクールカウンセラー 生天目 聖子</p> <p>◎目的：学校におけるカウンセリングの活用法を学ぶ。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習2-3</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>十文字学園女子大学 准教授 松野 智子 福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子 春日井市教育委員会 安藤 節子 長浜市立びわ中学校 養護教諭 岩崎 信子</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>	

第3日目		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00	
11月18日 〔水〕	両コース共通	受付	<p>発表：事例研究</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。</p> <p>◎保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。</p> <p>◎児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>【小学校】名古屋市立天白養護学校 教頭 山口 純枝 【中学校】兵庫大学 講師 加藤 和代 【高校】山形県立山形養護学校 校長 花輪 敏男</p> <p>◎目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習3</p> <p>研修講師となるために 〔推進コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	推進閉講式	<p>講義・演習3</p> <p>学校・家庭・地域社会との連携の在り方</p> <p>【①児童虐待への対応】</p> <p>子どもの虹情報研修センター 研究部長 川崎二三彦</p> <p>【②学校保健委員会の実際】</p> <p>群馬県教育委員会西部教育事務所 指導主事 松村 文子</p> <p>◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。</p>

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
11月19日 〔木〕	専門コース	受付	<p>講義・演習4-1</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p> <p>◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習4-2</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>

第5日目		9:00	12:00	13:00	15:00	
11月20日 〔金〕	専門コース	受付	<p>講義・演習5</p> <p>学校における感染症対策の在り方</p> <p>国立病院機構福岡病院 統括診療部長 岡田 賢司</p> <p>◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習6</p> <p>研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	専門閉講式

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：専門コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成21年11月16日（月）～平成21年11月20日（金）					5日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	61	人	参加率	※
開 催 場 所	アクロス福岡（福岡県福岡市）							

※ 全体計画人数 330 人、 受講者数 321 人、 参加率 97.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	46	11	0	0	4	0	61
割合 (%)	75.4	18.0	0.0	0.0	6.6	0.0	
	57						
	93.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 多岐にわたる内容の研修で、大変有意義でした。参加者それぞれが自校や地域の課題を十分認識しながらの参加で、グループ討論も非常に活発に論議できました。準備などの企画もきめ細やかになされていたため、全体を通してスムーズに参加できました。 参加者の意欲も高く、自分自身が講師をつとめる、また研修を企画するに際して、対象の現状確認を踏まえた内容設定と研修のまとめの時間の重要性を思い知らされた。 新型インフルエンザによる欠席が自校においても出はじめ措置をとっている中、この研修に参加しましたが、参加して学んだことが今後の職務に役立つ内容であるので、とても良かったと思います。企画・運営された方、講師の先生方、ありがとうございました。 学校現場でまさに直面している課題について、様々なヒントを得ることができた。有意義な1週間を過ごすことができた。 新型インフルエンザに関する内容など、タイムリーな情報や解説、新学習指導要領を踏まえた学習指導方法など研修でき、知識理解をさらに深めることができてよかった。こんかいの研修内容を自分の県に持ち帰り、周知していきたい。 どの講義もとても内容の濃い、充実した研修であった。特に演習があり、いろいろな先生方とのネットワークも築くことができ良かったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。 学校現場等の喫緊の課題である「新型インフルエンザ」に対応する講義・演習を設ける。 地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型インフルエンザ対応の演習、児童虐待の講義を全受講者に対して行うことを検討する。 引き続き、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:20 10:30	12:00	13:00	13:40 13:50	17:00	
11月16日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	<p>講義・演習1</p> <p>学校における新型インフルエンザへの対応</p> <p>国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官 松井 珠乃</p> <p>オリエンテーション</p> <p>◎目的：新型インフルエンザの流行に備えた危機管理の在り方を学び、理解を深める。</p>	昼食・休憩	<p>選択講義</p> <p>①「健康教育の現状と今後の保健学習の在り方」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>②「学校保健安全法の概要と求められている教職員の役割」</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深める。</p>	休憩	<p>講義・演習2-1</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>京都大学大学院 教授 十一 元三</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>	

第2日目		9:00	12:00	13:00	17:00	
11月17日 〔火〕	両コース共通	受付	<p>講義・演習2-2</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>滋賀県教育委員会学校教育課 スクールカウンセラー 生天目 聖子</p> <p>◎目的：学校におけるカウンセリングの活用法を学ぶ。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習2-3</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>十文字学園女子大学 准教授 松野 智子 福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子 春日井市教育委員会 安藤 節子 長浜市立びわ中学校 養護教諭 岩崎 信子</p> <p>◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの具体的な対応方法を学ぶ。</p>	

第3日目		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00	
11月18日 〔水〕	両コース共通	受付	<p>発表：事例研究</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習</p> <p>【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛</p> <p>【喫煙・飲酒・薬物乱用】 金沢大学 准教授 岩田 英樹 朝倉市立甘木中学校 教頭 坂井 満</p> <p>◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。</p> <p>◎目的：保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立小松川高等学校 校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応</p> <p>【小学校】名古屋市立天白養護学校 教頭 山口 純枝 【中学校】兵庫大学 講師 加藤 和代 【高校】山形県立山形養護学校 校長 花輪 敏男</p> <p>◎目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習3</p> <p>研修講師となるために 〔推進コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一</p> <p>◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	推進閉講式	<p>講義・演習3</p> <p>学校・家庭・地域社会との連携の在り方</p> <p>【①児童虐待への対応】</p> <p>子どもの虹情報研修センター 研究部長 川崎二三彦</p> <p>【②学校保健委員会の実際】</p> <p>群馬県教育委員会西部教育事務所 指導主事 松村 文子</p> <p>◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。</p>

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
11月19日 〔木〕	専門コース	受付	<p>講義・演習4-1</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p> <p>◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習4-2</p> <p>学校における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>

第5日目		9:00	12:00	13:00	15:00	
11月20日 〔金〕	専門コース	受付	<p>講義・演習5</p> <p>学校における感染症対策の在り方</p> <p>国立病院機構福岡病院 統括診療部長 岡田 賢司</p> <p>◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。</p>	昼食・休憩	<p>講義・演習6</p> <p>研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	専門閉講式

I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における生活安全、交通安全、災害安全に関し、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成21年6月17日（水）～平成21年6月19日（金）			3日間				
受 講 人 数	計画人数	160	人	受講者数	159	人	参加率	99.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	113	43	1	0	2	0	159
割合 (%)	71.1	27.0	0.6	0.0	1.3	0.0	
	156	98.1					

2. 研修内容に関する主な意見

- 中央（文科省）のこれからの方針、方向性についてもイメージできたことは今後の指導に活かせるのではないと思う。
- 全国の実際に指導を担当する先生達と本当におこっている事件や問題について意見交換できた事はよかった。
- 内容がとても充実しており、自分の知らなかった事、見方が変わったこと等、安全に関して理解することができた。
- 自校の体制を再確認するよい機会になったと共に、地元でも機会を設けていきたいと思う。
- 法制度も改正され、学校安全全般について研修するよい機会となった。
- 清閑な場所で久しぶりにじっくりと考えることができました。
- 一緒に参加した方々の課題意識等が高く、よい影響を受けました。
- 自分たちが班別演習で作った危機管理マニュアルが、自分の学校でいかせることが1番良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度に踏まえ

- 各部会の講師から初日に受講者全員を対象に講義を行っていただき、各部会の演習との流れをつなげた。
- 文部科学省が今年度作成する資料集等を研修の際に配付した。

次年度に向けて

- 受講生の演習時間の確保のため、初日に行っていた調査官の講義を最終日に一本化し、演習時間の確保を行う。
- 演習の進行状況が各部会によってまちまちであったため、演習の進行状況について内容を事前に明確にしておく。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度学校安全指導者養成研修 日程一覧

9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	13:30	14:15	14:30	15:15	16:00	16:15	17:00
		課題協議1		課題協議2		①	②	③	④	演習1	
		開講式		【全体会】 「学校安全の在り方及び研修の進め方について」		【全体会】 「生活安全・交通安全・災害安全の現状と課題、指導の展開のあり方について」	休憩	休憩	④	【部会別演習(2コース計4部会)】 「生活安全・交通安全・災害安全における課題に対応した指導方法」	
6月17日(水)	受付	文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 課長補佐 小林 洋介 テーマ 「学校安全の現状と課題」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 長岡 佳孝 テーマ 「学校安全の考え方と研修の進め方」	休憩 屋食	① 国立大学法人大阪教育大学 テーマ「学校における安全管理の考え方・進め方」 教授 藤田 大輔 ② 国立大学法人兵庫教育大学大学院 テーマ「防犯教育の進め方」 教授 西岡 伸紀 ③ 東北工業大学 テーマ「安全行動の形成のために～交通心理学の視点から～」 教授 小川 和久 ④ 国立大学法人上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也 テーマ「自然災害に関する防災・減災教育と学校教育」						【生活安全・交通安全コース】	【災害安全コース】
											【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会 上越教育大学 教授 藤岡 達也 神戸市教育委員会指導部指導課 指導主事 宮本 晃郎

9:00	12:00	13:00	14:30	14:45
			研究協議・演習	
			【全体会】 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 長岡 佳孝	閉講式
6月18日(木)	演習2 【部会別演習】 「生活安全・交通安全・災害安全における課題に対応した指導方法」 【生活安全・交通安全コース】	演習2(午前の続き) 【部会別演習】 「生活安全・交通安全・災害安全における課題に対応した指導方法」 【生活安全・交通安全コース】	①「事件・事故時の対応方法(危機管理マニュアルを含む)」部会 ②「防犯教育(防犯訓練を含む)の指導方法」部会 ③「交通安全における危険予測・危険回避能力を高めるための指導方法」部会 【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会	

9:00	11:00	11:20	12:00	13:00	13:40	14:30	14:45
			発表及び指導講評		発表及び指導講評		
			【全体会】 1. 各部会からの発表(各10分×4部会) 2. 各部会講師からの指導・講評(各10分×4部会)		【全体会】 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 長岡 佳孝		
6月19日(金)	発表 各コース・部会ごとに班ごとに発表	発表 【生活安全・交通安全コース】 「事件・事故時の対応方法(危機管理マニュアルを含む)」部会 ②「防犯教育(防犯訓練を含む)の進め方」部会 ③「交通安全における危険予測・危険回避能力を高めるための指導方法」部会 【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会	休憩 屋食				

I 研修概要

研修名	食育指導者養成研修（推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 イ 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ウ その他、上記ア、イに準ずる者							
開催期日	平成21年7月14日（火）～平成21年7月17日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	88	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 170 人、受講者数 179 人、参加率 105.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	72	15	0	0	1	0	88
割合(%)	81.8	17.0	0.0	0.0	1.1	0.0	
	87						
	98.9						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・それぞれの講義や演習など、とてもすばらしい講師の話の聞くことができ、ポイント毎に納得できるものでした。また演習ではグループ活動を通して、それぞれの力量を最大限に上げ、互いに磨き合え、支え合える関係をつくることができました。人とのつながりに感謝します。
- ・改めて「食育」について考えることができました。年間計画の大切さや連携の意味を改めて考えられました。演習においては、グループの方たちに指導案の考え方や流れの作り方、ねらいの考え方などを1つ1つ説明してもらいながら指導案を作ることができ、とても貴重な時間になりました。
- ・研修を受けた内容をよくかみくだいて、本市、本県の食育推進をどうアプローチしていかなければならないか、その構想を考えなくてはならないと思いました。内容はすばらしく意義ある研修でした。先生方同士の交流を図る場となり、他県の状況を知るよい機会となりました。
- ・普段、学ぶことができないような事がたくさんあり、情報交換もでき、食育を進めてゆく上でとても勉強になった。この研修がムダにならないように次に繋げていきたいと思う。
- ・「食育」の幅の広さと奥の深さがあり、学校での食育推進の重要性をあらためて感じました。また「食育」のとらえかたが千差万別であるからこそ、様々な観点からの指導ができようと思いました。
- ・自分の力不足であるところ、県内の食育関係者に欠けているところ、今後県下の食育推進を図るにあたり、自分がしなくてはならないことがわかりかけてきた。職場に帰り、4日間のことを整理しなおして体制を整え、今後に臨みたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・食に関する指導にかかる指導計画を検討する際に、学校だけに限らず、家庭へのアプローチ等についても理解が深まるよう配慮する。
- ・各教科等における食育について、学習指導要領の改訂の趣旨が横断的に理解できるよう配慮する。

次年度に向けて

- ・基本的には、今年度の内容をベースにしつつ、食に関する指導にかかる指導計画を検討する際に、学校だけに限らず、家庭へのアプローチ等についても理解が深まるよう工夫を図る。
- ・研修手法も修得できるよう配慮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 食育指導者養成研修（推進コース）

7月14日（火）	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「学校における食育の推進について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校給食調査官 田中延子	昼食	講義・演習1 「学校給食管理の重要性について」 高崎健康福祉大学 准教授 神戸美恵子	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかか る全体的な指導計画の作成について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也
会場 教員研修センター（つくば）								

7月15日（水）	8:30	9:40	9:50	11:10	11:20	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00
		受付	協議 「食育を推進するにあたっての現状と課題について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也	講義2 「新学習指導要領における食育の推進について」 文部科学省 和成 栄戸	昼食	講義3 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 生活、総合的な学習の時間 愛知教育大学 久野准教授 国立教育政策研究所 杉田調査官	休憩	講義・演習3 「給食の時間における食に関する指導の重要性について」 松江市立八雲小学校 栄養教師 長島美保子	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	
会場 教員研修センター（つくば）										

7月16日（木）	8:30			12:00	13:00					17:00
		受付		講義4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	昼食	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	休憩			
会場 教員研修センター（つくば）										

7月17日（金）	8:30			12:00	13:00	14:30				17:00
		受付	講義・演習5 「食に関する指導の模擬授業」 特別活動 生活、総合的な学習の時間 姫路市教育研究所 中島 管理指導主事 久畠米市教育委員会 秀島 指導主事	講義・演習6 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也	昼食	講義・演習6 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也	閉講式			
会場 教員研修センター（つくば）										

各教科等を担当する講師

特別活動
国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋
久畠米市教育委員会 指導主事 秀島 一生
生活、総合的な学習の時間
愛知教育大学 准教授 久野 弘幸
姫路市教育研究所 管理指導主事 中島 輝久
体育、保健体育
筑波大学大学院 野津 有司

I 研修概要

研修名	食育指導者養成研修（専門コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成21年9月15日（火）～平成21年9月18日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	91	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※全体計画人数 170 人、受講者数 179 人、参加率 105.3%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	83	7	0	0	1	0	91
割合(%)	91.2	7.7	0.0	0.0	1.1	0.0	
	90						
	98.9						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> この研修に参加して、自分自身の資質が高まったと同時に、これからも頑張らなければリーダーとして働きかけなければと痛感した。責任が重大であることもとても強く感じた。このような長い期間、勉強する機会がないので、この研修を受講できたことに県教委はじめ感謝したい。 レベルの高い内容で、ついていけるか心配だったが中身が濃く充実した研修を送ることができた。言葉一つ一つを大切に授業にのぞむ姿勢を学ぶことができた。達成感でいっぱいである。今後この研修内容を多くの人に伝えていきたい。 教科との関連を考えていく上での、教科の目指す所と食育をいかに結びつけていくかを自分がしっかり考えていき、指導に取り組みなければいけないことの重要性がわかりました。 講義、演習の進め方がどの講師の方々もとても上手ですばらしいと感じました。（時間配分や演習のもりこみ方など）、プレゼンも講師として講義する場合の参考にさせていただきます。 とても有意義な研修でした。校内研の機会などもありますが食のことを扱う機会はとても少なく、今回は食をテーマにまっしぐらに皆で研修をうけることができました。食育に中心的に取り組んでいるのは校内で1人。でも全国にはこんなにも仲間がいるのだということも感じ、深い研修とともにとても感動をしています。 最新の課題に則した内容を充実した講師で、食育のみならず教育界における喫緊の内容に触れることができました。 他県の方との情報交換ができたので良かった。講義と演習のドッキングが多かったので、内容も充実していると感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導にかかる指導計画を検討する際に、学校だけに限らず、家庭へのアプローチ等についても理解が深まるよう配慮する。 各教科等における食育について、学習指導要領の改訂の趣旨が横断的に理解できるよう配慮する。 個別指導のコマ等において、家庭での栄養バランスなど、質の向上が図られるよう工夫する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的には、今年度の内容をベースにしつつ、食に関する指導にかかる指導計画を検討する際に、学校だけに限らず、家庭へのアプローチ等についても理解が深まるよう工夫を図る。 研修手法も修得できるよう配慮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 食育指導者養成研修（専門コース）

9月15日（火）	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「栄養教諭に求められる役割について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査 田中延子	昼食	講義・演習1 「学校給食管理の在り方」 桐生大学医療保健学部 教授 笠原 賢子	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかるとして、全体的な指導計画の作成について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森 泉 哲 也	
会場 教員研修センター（つくば）								

9月16日（水）	8:30	9:40	9:50	11:10	11:20	12:10	13:10	13:50	14:00	16:10	16:20	17:00
	受付	講義・演習3 「給食の時間における食に関する指導の在り方」 高崎健康福祉大学 神戸 美恵子	休	協賛 「食育を推進するにあたっての現状と課題」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校給食調査官 田中延子	昼食	講義2 「新学習指導要領における食育の推進について」 国立教育政策研究所 田村 調査官	講義3 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 国立教育政策研究所 杉田 調査官	休	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導のポイント」 生活、総合的な学習の時間 国立教育政策研究所 田村 調査官	理科 国立教育政策研究所 村山 調査官	休	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 国立教育政策研究所 田村 調査官
会場 教員研修センター（つくば）												

9月17日（木）	8:30	12:00	13:00	17:00
	受付	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	昼食	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習
会場 教員研修センター（つくば）				

9月18日（金）	8:30	12:00	13:00	14:30
	受付	講義・演習6 「食に関する指導の模擬授業」 特別活動 宗像市立玄海東小学校 脇田 校長 生活、総合的な学習の時間 札幌市教育委員会 齋藤 指導主事 国立教育政策研究所 村山 調査官	昼食	講義・演習7 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森 泉 哲 也
会場 教員研修センター（つくば）				

各教科等を担当する講師

- 特別活動
国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋
宗像市立玄海東小学校校長 脇田 哲郎
生活、総合的な学習の時間
国立教育政策研究所 教育課程調査官 田村 学
札幌市教育委員会指導主事 齋藤 隆浩
理科
国立教育政策研究所 教育課程調査官 村山 哲哉
国立教育政策研究所 教育課程調査官 田代 直幸

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1：学校評価と学校運営）					
担当課グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月26日（月）～平成21年11月6日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	21 人	参加率	*
開催場所	ドイツ					

※全体計画人数 500人、受講者数 412人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	7	1	0	0	0	21
割合 (%)	61.9	33.3	4.8	0.0	0.0	0.0	
	20						
	95.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生の指導・助言を受けながら、効果的に研修を進めることができました。 ・学校や教育機関の取り組みを数多く見てくることができた。特に指導方法や生徒への対応などについて新しい発見があり、授業を見直すヒントとなった。 ・大変充実した研修となった。訪問先の対応も熱心、かつ丁寧でありがたかった。ただ、訪問スケジュールが密で忙しいものであったため、移動時間も含めもう少し余裕があるとよかった。 ・海外の教育事情や学校の取り組みを見聞できたことは、日本全体の教育や自分の教育観を見直す上で大変参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2：学校評価と学校運営）					
担当課グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月19日（月）～平成21年10月30日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	20 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	18	2	0	0	0	0	20
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生から有益な情報をたくさんいただき、大変有意義な研修とすることができました。 ・訪問地での移動が少なかったため、じっくり腰を落ち着けて研修できた。訪問国の教育事情や取り組みなど多くのことを学ぶことができた。 ・視察の目的にあった訪問先が選定されており、有意義な視察となった。日程上難しいかもしれないが、課題や問題を抱えている一般校も視察できるとなお良かった。 ・全国レベルで、学校や地方教育の指導行政に係わる者が、具体課題を媒体にして一同に会して研修を行なうことは有意義である。地方だけでは限界のあることが多いと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-3：学校評価と学校運営）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月5日（月）～平成21年10月16日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	15 人	参加率	*
開催場所	フィンランド					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	1	0	0	0	0	15
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・国の研修でなければ訪問できない教育機関や学校を視察し、様々な取り組みを見てくることができた。このことは、日本の教育を客観的に見ることができる良い機会となった。 ・大変有意義な研修であった。海外の教育現場を視察できたことは勿論であるが、全国の先生方と一緒に研修を行ったことに大きな意義を感じた。地方公務員である我々にとってこのような機会は大変貴重である。 ・シニアアドバイザーからの指導・助言は、研修内容を深める上で大変役立つものであり、ありがたかった。 ・どの時代にあっても、都道府県の境を越えて教師が研修することは大変意義のあることである。また、海外派遣研修は一地方公共団体では実現が極めて難しいと考えられる。この研修が存続していくことを節に望むものである。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-4：学校評価と学校運営）					
担当課グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年12月4日（金）～平成21年12月15日（火）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	23 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	18	4	1	0	0	0	23
割合 (%)	78.3	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	
	22	95.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生に大変助けられました。貴重な情報を多くいただき、充実した研修とすることができました。 ・教育機関や学校における数多くの取り組みを見ることができた。限られた期間の中での視察訪問ではあったが、大変有意義な研修となった。 ・子どもたちの教育には長い時間と指導者の熱意が欠かせません。指導者の見聞を広めること、謙虚に諸外国の教育の状況を絶えず取り入れることも必要だと思います。 ・海外の取り組み事例は参考となった。今後、学校などで実践にうつしていきたいと考えています。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1：キャリア教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月30日（月）～平成21年12月11日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500人、受講者数 412人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	4	0	0	0	0	16
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 充実した研修でした。教育機関や学校など数多くの視察訪問を通じて、訪問国における具体的な取り組みを知ることができた。 全国の先生方と共に、海外の様々な取り組みを知る貴重な研修であった。また、本テーマに関する他県の取り組みなどについて情報交換できたことも有意義であった。 研修を通じて、シニアアドバイザーからの指導・助言をいただくことにより、有意義な研修となった。 訪問国の教育を背景から感じ取ることができた。また、研修を通じて日本の教育を見直す良い機会となった。今後は、大きな視点で教育を考え子どもたちのために研鑽していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-2：キャリア教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月23日（月）～平成21年12月4日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	18 人	参加率	*
開催場所	カナダ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	11	6	1	0	0	0	18
割合 (%)	61.1	33.3	5.6	0.0	0.0	0.0	
	17						
	94.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの適切な指導・助言により大変有意義な研修となりました。カナダでは、大学の講義を受講したり、様々な校種の学校を訪問するなど、どの様な形で理論が実践されているかを学ぶことができました。大変参考になる研修でした。 ・個人では見ることができない各種学校現場を視察できたことは、大変貴重な経験となりました。教育活動の方法など、今回見聞したことを様々な機会に伝えていきたいと思えます。 ・他県の先生との交流・情報交換により、ネットワークを広げることができました。これからの教育活動に役立てていきたいと思えます。 ・十分な研修の重点化が図られた運営であり、効果的に研修ができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1：小学校英語）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月23日（月）～平成21年12月4日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	#VALUE!
開催場所	フィンランド					

※全体計画人数 500人、受講者数 412人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	3	0	0	0	0	16
割合 (%)	81.3	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生から詳細で丁寧な指導・助言をいただき、有意義な研修となりました。今後、研修で学んだことを職務に生かしていこうと思います。 ・訪問先との連絡・調整が良く行われており、派遣先のコーディネーターの方もすばらしく、とても充実した研修となりました。 ・教育機関や学校への訪問で、具体的な取り組みを確認することができた。個人ではぜったい見ることのできないものばかりあり、本当に有意義なものでした。 ・貴重な機会を与えていただき、本当に有難かった。今回の研修で学んだ訪問国の取り組みなどについて、これからの活動に生かしていきたいと思っています。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2：小学校英語）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月23日（月）～平成21年12月4日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	15 人	参加率	*
開催場所	フランス					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	3	0	0	0	0	15
割合 (%)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生の指導を受けながら訪問先の取り組みを確認できる研修であり、内容も充実したものでした。 ・大変有意義な研修でした。海外の様々な取り組みを知ることで、今までとは違った視点で今後の教育活動に取り組むことができると思います。 ・多くの訪問先を視察することができた。研修のまとめの時間やその日のミーティングの時間が確保できると、さらに理解を深めることができると思われた。 ・事後研修会では研修成果活用の具体的な方法や内容について、いろいろな考えを出し合うことができよかったです。自分自身の実践に生かしていきたいと思います。 ・他県の多くの先生方と研修を進めることで、テーマに関して多くの情報交換ができたことも貴重な経験となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1：国語力・読解力）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月26日（月）～平成21年11月6日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	オーストラリア					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	2	0	0	0	0	16
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの適切なお助言により、明確な課題をもって研修に臨むことができた。 ・訪問国の教育機関や学校への視察は、数多くの取り組み事例を見ることができるものであり、大変勉強になりました。 ・日本の教育にすぐに取り入れられることや取り入れられないことなど様々あったが、今後の教育実践に大きな示唆をもらったと考えている。 ・とても有意義な研修ができました。他県の先生方とのつながりができたことも大きな収穫です。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-2：国語力・読解力）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月21日（水）～平成21年11月1日（日）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	#VALUE!
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	2	0	0	0	0	16
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生のリードが本当に適切で、研修の目的や研修内容についての導きがありました。大変充実した研修でした。 ・訪問国の学校や教育機関の教育事情を直接見聞することで、視野を広げることができました。大変貴重な経験でした。今後、学校などで活用していきたいと考えています。 ・教育委員会や学校など数多くの視察訪問で、それぞれの実態、取り組みを見ることができ勉強となりました。 ・海外研修では、調査事項や新たな疑問の整理などため、協議の時間がもう少しあると良いと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-3：国語力・読解力）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月23日（月）～平成21年12月4日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	15 人	参加率	#VALUE!
開催場所	ニュージーランド					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	2	0	0	0	0	15
割合 (%)	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・複数の学校や図書館を視察ができ、効果的に研修を進めることができた。また、それぞれの訪問先で質問時間が十分あり深まりのある調査ができた。 ・訪問国の具体的な取り組みを視察すると共に、教育関係者と意見交換をすることができたことは、今後、教育活動を進めていく上で、大変貴重な経験であった。 ・シニアアドバイザーの先生の指導・助言は、海外研修を進める上で大変参考となるものであった。 ・大変有意義で内容の濃い研修でした。研修で学んだこと全てがこれからの教員生活に役立つと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1：伝統・文化の教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月2日（月）～平成21年11月13日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	20 人	参加率	*
開催場所	イギリス					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	1	0	0	0	0	20
割合 (%)	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生の丁寧な指導に感謝しています。適切な指導・助言により効果的に研修を進めることができました。 ・視察訪問で様々な取り組みを見ることができた。ただ、都市部の外、地方の学校の状況や公立学校等の違いなどについても調査できるとよかった。 ・校種や立場の違う方々との研修は、とても刺激を受けることができました。また、内容の濃い、とても充実した研修でした。 ・日本国内だけではなく、諸外国の教育の実情を知ることが、各々の課題が明らかになるだけではなく、日本の教育の良さを確認し、一方で今後の方向性を見出すことにもつながる。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-2：伝統・文化の教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月20日（金）～平成21年11月30日（月）				11日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	韓国					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	2	0	0	0	0	16
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生から、適宜指導・助言をいただくことができ研修が深まった。 ・喫緊の課題について、海外の現状を視察できることは、視野を広げ学校現場での取り組みを考えていく上で、とても有意義な研修だと思います。 ・全国の小・中・高・特別支援学校の先生方が参加しており、情報交換を通じて日本の各地区の伝統・文化の違いや共通点も含めて確認することができた。 ・大変充実した研修でした。今後、研修で学んだ取り組み事例などを広く地域や学校で活用していきたいと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-1：心身の健康教育）					
担当課グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月4日（水）～平成21年11月15日（日）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	0	0	0	0	0	16
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生の助言や指導が大いに役立った。丁寧に指導していただき、海外での研修を効果的に進めることができた。 ・視察訪問を通じて多くの先進的取り組みを知ることができました。私たち教員にとって、今後教育活動を進めていく上で参考となるものでした。 ・訪問先の受け入れ体制がよく整っていて、有意義な研修ができました。 ・今回の研修を通じて、全国の先生方と意見交換をし、交流を深められたことも貴重な経験となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-2：心身の健康教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月11日（日）～平成21年10月22日（木）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	22 人	参加率	*
開催場所	イギリス					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	3	0	0	0	0	22
割合 (%)	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	22	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 充実した研修内容で数多くの取り組みを見てくることができた。特に共通課題を持ちグループとして研修できることが効果的である。 テーマに関することのみならず海外の教育事情を知ることで、今までとは違った視点から日本の教育を見つめ直す良い機会となった。大変有意義な研修でした。 「我以外、皆我師也」のことわざ通り、見るもの・聞くもの・出会うもの、全てから刺激を受け、振り返り、学ぶことができた貴重な研修でした。 シニアアドバイザーの先生の適切な指導・助言により、研修がより深まった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-1：生徒指導・在り方生き方の指導）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年12月4日（金）～平成21年12月13日（日）				10日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	イギリス					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	10	6	0	0	0	0	16
割合 (%)	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの指導・助言の下、視察訪問を通じて「市民教育」という視点から「在り方や生き方」を捉え直し、イギリスと日本を比較しながら研修を深めることができた。 ・多くの訪問先で調査・研究を行うことができた。ただ、訪問国の学校教育事情を把握するために、学校現場への訪問数が増やせるとより良かった。 ・参加した他のメンバーといろいろな課題について話し合うことができました。研修を通じて知り合えた仲間は一番の財産だと思います。 ・視野を広げ、現場に生きる活動をするうえで、大変貴重な経験であった。研修の機会を与えていただき感謝しています。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-2：生徒指導・在り方生き方の指導）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月5日（月）～平成21年10月16日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	20 人	参加率	*
開催場所	ドイツ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	7	0	0	0	0	20
割合 (%)	65.0	35.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生の講義やご助言により、効果的に調査・研究を進めることができた。大変有意義な研修となりました。 ・訪問先大学での教授の講義は、研修を深める上で有効であった。また、研修を通じて様々な取り組みを見聞できたことは、今後、学校教育を行う上で大変参考になった。 ・訪問国の教育事情や取り組みを知り日本と比較することは、日本の教育について考える良い機会となった。 ・他府県・他校種の先生方との交流・情報交換ができたことは貴重な体験であった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1：学校と地域等との連携）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月29日（日）～平成21年12月9日（水）				11日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	0	0	0	0	0	16
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 団長・副団長・シニアアドバイザーの先生からの適切な指導・ご助言により、有意義な研修となった。 ・ 訪問先は種類・数ともに充分であり、質疑応答や意見交換などを通じて、スムーズに調査を進めることができた。 ・ 海外の教育事情を知ることができ、日本の教育をグローバルな目で見れるようになりました。 ・ 訪問先の機関は親切に受け入れてくれました。事前の準備・打ち合わせがしっかりできていたからだと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・ 事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・ 参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-2：学校と地域等との連携）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年9月28日（月）～平成21年10月9日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	16 人	参加率	*
開催場所	カナダ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	11	4	1	0	0	0	16
割合 (%)	68.8	25.0	6.3	0.0	0.0	0.0	
	15	93.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生から、事前研修会や海外派遣研修の際にとっても丁寧に指導いただき、いい学びができました。 ・訪問国の教育事情や多くの取り組みを知ることで、日本の教育を見つめられたことに大きな成果を感じています。 ・海外の教育事情について、実情を把握することができる有意義な研修でした。 ・参加した他県の先生方と、テーマに関する様々な意見交換をすることができたことも貴重な体験でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1：理数系教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月13日（金）～平成21年11月23日（月）				11日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	14 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	8	5	1	0	0	0	14
割合 (%)	57.1	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	
	13	92.9					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生の詳細な情報提供や指導・助言により、有意義な実りある研修とすることができました。 ・限られた期間の中で、効果的に訪問国の教育事情や様々な取り組みなどについて学ぶことができた。 ・訪問国の教育事情や様々な取り組みを、現地に行き直接見聞する中で、日本の教育に活用していける事例を発見することができた。 ・全国の先生方と研修することで、各地域の課題や取り組みについても情報を得ることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2：理数系教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月26日（木）～平成21年12月7日（月）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	18 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	17	1	0	0	0	0	18
割合 (%)	94.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生と訪問先との綿密な連絡・調整が行われた訪問計画であったため、系統的でスムーズな学校訪問を行うことができた。効果的に研修を進めることができた。 ・大変充実した研修であった。特に、様々な校種の学校を訪問できたことは、今後の教育実践に大変参考になるものであった。 ・12日間の研修でしたが、大変中味の濃い充実したものになりました。今後、今回の研修で得たものを、教育課題の解決に生かしていけるよう努めたい。 ・共通のテーマについて、全国の先生方と様々な視点から意見交換できたことはとても意義深いものとなりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-3：理数系教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月30日（月）～平成21年12月11日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	15 人	参加率	*
開催場所	アメリカ					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	1	0	0	0	0	15
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先との連絡・調整、関係資料の手配など、シニア・アドバイザーの先生のご指導のお陰で、円滑に研修を進めることができました。 ・訪問国の教育システムを知ることで、改めて日本の教育を確認することができた。大変有意義な研修であった。 ・教育委員会や学校など、視察訪問を通じて数多くの取り組みを見てくることができました。学校での実践に大変参考となるものでした。 ・団員間で相互に連絡を取り合いながら、海外の研修計画を作成し調査事項などを共有して海外研修に臨んだため、全員が満足感をもって研修を終えることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-1：特別支援教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年11月2日（月）～平成21年11月13日（金）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	17 人	参加率	*
開催場所	イギリス					

※全体計画人数 500人、受講者数 412人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	3	0	0	0	0	17
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 一つの都市に滞在した視察訪問であったため、効率的に多くの学校や教育機関を訪問することができた。また、同一地区の様々な学校訪問を行った後、当該教育局で視察訪問のまとめの場を設定していただいたことにより、研修がより深まったと思う。 シニアアドバイザーからの講義や指導・助言並びに資料提供は、海外での研修や帰国後に研修内容をまとめる上で大変参考になるものでした。 研修を通じ他県の先生たちと交流・情報交換することで、学校の課題や対応など、今後の参考となる情報を得ることができた。今後もこのネットワークを広げていきたい。 海外研修を通して、日本の教育や学校現場の教育について、改めて見直す良い機会となりました。今後、この研修で学んだことを校内での啓発などに生かしていきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-2：特別支援教育）					
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者					
開催期日	平成21年10月21日（水）～平成21年11月1日（日）				12日間	
受講人数	計画人数	* 人	受講者数	15 人	参加率	*
開催場所	フィンランド					

※全体計画人数 500 人、受講者数 412 人、参加率 82.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	15	0	0	0	0	0	15
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの指導・助言は、課題を共有化し研修情報を整理する上で大変有効であり、効果的に研修を進めることができた。 ・訪問国の教育制度を知り、学校での実践を視察することにより、訪問国の課題解決に向けた具体的な取り組みを知ることができた。また、日本の教育や現任校の実践を振り返り、良さや課題を見つけ出すことができる良い機会となった。 ・訪問先の受入れ態勢もよく、数多くの取り組みを見ることができた。 ・研修を通して全国の先生方と交流・意見交換できたことも貴重な経験となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・事前研修会及び事後研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう、事前研修会の研修日程を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

平成21年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム

研修テーマ	派遣団名	人数	派遣国	派遣期間	日数	事前研修	事後研修
学校評価と 学校運営 (4団)	A-1	21	ドイツ	10/26 ~ 11/6	12	7/30. 31 東京	2/4. 5 つくば
	A-2	20	アメリカ	10/19 ~ 10/30	12	8/6. 7 名古屋	1/28. 29 名古屋
	A-3	15	フィンランド	10/5 ~ 10/16	12	8/6. 7 福岡	1/21. 22 福岡
	A-4	23	アメリカ	12/4 ~ 12/15	12	8/27 愛媛	2/19 愛媛
キャリア教育 (2団)	B-1	16	アメリカ	11/30 ~ 12/11	12	7/30. 31 東京	2/1. 2 つくば
	B-2	18	カナダ	11/23 ~ 12/4	12	8/20. 21 名古屋	1/21. 22 福岡
小学校英語 (2団)	C-1	16	フィンランド	11/23 ~ 12/4	12	7/30. 31 東京	1/25. 26 東京
	C-2	15	フランス	11/23 ~ 12/4	12	8/6. 7 福岡	1/18. 19 福岡
国語力・読解力 (3団)	D-1	16	オーストラリア	10/26 ~ 11/6	12	8/20. 21 東京	2/1. 2 つくば
	D-2	16	アメリカ	10/21 ~ 11/1	12	8/20. 21 名古屋	1/28. 29 名古屋
	D-3	15	ニュージーランド	11/23 ~ 12/4	12	7/27. 28 東京	2/8. 9 つくば
伝統・文化の教育 (2団)	E-1	20	イギリス	11/2 ~ 11/13	12	7/30. 31 東京	2/4. 5 つくば
	E-2	16	韓国	11/20 ~ 11/30	11	8/6. 7 福岡	1/21. 22 福岡
心身の健康教育 (2団)	F-1	16	アメリカ	11/4 ~ 11/15	12	7/30. 31 東京	2/4. 5 つくば
	F-2	22	イギリス	10/11 ~ 10/22	12	7/30. 31 東京	2/8. 9 つくば
生徒指導・在り方 生き方の指導 (2団)	G-1	16	イギリス	12/4 ~ 12/13	10	7/30. 31 東京	2/8. 9 つくば
	G-2	20	ドイツ	10/5 ~ 10/16	12	8/20. 21 名古屋	1/26. 2 名古屋
学校と地域等との 連携 (2団)	H-1	16	アメリカ	11/29 ~ 12/9	11	7/30. 31 東京	2/1. 2 つくば
	H-2	16	カナダ	9/28 ~ 10/9	12	8/20. 21	1/25. 26 名古屋
理数系教育 (3団)	I-1	14	アメリカ	11/13 ~ 11/23	11	7/30. 31 東京	2/8. 9 つくば
	I-2	18	アメリカ	11/26 ~ 12/7	12	7/30. 31 東京	2/1. 2 つくば
	I-3	15	アメリカ	11/30 ~ 12/11	12	7/30. 31 東京	1/28. 29 名古屋
特別支援教育 (2団)	J-1	17	イギリス	11/2 ~ 11/13	12	8/20. 21 東京	2/15. 16 つくば
	J-2	15	フィンランド	10/21 ~ 11/1	12	8/6. 7 名古屋	1/28. 29名 古屋

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。								
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。								
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）			日間					
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	61	人	参加率	61.0%	
開 催 場 所	独立行政法人 農業環境技術研究所ほか（次ページのとおり）								

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	53	7	0	0	0	1	61
割合 (%)	86.9	11.5	0.0	0.0	0.0	1.6	
	60						
	98.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識が深まり、今後の高校現場での教科指導でより奥行きのある授業が展開することができると思う。 ・教科書でも紹介されている先端技術は、今回のような長期間の研修でなければ使用できなかった。今後の教科指導に充分役に立つと考えられる。 ・工学部へ進学を希望する生徒に対して、具体的な指導やアドバイスができる。 ・小・中・高の各校種の様子を聞く機会となったことや、他校種の授業を参観する機会があったことなど、校種間の系統性を考えながら、授業について考えることができ、教材研究にも活かせる。 ・大学及び企業とのつながりができたので、産学官の連携による研究や交流ができると思う。 ・普段の学校生活の中では、日々の職務の忙しさにまぎれてしまって、できないようなこと、考えられないようなことまで十分に研修でき、間違いなく今後の役に立ちます。 ・教員の資質向上のための素晴らしい制度だと感じました。 ・多くの先生方がこの制度を活用されることで、学校教育は更に指導力が強化されることと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		
			所 属		派遣先	派遣時期	期間
1	青森県	1	青森県立久井農業高等学校		独立行政法人 農業環境技術研究所	H21. 8. 1 ~ H21. 10. 31	3ヶ月
2	秋田県	2	潟上市立天王中学校		国立大学法人 秋田大学	H21. 5. 1 ~ H21. 7. 31	3ヶ月
3			大仙市立神宮寺小学校		国立大学法人 秋田大学	H21. 7. 1 ~ H21. 12. 31	6ヶ月
4	福島県	2	福島県立喜多方高等学校		国立大学法人 福島大学	H21. 7. 1 ~ H21. 9. 30	3ヶ月
5			福島県立浪江高等学校津島校		国立大学法人 福島大学	H21. 7. 1 ~ H21. 9. 30	3ヶ月
6	栃木県	11	栃木市立栃木第三小学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
7			上三川町立上三川中学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
8			西方町立西方中学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
9			那須町立黒田原小学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
10			岩舟町立岩舟中学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 10. 1 ~ H22. 3. 31	6ヶ月
11			宇都宮市立一条中学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 10. 1 ~ H22. 3. 31	6ヶ月
12			下野市立国分寺小学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 10. 1 ~ H22. 3. 31	6ヶ月
13			小山市立大谷南小学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 10. 1 ~ H22. 3. 31	6ヶ月
14			栃木県立今市高等学校		国立大学法人 宇都宮大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
15			栃木県立栃木商業高等学校		大原簿記学校 東京水道橋校	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
16			栃木県立足利清風高等学校		大原簿記専門学校 大宮校	H21. 10. 1 ~ H22. 3. 31	6ヶ月
17	群馬県	1	群馬県立安中総合学園高等学校		群馬社会福祉大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
18	神奈川県	4	三浦市立南下浦中学校		国立大学法人 横浜国立大学	H21. 7. 4 ~ H21. 9. 26	3ヶ月
19			神奈川県立舞岡高等学校		国立大学法人 横浜国立大学	H21. 7. 4 ~ H21. 9. 26	3ヶ月
20			神奈川県立横須賀工業高等学校		国立大学法人 横浜国立大学	H21. 7. 4 ~ H21. 9. 26	3ヶ月
21			神奈川県立相模田名高等学校		国立大学法人 横浜国立大学	H21. 7. 4 ~ H21. 9. 26	3ヶ月
22	石川県	1	石川県立小松商業高等学校		金沢星稷大学	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
23	長野県	2	長野県岡谷工業高等学校		国立大学法人 信州大学	H21. 5. 1 ~ H22. 3. 31	11ヶ月
24			長野県松本工業高等学校		国立大学法人 信州大学	H21. 6. 1 ~ H21. 9. 30	4ヶ月
25	愛知県	5	愛知県立東海商業高等学校		UNCRD (国際連合地域開発センター)	H21. 4. 20 ~ H21. 7. 19	3ヶ月
26			愛知県立安城農林高等学校		国立大学法人 名古屋大学大学院	H21. 8. 1 ~ H21. 10. 31	3ヶ月
27			愛知県立豊田西高等学校		大学共同利用機関法人 自然科学研究機構	H21. 4. 1 ~ H21. 9. 30	6ヶ月
28			愛知県立岡崎工業高等学校		国立大学法人 豊橋技術科学大学	H21. 8. 1 ~ H21. 10. 31	3ヶ月
29			愛知県立大府高等学校		学校法人 中西学園 名古屋ファッション専門学校	H21. 9. 14 ~ H21. 12. 11	3ヶ月
30	京都府	1	京都府立洛北高等学校		国立大学法人 京都大学大学院	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
31	大阪府	1	大阪府立成城高等学校Ⅲ部		大阪市立大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
32	和歌山県	1	和歌山県立和歌山工業高等学校		国立大学法人 和歌山大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
33	島根県	2	島根県立益田翔陽高等学校		社団法人 吉賀町農業公社	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
34			島根県立松江商業高等学校		島根大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
35	岡山県	2	岡山県立瀬戸南高等学校		国立大学法人 岡山大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
36			岡山県立岡山東商業高等学校		国立大学法人 岡山大学	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月
37	山口県	4	美祢市立秋芳南中学校		国立大学法人山口大学	H21. 11. 1 ~ H22. 1. 31	3ヶ月
38			下関市立山の田中学校		山口県立農業大学校	H21. 5. 1 ~ H21. 7. 31	3ヶ月
39			山口県立下関南高等学校		国立大学法人山口大学	H21. 9. 1 ~ H21. 11. 30	3ヶ月
40			山口県立宇部工業高等学校		国立大学法人山口大学	H21. 11. 1 ~ H22. 1. 31	3ヶ月
41	徳島県	1	徳島県立小松島西高等学校		学校法人平成学園 平成調理師専門学校	H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31	12ヶ月

No	都道府県	派遣 人数	派遣元		派遣先		
			所	属	派遣先	派遣時期	期間
42	高知県	3	高知県立須崎工業高等学校		高知県工業技術センター	H21.4.1 ~ H21.9.30	6ヶ月
43			高知県立高知工業高等学校（定時制）		高知工科大学	H21.4.1 ~ H21.9.30	6ヶ月
44			高知県立高知農業高等学校		高知大学	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
45	福岡県	2	福岡県立香椎高等学校		公立大学法人福岡女子大学	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
46			福岡県立須恵高等学校		国立大学法人 福岡教育大学	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
47	佐賀県	6	佐賀県立伊万里商業高等学校		大原簿記情報専門学校福岡校	H21.4.1 ~ H21.9.30	6ヶ月
48			佐賀県立佐賀商業高等学校		特定非営利法人 鳳雛塾	H21.10.1 ~ H22.3.31	6ヶ月
49			佐賀県立佐賀農業高等学校		佐賀県上場営農センター	H21.7.1 ~ H21.12.31	6ヶ月
50			佐賀県立牛津高等学校		緑ドレスメーカー服飾専門学校	H21.4.1 ~ H21.9.30	6ヶ月
51			佐賀県立牛津高等学校		学校法人 永原学園 西九州大学短期大学部	H21.10.1 ~ H22.3.31	6ヶ月
52			佐賀県立金立養護学校		中村調理製菓専門学校	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
53	熊本県	3	熊本県立南稜高等学校		熊本県産業技術センター	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
54			熊本県立球磨工業高等学校		熊本県立技術短期大学校	H21.4.1 ~ H21.9.30	6ヶ月
55			熊本県立翔陽高等学校		熊本電子ビジネス専門学校	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
56	大分県	1	別府市立朝日中学校		国立大学法人 大分大学	H21.4.1 ~ H22.3.31	12ヶ月
57	宮崎県	1	宮崎県立日向工業高等学校		国立大学法人 宮崎大学	H21.10.1 ~ H21.12.28	3ヶ月
58	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校		北海道大学	H21.5.1 ~ H21.12.31	8ヶ月
59	横浜市	3	横浜市立仲尾台中学校		横浜国立大学	H21.7.4 ~ H21.9.26	3ヶ月
60			横浜市立美しが丘東小学校		横浜国立大学	H21.7.4 ~ H21.9.26	3ヶ月
61			横浜市立鶴ヶ峯中学校		横浜国立大学	H21.7.4 ~ H21.9.26	3ヶ月
合計		61					

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-1） 「生物活用に関する講義と実習」					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開催期日	平成21年8月3日（月）～平成21年8月7日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	25人	受講者数	12人	参加率	48.0%
開催場所	三島市民文化会館（静岡県三島市）					

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	0	0	0	0	0	12
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	12	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・この研修に参加するまで「生物活用」の狙いが不透明でしたが、現場に戻り、自信を持ち、生物活用という科目を子供達に伝える事ができると確信できます。 ・グリーンライフや生物活用の授業展開や実習内容について、知ることができてよかった。学校の状況（専門、総合）によって、取り組める内容は違うと思うが、今担当している科目の中で地域交流等についても考えていきたい。 ・少子高齢化や地方の中山間地の様々な問題に対する町づくりに、大変参考となる内容でした。 ・研修の内容が講義、演習、実習と様々で、大変有意義でした。実習に行ったことで、実際に学校に戻ってからの活用がイメージでき、プログラミング演習をした事で、改めて授業への熱意がわいた気がします。 ・学校で1人2人で悩んでいた事が、他県の先生と話し合う事で、頑張ってみようという気持ちになりました。ありがとうございました。 ・講義だけでなく、実習があり、良い体験ができた。もっと実習や現地（講義者）での講義があると良いと思った。 ・長期の出張であり、交通機関、宿泊先の予約を早くしたかったが、決定、依頼文書、日程、宿泊先の有無など、情報がとどかず、また、提出書類の期限がわからない等、手続きの面とまどった。早めに情報が欲しいと思うので、改善をお願いしたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

貴団体名 全国農業高等学校長協会

(農業, A-1)

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月 3日 (月)	受付：集合	開講式 オリエンテーション	生物活用・グリーンライフの意義と動向 講 1	昼休み	昼休み	自己紹介・交流プログラム紹介 研究協議 2.5	事例発表 尾瀬高校自然環境科の取り組み 講 1.5	諸連絡	
4日 (火)	講義 園芸の特質と活用 講 1	交流活動の進め方・演習 (活動開拓・目標設定・準備実施・反省) 講 1・演 1	昼休み	昼休み	生徒の評価・観点別評価 演 1	講義と演習 フアシリテーション法とは 講 2	インタープリテーション法 講 1	諸連絡	
5日 (水)	幼児・児童との園芸活動 講 1.5	高齢者・障害者を行う園芸 講 1.5	昼休み	昼休み	グリーンライフの実際 講 1.5	プログラム設定 演 1.5	生物活用グリーンライフ評価の具体例 講 1	諸連絡	
6日 (木)	交流プログラムのコミュニケーション 講 1	高齢者に対する園芸実習 実 2 田方農業	昼休み	昼休み	幼児・児童に対する園芸実習 実 2 田方農業	プログラムミニング演習② 活動と評価 演 2	諸連絡		
7日 (金)	生物活用・新しい授業展開の可能性 実 2	閉講式							

実施会場：三島市民文化会館・田方農業高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-2） 「動物・微生物バイオテクノロジーに関する講義と実習」								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開 催 期 日	平成21年7月27日（月）～平成21年7月31日（金）			5日間					
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	10	人	参加率	40.0%	
開 催 場 所	農林水産省農林水産技術会議事務局筑波農林交流センター（茨城県つくば市）								

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	9	1	0	0	0	0	10
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修本体について大学時代に学ぶことができなかった分野だったので、改めて現在の先端分野を学べ、また器具・器材・機器等について知ることができ、有意義であった。
- ・研修環境について、他校の取り組みや他県の実状などを交流を通して知ることができた。
- ・環境や食の安全等について、学校に戻って伝達したいと思う。DNA・遺伝子組換え・PCR・電気泳動は講義と実習が大変分かりやすかった。
- ・1週間とても楽しかったです。「何故この実験が教科書にのっているのか。」その理由が少しは分かった気がします。
- ・添野先生の指導要領の話の中で、新しくスタートする本校食品化学科のカリキュラム検討の参考になると思いました。
- ・普段は学校内のことにお任せ、自ら学ぶこともできず、焦りを感じながら授業をしていますが、こうして少しずつ自信をつけてもらえる機械を与えてもらえると、少しは楽しく教えられそうです。
- ・高校にはPCRはじめ、今回使用した機器は導入されていないため、すぐに授業へ導入ということはいかないと思いますが、キッドを使用した実験は手軽にできるかと感じました。
- ・一生に1回は行きたいと思っていた。学習指導要領について学校とともに学習していきたい。「カルタヘナ法」について、この夏しっかりと勉強・学習していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(農業 A-2)

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名 全国農業高等学校長協会

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	備考
7月27日 (月)			受付 島津理 化 農業高 等学校 長協会 0.5h	昼休み		講義1 明治大学 農学部 農芸化学科 教授 中島 春栄 2h	バイオテクノロジーに関する講義 講義2 前橋工科大学 工学部 生物工学科 教授 藤井 智幸 2h		①講義	
			実習1			実習2	講義4			①講義・実習指導 (株)ブルックス 食品安 全分析センター 石川
7月28日 (火)		DNA抽出 1h	DNA抽出 2h	昼休み		遺伝子組換え 前処理(培地作製)	PCR 2.5h	PCR 1.5h		①講義・実習指導 (株)ブルックス 食品安 全分析センター 石川
			講義5			実習3	講義6			①講義・実習指導 (株)ブルックス 食品安 全分析センター 石川
7月29日 (水)				昼休み		遺伝子組換え	2.5h	電気泳動 1.5h		
						実習4	考察2	実習6		①講義・実習指導 (株)ブルックス 食品安 全分析センター 石川 ②実習6 は考察含む
7月30日 (木)				昼休み		電気泳動 1h	PCR 1h	PCR 1h		
						考察1	実習5	考察2	実習6	
7月31日 (金)				昼休み		情報交換会 講演:文部科学省 初等中等教育局 参事官付教科調査官 添野龍雄先生 1h	質疑応答 情報交換会 1h			
						実習4 電気泳動 3h	講義7			
		実験ほ場 リサーチギャラリー				閉講式				

研修実施場所: 農林水産省 農林水産技術会議事務局 筑波農林交流センター

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B-1） 「先端ロボット技術について」					
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開催期日	平成21年8月3日（月）～平成21年8月6日（木）	4日間				
受講人数	計画人数	20人	受講者数	26人	参加率	130.0%
開催場所	富士ソフトアキバプラザ（東京都千代田区）					

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	17	8	0	0	1	0	26
割合 (%)	65.4	30.8	0.0	0.0	3.8	0.0	
	25	96.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・熱意なご講義ありがとうございました。ロボットの最先端技術を研修でき、又、実際ロボットを見せていただくことができ、実のあるものとなったと思います。 ・4日間があつという間に感じるほど、大変有意義な研修でした。全国の教員との意見交換もできて、良かったです。 ・工業高校や中学・技術の授業に教材として導入してみたいと思った。カリキュラムの立案、研修体制、そして何よりも費用の面で課題が山積であるが、今後も研修を続けていきたいと考えている。 ・先端技術を見て触れることによって、工業教育の進む方向を確認することができ、今後に生かすことができる。 ・実際にロボットを製作されている企業の研究者の生の声、現状を聴くことができ、とても有意義な研修でした。 ・事前予習が必要と感じた。メーカーのテキストであればダウンロードし、教材の把握をした方がスムーズに取り組むことができたと感じます。 ・単なるロボット組立てだけではなく、基礎的な理論、シュミレーション、書籍の紹介があり、今後の授業に生かせる内容でした。 ・今回の研修は、演習の時間が比較的長く取れたので、生徒に指導する際に注意しなければならないことなど、実際に体験できてよかったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(工業, B-1)

貴団体名 富士ソフト株式会社

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月3日 (月)					受付	開校式	(講演) 文部科学省 池守調査官	(講義) ヒューマノイド ロボット	
8月4日 (火)	(講義/実習) ロボット歩行技術 (実習準備・環境整備)			昼休み	(講義/実習) ロボット歩行技術 (視覚能力概要、センサー制御実習)				
8月5日 (水)	(講義/実習) ロボット歩行技術 (ロボット視覚・聴覚技術)			昼休み	(講義/実習) ロボット歩行技術 (ロボット音声合成・音声認識技術)				
8月6日 (木)	(見学) ワトチェ開発現場視察		閉校式						

研修実施場所： 富士ソフトアキバプラザ

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B-2） 「工業における知財教育の在り方」								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開 催 期 日	平成21年8月17日（月）～平成21年8月21日（金）			5日間					
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	16	人	参加率	64.0%	
開 催 場 所	独立行政法人工業所有権情報・研修館研修教室（東京都千代田区）								

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	2	0	0	0	0	16
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・なるべくさけて通っていた知的財産教育の必要性やその重要性に気づかれました。また標準テキストの有効な活用方法についてもご説明いただき、今後、学校でも活用したいと思います。 ・本校の教育課程の中には知的財産に関する科目はありませんが、現在、自分の担当する授業の中で触れることで、少しでもそれに関する知識やマインドを育てようと思いました。 ・すべての内容はとても有意義なものだと思いますが、内容をさらに精選することで、各研修者の中に残るものが多くなると思います。 ・実験協力校として取り組んできたが、全体的な学習をしてきたことがなかったもので、今回全般的に学習できて、大変有意義でした。 ・“基礎知識→IPDL検索実習→見学→実践法”というように、基礎から実践まで流れ良く学ぶことができました。講師の先生方、運営スタッフの皆様には感謝です。 ・IPDLの実技を増やし、もう少し学びたかった。10日間ぐらいの研修でも良いと思う。（もっと学びたい気持ちになりました） ・内容の中には、かなり専門的でもすれば深すぎるものもあるように思われる。もう少し浅い部分で対応すれば5日間もいらぬのではないだろうか。 ・ゴム動力の自動車の製作や、指導案の作成など、具体的な演習の機会を増やしていただければ幸いです。5日、ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修(工業:B-2)日程表

月日	時間	研修科目	時間数	講師		研修会場	
	開始～終了			役職	氏名		
8/17 (月)	10:00～10:20	開講式 オリエンテーション	1	文部科学省初等中等教育局参事官 付 教科調査官 (独)工業所有権情報・研修館 人材 開発統括監	池守滋	806号室 (経産省 別館8階)	
	10:30～11:20	高等学校における知財教育			井上正		
	11:30～12:20	特許法の概要	3	辻田特許事務所 弁理士	辻田幸史		
	13:20～14:10						
	14:20～15:10						
	15:20～16:10	意匠法・商標法の概要	3	東京理科大学専門職大学院 准教授	鈴木公明		
	16:20～17:10						
	17:20～18:10						
18:30～20:00	懇親会						
8/18 (火)	9:30～10:20	著作権法の概要	3	東海大学法科大学院 教授	角田政芳	KTP代々 木ビジネスセ ンター (1号館 PCルーム)	
	10:30～11:20						
	11:30～12:20						
	13:20～14:10	不正競争防止法の概要	3	経済産業省 経済産業政策局知的 財産政策室 経済産業政策専門官	真保洋		
	14:20～15:10						
	15:20～16:10						
16:20～17:10							
8/19 (水)	9:30～10:20	IPDL検索演習	8	東北大学大学院法学研究科 准教授	杉江渉	KTP代々 木ビジネスセ ンター (1号館 PCルーム)	
	10:30～11:20						
	11:30～12:20						
	13:20～14:10						
	14:20～15:10						
	15:20～16:10						
	16:20～17:10						
8/20 (木)	9:30～10:20	特許庁見学	3			特許庁	
	10:30～11:20						
	11:30～12:20						
	13:20～14:10	知財教育ツールの紹介	2	大阪府立三島高等学校 教頭	調整中	104号室 (経産省 別館1階)	
	14:20～15:10						
	15:20～16:10	知財教育の実施例	2	東海大学付属仰星高等学校・中等部 高校教務主任	宇都口英樹		
16:20～17:10							
8/21 (金)	9:30～10:20	知財カリキュラム設計について	3	鹿児島県教育庁 高校教育課産業教育係長	満丸浩		108号室 (経産省 別館1階)
	10:30～11:20						
	11:30～12:20						
	13:20～14:10	知財教育の演習	2	長崎県教育庁 高校教育課高校教育班 課長補佐	梅野剛		
	14:20～15:10						
15:20～15:30	閉講式			(独)教員研修センター (独)工業所有権情報・研修館		104号室 (経産省 別館1階)	

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業：C-1） 「新商品開発と起業に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成21年7月27日（月）～平成21年7月31日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	33	人	参加率	82.5%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	13	0	0	1	0	33
割合 (%)	57.6	39.4	0.0	0.0	3.0	0.0	
	32	97.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大学の先生方や企業等の第1線で活躍されている方々から、実践的な内容を具体的にわかりやすく講義をいただき、大変参考になりました。 ・千葉商科大学の先生の講義は、とてもわかり易く、教授方法の勉強になりました。 ・人づくりを行う商業高校の科目で、時代の変化に対応した商品開発の意義と地域の企業、地域の人々、官とのつながりで、新しい開発のヒントを得たと思います。 ・各都道府県の意見交換会の時間や講義9のように、お互いの意見を積極的に発言できる場(時間)があった方がよかった。 ・テーマに沿った内容で、講義・実習・見学と多岐にわたっての学習の方法、具体例があり、とても参考になりました。 ・大変心配りいただき、講師も著名人及び企業の現場で活躍されている方々で、実践的な講話も聞くことができ、とても有意義な研修になりました。ありがとうございました。 ・グループワークをしたり、2班くらいにわかれて各校の事例発表をする時間があれば、よりよかったと思う。 ・事前に課題をだされ、事例をレポート提出等で情報やネットワークを収集することができればと考えた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(商業, C-1)

貴団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
7月27日 (月)					受付 開講式	(講義) 「マーケティング活動を 通じたCSR:企業と社会 を考える」	(講義) 「消費者行動とマーケテ ィング」				
7月28日 (火)		(実習) A班「商品のソフト化と消費技術」 B班「商品開発の視点からの実験実習の活用 について」			昼休み	(実習) A班「商品開発の視点からの実験 実習の活用について」、B班「商品のソフ ト化と消費技術」					
7月29日 (水)		(講義) 「農商工連携による純米酒『ゆめ半島 夢かなえ』の商品開発」			昼休み	移動	(見学と講義) 窪田酒造(株)における『夢かな え』製造現場の見学と講義		移動		
7月30日 (木)		(講義) 「文具における新商品開発の事例」			昼休み	(講義) 「コーセーの ブランドマーケティング」					
7月31日 (金)		(講義) 「商業高校における起業家教育とケースメ ソッドについて」			昼休み	(講義) 見えた商業教 育について」	閉 講 式				

実施会場： 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産：D-1） 「海洋環境の保全に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開 催 期 日	平成21年8月24日（月）～平成21年8月28日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数	14 人	参加率	93.3%
開 催 場 所	茨城県立海洋高等学校（茨城県ひたちなか市）					

※全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	2	0	0	0	0	14
割合 (%)	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・スノーケリングやダイビングの技術や知識はもちろん、その指導者としての心構えを勉強できた事が何よりです。 ・自分の未熟な部分もしっかりと向き合っている素晴らしい研修になりました。学校に戻って練習し、どのように授業を組み立てていくかが課題になってきました。 ・一般のプロインストラクターの方々と違い、学校の教員として指導・研修を組みたててくれたのが良かった。 ・今回研修をやらせてもらいまして、自分ではまだまだ勉強する点が沢山ある事を気づかせてもらう事ができました。 ・トラブルの対処についての実技指導的なものがほしかった。 ・ダイビング時、佐藤先生がトラブルを想定してくれましたが、急にやられると経験も浅い自分達にとってパニックに近い状況になってしまう。前もって何かしらのトラブルがある事を言ってほしかった。 ・自分自身の技術は意識の不十分さを深く確認しました。現在のレベルで生徒に技術指導をおこなえば、確実に事故をおこす可能性があると感じています。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(水産、D-1)

団体名:財団法人社会スポーツセンター

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
8/24 (月)	開講式	(講義) 潜水計画と指導計画 1 海況判断 (3h)			屋休み	準備	(講義、実習) ダイビングにおける水泳・フィン 泳力とスキンドイビングの必要 性 (3h)			夕食/休憩			自由練習
8/25 (火)	筆記テスト	(講義) 潜水医学 減圧症と再圧治療および メデイカルチェック (3h)			屋休み	準備	(講義、実習) 潜水計画と指導計画 2 (指導実践) (3h)			夕食/休憩			自由練習
8/26 (水)	筆記テスト	(講義、実習) スノーケリング指導法 (3h)			屋休み	準備	(講義、実習) 救急蘇生指導法 (3h)			夕食/休憩			自由練習
8/27 (木)	筆記テスト	(講義、実習) 基礎泳力指導法 (3h)			屋休み	準備	(講義、実習) スクーバ指導法 (3h)			夕食/休憩			自由練習
8/28 (金)	筆記テスト	(講義、実習) スキンドイビング指導法および レスキュー法 (3h)			屋休み	(実技検定) 40m水平閉息潜水 400mフリットバー 10分間クロール泳 スクーバ水中脱着 (3h)			閉校式				

実施会場:茨城県立海洋高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-1） 「食育の推進や食生活の変化に対応した食分野の指導についての講義と実習等」								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開 催 期 日	平成21年7月21日（火）～平成21年7月24日（金）			4日間					
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	20	人	参加率	66.7%	
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区） 等								

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	17	1	0	0	2	0	20
割合 (%)	85.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0	
	18	90.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・様々なテーマをもつ講義内容であったが、そのどれもに家庭科教育の重要性、今後の指針があり、とてもよく理解できました。 ・マーケティング戦略といった、今までに受講したことのない分野のお話を伺うことができ、有意義でした。 ・学習指導要領改訂に向けて、不安な面もあり、研修をつむ機会が必要と感じていたところ、参加することができてよかったと思います。 ・フードビジネス、という巨大マーケットの構造を（少しだけですが）現場を見せていただいて、知ることができありがたかったです。 ・講義だけでなく、演習あり実習あり、また行政側、企業、栄養士、大学…と「食育」をテーマにさまざまな立場の方々から学ぶことができ、とてもよかったです。 ・内容的にはどの講座も十分な準備をしてくださり、大変興味深く受講することができました。 ・いろいろなメニューをご用意いただいたおかげで、4日間があつという間に過ぎてしまいました。演習等、授業で役立つ内容だったので、とても助かりました。 ・当初予定をいただいた時には、もう少し実技がやってみたいと思っておりましたが、各先生方が様々な貴重な資料を見せてくださり、有意義な3日間でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 産業技術・情報技術に関する指導者の養成を目的とした研修日程

家庭 E-1

Aコース

全国高等学校長協会家庭部会

テーマ 食育の推進や食生活の変化に対応した食分野の指導についての講義と実習

日時	9:00	9:30 10:00	午 前	午 後	16:30	会 場	
7月21日 (火) 第1日目	受付	【開講式】 (講義) 「家庭科教師に期待される役割」 前長野県篠ノ井高等学校長 21世紀職業財団長野事務所 所長 宮本 照子	昼 休 み	(実践報告Ⅰ) 「目指せスペシャリスト 指定事業への取組」 徳島県立小松島西高等学校 教諭 鷺野 美保子	(実践報告Ⅱ) 「目指せスペシャリスト 指定事業への取組」 山形県立山辺高等学校 教諭 佐藤 吉	全国高等学校 長協会家庭部 会	
7月22日 (水) 第2日目	受付	(講義) 「時間栄養学」 女子栄養大学副学長 香川 靖雄	(講義) 「高校生の身体と栄養」 女子栄養大学短期大学部 教授 岩間 範子	昼 休 み	(講義・演習Ⅰ) 「マーケティング戦略と 商品開発」 女子栄養大学教授 高城 孝助	(演習・実習Ⅱ) 「マーケティング戦略と 商品開発」 女子栄養大学教授 高城 孝助	女子栄養大学 短期大学部
7月23日 (木) 第3日目	受付	(講義) 「栄養士養成を通して考 える食育」 織田栄養専門学校長 名倉千枝子	(実習) 「つかむ・かむクッキング」 織田栄養専門学校 専任講師 秋澤みどり	(講義) 「フードビジネスと食 育」 織田栄養専門学校 教務部長 惟村直仁	(講義) 「コントラクトサービス における食育の取組」 織田栄養専門学校長 名倉千恵子	織田栄養専門 学校	
7月24日 (金) 第4日目	受付	(講義) 「食事バランスガイドを 活用した食育の推進」 農林水産省消費・安全局 消費者情報官補佐 伊佐 寛	(講義) 「食品関連企業における フードビジネスと食育の推 進」 味の素株式会社広報CSR 部学術情報担当課長 外内 尚人	昼 休 み	(講義) 「新しい学習指導要領の 実施に向けて」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【閉講式】 全国高等学校 長協会家庭部 会	

平成21年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(家庭 E-1)

Bコース

全国高等学校長協会家庭部会

テーマ 伝統や文化を重視した衣生活分野についての講義と実習-日本の衣文化や服飾に関する指導の工夫

日時	9:00	9:20 9:30	11:00	11:30	12:00 13:00	14:00	15:00	16:00	16:30	会 場
7月21日 (火) 第1日目	(受付)	【開講式】	(講義) 「家庭科教師に期待される役割」 前長野県篠ノ井高等学校長 21世紀職業財団長野事務所 所長 宮本 照子	12:30 14:00 (講義) 「服飾文化の伝統」 「和装の知識・種類」 装道礼法きもの学院 専任講師 藤森 敦子	昼 休 み・ 移 動	片付け 掃 除	全国高等 学校長協 会家庭部 会 装道礼法 きもの 学院			
7月22日 (水) 第2日目	(受付)	(講義) 「装道の精神美学」 (社)全日本きものコンサルタント協会 会長 山中 典士	昼 休 み	(講義) 「礼法・日本の文化伝統」 装道礼法きもの学院 副学長 山中 緑	(講義) 「伝統の染織」 装道礼法きもの学院 講師 宮下 和彦	片付け 掃 除	装道礼法 きもの 学院			
7月23日 (木) 第3日目	(受付)	(講義) 「和装の生活文化・ 通過儀礼」 装道礼法きもの学院 専任講師 藤森敦子	(実技) 「礼法実技」 装道礼法きもの学院 副学長 山中 緑	昼 休 み	(実技) 「着装の基本一仕上げ」 装道礼法きもの学院 副学院長 松田 美恵子	質疑応答 記念撮影	【閉講式】 装道礼法 きもの 学院			

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-2） 「子どもの発達、子育て支援及び現代の家族関係などについての講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開 催 期 日	平成21年7月28日（火）～平成21年7月31日（金）	4日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	8 人	参加率	40.0%
開 催 場 所	国立大学法人お茶の水女子大学（東京都文京区）					

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	8	0	0	0	0	0	8
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに授業に生かせるものもあれば、保育分野全体のバックボーンになるものもあった。また他県の先生方との情報交換ができたこともよかった。 ・保育に関する講義を受けたことがなく、大学時代にも保育分野の授業はほとんど受けていなかったもので、勉強になることが多かった。 ・難しい講義もありましたが、どの先生方も専門的で、いつでもきける話ではないと思うので、受講できてよかったと思います。 ・保育コースを設置するために、この研修に参加しました。子どもの育やかな発達を願って支援した方法とか、先生方の理論の概論を少し理解できました。 ・直接授業を行うにあたり役立つ内容や生徒や子ども達をとりまく環境について、私の知識として必要であることまで幅広い内容について学ぶことができた研修であった。 ・子どもの育やかな発達を願って支援した方法とか、先生方の理論の概論を少し理解できました。 ・4日間でしたが、あつという間でもっと参加したい勉強したいと思えました。とても充実していてよかったです。 ・臨床については後から資料を読んでもむずかしかったですが、勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭, E-2)

団体名：お茶の水女子大学

日 時	9:30 45	11:00	12:00	12:30	13:30	14:30 15:00	16:30
7月28日 (火)	受付	開講式	(講義) 「子ども発達のキーワード」	(講義) 「今日的家庭の心理臨床的諸問題」	昼休み	(演習) 「地域子育て支援・親との交流方法」	
		(講義) 「発達の気になる子どもたち：LD, ADHD, 自閉症等の理解」	(演習) 「発達の気になる子どもたち：LD, ADHD, 自閉症等の支援」	(講義) 「父親の育児参加」	(講義) 「思春期・青年期の危機と少年非行：親は、教師は何ができるか」		
7月29日 (水)		(実習) 「乳幼児保育の観察」その1		昼休み	(講義) 「子どもへのまなざしと保育理解」	(実習) 「乳幼児保育の観察」その2	
7月30日 (木)		(講演) 「家庭教育における保育教育の課題」	(講義) 「新たな家庭教育に向けて」	交流会	総括：全体協議 「乳幼児理解のための学習指導の新たな創造」	閉講式	記念写真
7月31日 (金)							

実施会場：お茶の水女子大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護：F-1） 「看護師教育の新カリキュラムに対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習」					
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開催期日	平成21年8月3日（月）～平成21年8月7日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	25人	受講者数	23人	参加率	92.0%
開催場所	川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）					

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	4	0	0	0	0	23
割合 (%)	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・普通入れない大学で色々な先生方の話しを聞いた事、全国の高校の先生方と話しができ、共通な悩みetc お互いの現状が知れて良かったです。 ・全国の同じ課題を持つ学校職員同志の横のつながりをもてたことは、今後の大きな力になったと思います。 ・包括医療と同じで、個々の問題解決能力を上げることもですが、それぞれの専門が力をあわせ、コーディネートしてこそ大きな壁をものりこえられると感じました。 ・大学や病院の体制、設備がとても整っていると思いました。研修させて頂き、大変驚いたと同時に勉強になりました。 ・看護職者としての専門性を考えた取り組みがまだまだ甘いと後悔しております。この気付きを大事にしていきたいと考えます。 ・今回の研修を生徒にどの様に伝達して行こうかまとまっていますが、世界の中の看護という捉え方をする必要性を痛感しました。 ・この研修を通して、学生にいかにも還元するかを 考えなければならないと思った。 ・もう少し講義の中でグループワークなど、他の先生方と交流ができる機会があると良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度 産業・情報技術指導者養成研修日程

看護 (F-1) 看護師教育の新カリキュラムに対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習

期 間 平成21年8月3日(月)～平成21年8月7日(金)

会 場 学校法人川崎学園 川崎医療福祉大学(岡山県倉敷市松島288番地)

講習内容

	9:30	10:00	10:30 11:00	12:30	13:30	14:30 15:00	16:30
8月3日 (月)	受付	開講式	「これからの看護教育」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部保健看護学科 教授 山本 八千代	昼食	「看護ケアの本質」 川崎医療福祉大学長 岡田 喜篤	「看護倫理－実践と研究－」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 山本 八千代	
8月4日 (火)	「看護過程と看護情報の共有化」 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科 教授 伊東 美佐江			昼食	「母性看護学教授法」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 鈴木 江三子	「医薬物使用における危機管理」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 守屋 文夫	
8月5日 (水)	「国際看護と教育」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 服鳥 景子	「看護実践能力の育成とEBN」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部保健看護学科 講師 掛田 崇寛		昼食	「川崎医科大学附属病院 卒後臨床研修センター 実習」 川崎医科大学附属病院 看護部 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 大倉 美穂	「川崎医科大学 現代医学教育博物館 見学」	
8月6日 (木)	「看護管理と 卒後教育のあり方」 川崎医科大学附属病院 看護部長 千田 美智子	「カリキュラム改正と 臨地実習指導」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子		昼食	「疾患のある子どもをとりまくチーム医療」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 中新 美保子	「看護職のキャリア 開発」 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 教授 飯野 英親	
8月7日 (金)	「地域・在宅看護学 －難病患者のQOL－」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部保健看護学科 教授 三徳 和子		「包括的地域 ケアシステム」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科長 津島 ひろ江	昼食	「看護基礎教育 の動向」 文部科学省 教科調査官 大橋 泰久	まとめ	閉講式

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報：G-1） 「ネットワークとシステム開発に関する講義と演習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成21年7月27日（月）～平成21年7月31日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	23	人	参加率	92.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	11	11	0	0	1	0	23
割合 (%)	47.8	47.8	0.0	0.0	4.3	0.0	
	22						
	95.7						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修はやはりいろいろな県の先生方と会え、情報交換しながらいっしょに実習できたことが収穫だったと思う。 ・ネットワークの構築・システム開発等、ある程度経験のある内容であったが、新たに発見することが多かった。 ・自分のスキルupのためにはたいへん有意義な研修でした。成果を持ちかえり、研修等を通して全市に広めていきたいと思います。 ・情報教育（小・中・高）の連携に関する内容（カリキュラムの作成）などがあれば、広い視野で情報教育をとらえることができ、有意義だと考えます。 ・全てにおいて興味深い内容だったのですが、残念ながら1つ1つの時間が足りないと感じました。 ・高度なシステム開発をおこなう場合は、講義形式するべきだと感じた。 ・現場をはなれ、リフレッシュという気分も持ちながら研修をうけることができました。アクセスにはこれから積極的にいかわってほしいと思います。 ・情報教育（小・中・高）の連携に関する内容（カリキュラムの作成）などがあれば、広い視野で情報教育をとらえることができ、有意義だと考えます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-1)

貴団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月27日 (月)	開講式	(講義、実習) システム開発技法1 (ACCESS) 並木			昼休み	(講義、実習) システム開発技法1 (ACCESS) 並木	(講義、実習) システム開発技法2 (VBA) 三輪		
7月28日 (火)	(講義) システム開発演習 ガイダンス(システム 開発全般について の説明が、ルーティン 等)野村	(実習) システム開発演習1 並木			昼休み	(実習) システム開発演習 並木	(講義) 文部科学省教科 調査官講話 情報科 永井		
7月29日 (水)	(講義、実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ)1				昼休み	(講義、実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ) 2 SFC福島			
7月30日 (木)	(実習) システム開発演習3 並木				昼休み	(実習) システム 開発演習4 並木	(講義) 講話(新学習 指導要領)商 学科 中澤	(講義、実習) IT事業の展望 (Web関連) 外部講師	
7月31日 (金)	(講義、実習) ネットワーク管理(サーバ構築とWebアプリ)3(シミュレーション分野を含む) SFC福島				昼休み	(実習) システム開発演習5 (発表準備含む) 野村	(実習)システム 開発 発表 野村	結果 発表 野村	閉講式

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-1） 「社会の要請に応える技術分野の指導－新学習指導要領への対応を目指して－」					
担当課グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開催期日	平成21年9月7日（月）～平成21年9月11日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	20人	受講者数	21人	参加率	105.0%
開催場所	国立大学法人宮城教育大学（宮城県仙台市）					

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	21	0	0	0	0	0	21
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「生物・生産」を中心に、現場に使える内容や原理・しくみに関する内容まで、多岐にわたって研修でき、たいへん有意義な5日間でした。 ・工夫されている教材について体験させていただいたり、紹介いただき、学校に帰ったら指導計画を見直し、取り入れていくとともに、地域の研修会等で紹介していきたい。 ・学習指導要領が変わった今、“残したい技術”をキーワードにすると、即効性というより考えさせられる内容でヒントが散りばめられていました。 ・5日間というゆったりとした時間の中で、技術分野の様々な学習をさせていただき、大変有意義でした。 ・全国の技術科の先生方の考え方も十分聞くことができ、勉強になりました。 ・現場のことが意識された研修が多かったので、とても生かせる素晴らしい5日間でした。 ・授業を実践するものとして、何とか生徒に還元できるまで持っていきたいです。 ・レベルの高い難しい講義が多かったように感じます。討議はとてもよかったですと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭 H-1)

団体名：宮城教育大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
9月7日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30- 9:50	(講義) 新学習指導要 領と技術科教 育 10:00-11:00	(講義 (実習を含む)) 思考をひらくー豊かで確 実な授業作りのためにー 11:10-12:40	昼休み	(実習) 木材加工1 (木材加工小作 品の製作) 13:30-15:00	(実習) 木材加工2 (木材加工小作品の製 作) 15:10-17:10			
9月8日 (火)	(講義) 新しいものづくり教材 と技術科教育 9:00-10:30	(講義 (実習を含む)) プラスチック加工 10:40-12:10	昼休み	(講義) 生物育成の教育内容と教材の選択 13:00-15:00	(実習) 教材作物の栽培計画作成法 15:10-17:10					
9月9日 (水)	(講義) 生物育成における新しい技術とその活用 (農薬・肥料・植物工場・バイオテック/ロジック) 9:00-10:30/10:40-12:10	昼休み	(実習) 短期間や狭い場所でも実践できる作物栽培 (ポット・プランター栽培、水耕栽培、棚仕立て栽培) 13:00-14:30/14:40-16:10						(講義) 生物育成の 今後のあり方と課 題 16:20~17:20	
9月10日 (木)	(講義) 風車の形式とエネルギー 変換機構 9:00-10:30	(実習) 風車の設計と製作 10:40-12:10	昼休み	(実習) 製作した風車の評価 13:00-14:30	(講義)LEDと色々 な素材を使ったイ ンテリア照明の製 作1 14:40-15:40	(実習) LEDと色々な素材 を使ったインテリア照明の 製作2 15:50-17:20				
9月11日 (金)	(講義 (実習を含む)) LEDと色々な素材を使っ たインテリア照明の製 作3 9:00-10:30	(講義) エネルギー変換およびエネル ギ回生教材としてのモータ 10:40-12:10	昼休み	(実習) 乾電池自動車の設 計と製作1 13:00-14:00	(実習) 乾電池自動車の設計と製 作2 14:10-15:40	閉講式 15:50-16:20				

実施会場：宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-2） 「社会の要請に応える技術分野の指導－新学習指導要領への対応を目指して－」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開 催 期 日	平成21年8月3日（月）～平成21年8月7日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	21 人	参加率	70.0%
開 催 場 所	国立大学法人鳴門教育大学（徳島県鳴門市）					

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	7	0	0	0	0	21
割合 (%)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方、コンピュータ制御、ネットワークなど知識面でも一歩踏みこんだ内容で、広く身につけることができました。 ・1週間という間で普段なかなか教科研究や講義・ディスカッションなど、たくさんの研修ができ大変有意義でした。 ・教材等、実際の現場で使えそうなものを教えていただき、実践的な研修で良かったです。 ・非常に専門性が高く、自分自身の研修になったことはもちろんですが、それをかみ砕き、生徒に還元できるよう、時間がかかっても活かしていきたいと考えます。 ・初日の講義及び実習、2日目の木材曲げ加工、3日目の制御・計測、4日目のLinuxと非常にレベルが高く、悪戦苦闘の日々でしたが、少なからず私の身についたものと思います。 ・7名のグループ研修という形は大変良かった。鳴門というすばらしい自然環境で研修できたこと、感謝しております。 ・もう少し授業での教材と取り上げ方、考え方等の研修があればというものと、他のグループの先生方とももっと意見交流できる場があればと思いました。 ・中学生の技術・家庭科の学習で活用できる、それぞれの教材をお互いにもちよったり、学習課程の編制について、各学校のものをもちよって討議するという場があればと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名 鳴門教育大学

(教科名, 研修番号) 技術 H-2

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成21年 8月3日(月)		開 講 式	これからの技術・家庭 (技術分野) (上野)		昼休み	計算機器の変遷 (菊地)		計算機教材の開発 (菊地)	
		実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤) 実習 III (菊地)	実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤) 実習 III (菊地)		昼休み	実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤) 実習 III (菊地)		実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤) 実習 III (菊地)	
8月4日(火)		実習 II (伊藤) 実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)	実習 II (伊藤) 実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)		昼休み	実習 II (伊藤) 実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)		実習 II (伊藤) 実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)	
8月5日(水)		実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)	実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)		昼休み	実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)		実習 III (菊地) 実習 I (尾崎)	
8月6日(木)		実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤)	実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤)		昼休み	実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤)		実習 I (尾崎) 実習 II (伊藤)	
8月7日(金)		技術教育デイスカッション (尾崎) 技術教育デイスカッション (伊藤) 技術教育デイスカッション (菊地)	技術教育デイスカッション (尾崎) 技術教育デイスカッション (伊藤) 技術教育デイスカッション (菊地)		昼休み	技術教育 デイスカッション (尾崎, 伊藤, 菊地)		閉 講 式	

実習 I (尾崎) : 材料と加工 (木材の曲げ加工)

実習 II (伊藤) : エネルギ変換と計測・制御

実習 III (菊地) : 情報システムとネットワーク

実施会場 : 鳴門教育大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：I-1） 「学校における食育の推進－技術・家庭科における食に関する指導（講義と実習）－」							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開催期日	平成21年7月28日（火）～平成21年7月31日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	21	人	参加率	84.0%
開催場所	国立大学法人横浜国立大学（神奈川県横浜市）							

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	20	1	0	0	0	0	21
割合 (%)	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 4日間家庭科の授業のことだけ考えることができたのがとても幸せでした。刺激になる有意義な研修になりました。 今後の家庭科教育のあり方を深く考える機会となりました。今後の研究会等でも伝えていきたいと思います。 他県での取り組みや地域・学校の実態に応じた実践を知ることができ、とても刺激になりました。 視点を変えるだけで、いろいろな授業展開ができることと、生徒の実態を踏まえた指導や評価をすることの大切さを強く思いました。 学習指導要領について調査官から話を伺うことができよかったです。 たくさんの資料やデータまで頂きありがとうございました。調理実習の題材も実践しやすいものを用意して頂きありがとうございました。 教育現場の最先端で活躍されている先生方の講義を受けることが出来、大変勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭, I-1)

団体名 横浜国立大学

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
7月28日 (火)			開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 ガイダンス 10:22 事務連絡 ガイダンス	受付	昼食 (講義)「新学習指導要領とこれからの技術・家庭科教育」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:30-12:00	昼食 (講義)「学校における食育の推進ー新学習指導要領を踏まえた食に関する指導の充実ー」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 30分×2人、質疑応答30分 (担当)影山葉子先生(埼玉県新座市立第六中学校教諭) 寺田美代先生(茨城県土浦市立土浦第二中学校教諭) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			
7月29日 (水)				(講義)「ワークショップ」 (担当)堀内かおる/杉山久仁子(横浜国立大学教授/准教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00	昼食 (講義)食の現代的問題1 「食の安全性と食品の選択」 (担当)板垣康治(神奈川県科学技術アカデミー研究員) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩 十分	(講義)食の現代的問題2 「食情報とフードアデザイン」 (担当)高橋久仁子(群馬大学教授) 教育文化ホール 中集会室 14:35-16:00		
7月30日 (木)				(実習)「食品選択能力を高める調理実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学准教授) 教育人間科学部第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食 (講義)食の現代的問題3 「日本の食生活と地域の食文化～ワークショップに關わって～」 (担当)金丸弘美(食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサー) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩 十分	(講義)・演習 「献立作成の指導ー食品群と食事バランスガイドについてー」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 14:35-16:00		
7月31日 (金)				(実習)「献立学習との関連を意識した調理実習」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学准教授) 教育人間科学部第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食 (ディスカッション) 「学校における食育の推進ー技術・家庭科での食に関する指導ー」指導計画案発表 (担当)金子佳代子/堀内かおる(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 講義棟7号館 210教室 13:00-14:30		閉校式 14:40 挨拶 修了証授与 14:55 事務連絡 15:00 閉会		

実施会場:横浜国立大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：I－2） 「幼児ふれ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と実習）」								
担 当 課 グ ル ープ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開 催 期 日	平成21年7月21日（火）～平成21年7月24日（金）			4日間					
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%	
開 催 場 所	国立大学法人東京学芸大学（東京都小金井市）								

※ 全体計画人数 345人、 受講者数 263人、 参加率 76.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	1	0	0	0	0	15
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解とふれあい体験について、新学習指導要領との関連や具体的な内容に至るまで、大変分かりやすい有意義な研修だった。 ・グループディスカッションの後の発表を聞き、全ての受講者がぶれずに幼児ふれ合い体験のねらいと指導法について、ほぼ同じ内容を発表していたのがすごいと思いました。 ・専門的な立場からの、幼児ふれ合い体験の意義や価値について講義を受けられ、現場に戻ってからの実践に大変参考になった。 ・日ごろの実践の中で、感覚としてとらえていたことを、理論的に整理して考えることができました。 ・講義・実習・グループディスカッション等、様々な内容が適切に組み立てられていて、分かりやすく、大変参考になりました。 ・保育観察は、生の保育を見ることができ、大変参考になった。2日間行うことができてよかった。（1日目は戸惑ってしまい、十分観察できなかった。） ・保育園のすばらしい環境に感激しました。物、空間、時間の使い方、活動へのしかけのしかたなど、勉強になりました。 ・保育園実習とそれにかかわる理論について、また保育の社会性といった面で、教材研究する視点が広がったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業・情報技術等指導者養成研修日程
 一 幼児触れ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と演習） —
 (教科名 家庭， 研修番号 I-2)

日 時	9	10	10:30	11	12	13	14	15	16	17
7月21日(火)		受付	開講式 ガイダンス	(講義)「新学習指導要領とこれからの技術・家庭教育」 移行期において、何を残し何を 変えるのか、充実した指導 の在り方を探る。 (担当) 筒井恭子 (文部科学 省初等中等教育局教科調 査官) (会場) 総合教育科学系 研究棟3号館		(演習)「実践事例発表と協議」 人と関わる力を高める幼児理解に関する指導 一 幼児触れ合い体験にどう取り組むかー (パネ ル ディスカッション) (担当) 筒井 恭子 (文部科学省初等中等教育局教科調査 官) 阿部 睦子 (東京学芸大学附属竹早中学校教諭) 金子 京子 (さいたま市立大谷場中学校教諭) 妹尾 理子 (香川大学准教授) 望月 一枝 (秋田大学教授) 倉持 清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 総合教育科学系研究棟 3号館			(講義)「保育観察に 必要なる予備知識を 学ぶ。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准 教授) (会場) 総合教育 科学系研究棟3号 館	
7月22日(水)			(実習)「保育観察II」 約5名ごとに5グループ分け、適宜保育所で観察を 行う。乳幼児の発達、保育園についての理解を深める。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 小金井市立保育園 5園			(講義)「幼児理解I」 保育学習に必要な、幼児理解につ いて学ぶ。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准 教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号 館			(講義)「幼児理解II」 保育学習に必要な、幼児理解に ついて学ぶ。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学 准教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3 号館	
7月23日(木)			(実習)「保育観察III」 約5名ごとに5グループ分け、適宜保育所で観察を 行う。乳幼児の発達、保育園についての理解を深める。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 小金井市立保育園 5園			(演習)「保育観察IV」 観察した内容について保育の専門家法 を交えてグループディスカッション を行う。観察したことを幼児理解に 結びつける。 (担当) 倉持清美・井口真美・岩田 恵子・森本和美・渡辺純子・福田さ よみ (会場) 総合教育科学系研究棟 3号館			(講義)「幼児ふれ合い体験指導 一 幼児と関わるためのスキルとは (担当) 井口真美 (淑徳短期大学 准教授) (会場) 総合教育科学系研究棟	
7月24日(金)			(講義)「幼児理解III」 現代社会における家族・保育の問題についての理解を深 める。 (担当) 田村 毅 (東京学芸大学教授) (会場) 総合教育科学系研究棟3号館			(演習)「幼児ふれ合い体験と幼稚園・保育園側のふ れ合い体験を指して (パネルディスカッション) (担当) 金田利子 (白梅学園大学教授) 伊藤葉子 (千葉大学准教授) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 総合教育科学系研究棟 3号館			(講義)「幼児ふれ合い体験と幼稚園・保育園側の 高識」 閉講式	

実施会場： 国立大学法人 東京学芸大学

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（農業） 「農業及び農業教育に関する講義等」				
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ				
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。				
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。				
開 催 期 日	平成21年8月18日（火）～平成21年8月25日（火）			日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	18 人	参加率 60.0%
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学（栃木県宇都宮市）				

※ 全体計画人数 80人、 受講者数 58人、 参加率 72.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	9	7	0	0	2	0	18
割合 (%)	50.0	38.9	0.0	0.0	11.1	0.0	
	16						
	88.9						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・さまざまな教科、科目を学習させていただき、本当に有意義な研修を受講させていただき、大変感謝しております。
- ・今回の研修を開催していただくにあたり、御尽力いただいた関係の先生方に心から感謝申し上げたいと思います。
- ・環境問題、循環型社会への対応について、さらに学習してみたいと思いました。
- ・講義ではないが、附属農場などに行った時、農場見学があればよかった。動植物の管理方法や研究内容とか、見て知るだけでも活用できると思う。
- ・実技的な研修がもう少しあっても良かった。我々の職種上、実際に実験や実習で生かせると思う。
- ・高校では機材が少ないので、大学でももう少し成分の定量実験などを行ってみたいと思いました。
- ・研修全体で幅広い内容であったが、もっと1つの講義に時間をとって深く詳しい内容の実験実習を取り入れた講義があってもよかったと思う。
- ・授業を通して、成果を生徒に反映できるようにしたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業教育実習助手研修日程

大学名 国立大学法人 宇都宮大学

(農業)

日 時	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
8月18日 (火)			開講式・ オリエンテーション	農学部長 特別講演	昼休み	(講義) 2-① 「植物病理学」 夏秋 知英	休憩	(講義) 3-① 「環境に優しい害虫 防除」村井 保
8月19日 (水) ※1	(講義) 2-② 「生理活性物質」 飯郷 雅之	休憩	(講義) 3-② 「バイオマス資源 リサイクル」 岩淵 和則	昼休み	(講義) 1-① 「精度の高い水稻の収量 構成要素調査法」 高橋 行継	休憩	(講義) 1-② 「精度の高い水稻の収 量構成要素調査法」 高橋 行継	
8月20日 (木) ※2	(講義) 2-③ 「食品廃棄物の 再生利用」 宇田 靖	休憩	(講義) 2-④ 「食品廃棄物に含まれる 有用成分」 宇田 靖	昼休み	(講義) 1-③ 「台地をつくる関東ロー ム層の層位学」 相田 吉昭	休憩	(講義) 1-④ 「台地をつくる関東ロ ーム層の層位学」 相田 吉昭	
8月21日 (金) ※3	(講義) 1-⑤ 「飼料の安全性」 菅原 邦生	休憩	(講義) 2-⑤ 「哺乳動物における生殖 工学の発展」 吉澤 緑	昼休み	(講義) 3-③ 「水田環境の修復」 水谷 正一	休憩	(講義) 3-④ 「水田環境の修復現場 実習」水谷 正一	
8月22日 (土)	(講義) 1-⑥ 「食料問題と農業問題」 児玉 剛史	休憩	(講義) 1-⑦ 「農業と環境の経済学」 加藤 弘二	昼休み	(講義) 2-⑥ 「コラーゲンの生化学」 田中 秀幸	休憩	(講義) 2-⑦ 「コラーゲンの生化学」 田中 秀幸	
8月23日 (日)	休							
8月24日 (月) ※4	(講義) 3-⑤ 「持続的森林生産技術」 田坂 聡明	休憩	(講義) 3-⑥ 「持続的森林生産技術」 田坂 聡明・飯塚 和也	昼休み	(講義) 3-⑦ 「森林環境学」 小金澤 正昭	休憩	(講義) 3-⑧ 「森林環境学」 小金澤 正昭・飯塚 和也	
8月25日 (火)	(講義) 3-⑧ 「食の安全性と生活の中 の重金属」 深見 元弘	休憩	(講義) 1-⑧ 「“右と左”からみた生物 の応答」重川 弘宜	昼休み	(講義) 2-⑧ 「“生物活用”における 花きの役割」 山根 健治	閉講式		

実施会場：国立大学法人 宇都宮大学

教職に関する専門科目 (1単位) 1 農業科教育法 1-①～1-⑧
 教科に関する専門科目 (1単位) 2 農業と生命科学 2-①～2-⑧
 教科に関する専門科目 (1単位) 3 農業と環境科学 3-①～3-⑨

※1 8月19日(水) 大学発12:30 講義開始 13:00 講義終了 16:15 大学着16:45 [会場：附属農場]
 ※2 8月20日(木) 大学発14:45 目的地到着15:15 目的地出発15:45 大学着16:15 [会場：宇都宮市上欠町]・・・移動中も講義
 ※3 8月21日(金) 大学発12:30 講義開始 13:00 講義終了 16:15 大学着16:45 [会場：河内町水田水域]
 ※4 8月24日(月) 大学発8:00 講義開始 9:00 講義終了 16:30 大学着17:30 [会場：附属演習林]

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業） 「工業及び工業教育に関する講義等」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。					
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。					
開 催 期 日	平成21年7月28日（火）～平成21年8月4日（火）	日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	19 人	参加率	63.3%
開 催 場 所	日本工業大学（埼玉県南埼玉郡宮代町）					

※ 全体計画人数 80人、 受講者数 58人、 参加率 72.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	17	2	0	0	0	0	19
割合 (%)	89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・工業の実習助手に必要な専門的分野の知識を深めることができた。 ・全てを総合して、とても有意義な研修でした。私もこの研修で学んだ事を生かし、今後の教育活動に務めていきたいと思えます。 ・最新、最先端の内容で、明日からの子ども達への教育に大きく参考になった。 ・全ての講義が専門外でありましたが、先生方が熱心に講義していただき、感謝しております ・この研修を通し、他都府県の先生方と交流ができ、情報交換をするよい機会となった。 ・研修期間中に日本工業大学の構内の見学（案内）する時間を設けてほしかった。 ・学校に帰り、学んだ事をしっかりと生かしたいと思えます。ありがとうございました。 ・実習助手は実技指導が中心となるので、可能なら実技研修もあると、もっと充実した研修になると感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 21 年度産業教育実習助手研修日程

大学名 日本工業大学

(工業)

日 時	第 1 時限	休 憩	第 2 時限	休 憩	第 3 時限	休 憩	第 4 時限
7/28 (火)	9：20～10：50 閉校式		11：00～12：30 講義 ①② 「工業科指導法」 学習指導要領と教科「工業」に ついて		13：20～14：50 講義 ③④ 「工業科指導法」 工業教育の歴史と使命 工業教育に係る法令について		15：00～16：30 講義 ⑤⑥ 「工業科指導法」 教科「工業」の内容 実験・実習を中核とする工業教 育について
7/29 (水)	講義 ⑦⑧ 「工業科指導法」 (1)特色ある工業高校の取り組み について		講義 ⑨⑩ 「工業科指導法」 (2)特色ある工業高校の取り組み について		講義 ⑪⑫ 「工業科指導法」 「教科・科目の指導について」 グループ討論		講義 ⑬⑭ 「工業科指導法」 「工業高校の活性化を目指すた めに」 グループ別討論
7/30 (木)	講義 ⑮⑯ 「工業科指導法」 工業高校の展望 工業科教員、実習助手への期待		機械システム工学 ①② プラスチック成型		機械システム工学 ③④ マイクロ加工		機械システム工学 ⑤⑥ 金属繊維の応用
7/31 (金)	機械システム工学 ⑦⑧ バイオ燃料製造技術		機械システム工学 ⑨⑩ バイオ燃料製造技術		機械システム工学 ⑪⑫ ロボット工学と今後の課題		機械システム工学 ⑬⑭ 画像処理の基礎から ロボットビジョンへの応用まで
8/1 (土)	機械システム工学 ⑮⑯ 今後のヒューマンインタフ ェース技術		情報通信工学 ①② 情報ネットワークとは		情報通信工学 ③④ ネットワークアーキテクチャ		情報通信工学 ⑤⑥ 通信方式と伝送方式
8/3 (月)	情報通信工学 ⑦⑧ 伝送制御と誤り制御		情報通信工学 ⑨⑩ 変調と多重化		情報通信工学 ⑪⑫ 回路変換と蓄積変換		情報通信工学 ⑬⑭ TCP/IP 通信
8/4 (火)	情報通信工学 ⑮⑯ 次世代ネットワーク (NGN)		閉校式				
8/28 (金)	レポート提出						

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（水産） 「水産及び水産科教育法に関する講義等」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成21年8月24日（月）～平成21年8月28日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	21	人	参加率	105.0%
開 催 場 所	国立大学法人東京海洋大学（東京都港区）							

※ 全体計画人数 80人、 受講者数 58人、 参加率 72.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	15	6	0	0	0	0	21
割合 (%)	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義を受けたあとに興味がこれからも続きそうなテーマがいくつか見つかりました。ありがとうございました。 ・ 時間内のレポート提出が良かったと思います。 ・ 専門以外の様々な内容にふれることができて大変参考になった。 ・ シーカヤックや海鷹丸など体験的な講義もあり、とても有意義でした。 ・ 栽培、食品、漁業系が中心になっているので、1コマでも良いので機関のものを取り入れてほしい。 ・ オムニバス形式講義ということで、各講師の方々の様々な講義を受講できた事は良かったが、課題ばかりになってしまい、非常に大変だった。 ・ 授業・実習を通じて生徒に少しでも伝えたい。 ・ 3年に1回の研修であったが、年々研修内容が最先端の内容なので良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成21年度産業教育実習助手研修日程

大学名 東京海洋大学

(教科名) 水産

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
8月24日(月)		開講式	休憩	(講義) 海洋科学通論1	昼休み	(講義) 水産科教育法1	休憩	(講義) 水産科教育法2	休憩	(講義) 海洋科学通論2
8月25日(火)		(講義) 海洋科学通論3	休憩	(講義) 海洋科学通論4	昼休み	(講義) 水産科教育法3	休憩	(講義) 水産科教育法4	休憩	(講義) 海洋科学通論5
8月26日(水)		(講義) 海洋科学通論6	休憩	(講義) 海洋科学通論7	昼休み	(講義) 水産科教育法5	休憩	(講義) 水産科教育法6	休憩	(講義) 海洋科学通論8
8月27日(木)		(講義) 海洋科学通論9	休憩	(講義) 海洋科学通論10	昼休み	(講義) 水産科教育法7	休憩	(講義) 水産科教育法8	休憩	(講義) 海洋科学通論11
8月28日(金)	移動	(講義) 海洋科学通論12 ※海鷹丸で実施	(講義) 海洋科学通論13 ※海鷹丸で実施	移動	昼休み	(講義) 海洋科学通論14	休憩	(講義) 海洋科学通論15	休憩	閉講式

実施会場：東京海洋大学品川キャンパス